

建築と社會

昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和28年7月25日印刷 昭和28年8月1日發行

The Architectural Association of Japan

新建築紹介

富士フィルムビルディング.....	1
新阪神ビルディング.....	5
臨武ビルディング.....	9

☆変遷と見通し特集☆

記事欄

近代建築構造の發展.....	横 尾 義 實...11
田園都市から近隣計画迄.....	三 輪 雅 久...15
施工法の變遷と將來の見通し.....	日 野 勝 好...20
戦後における住宅問題のうつりかわり.....	扇 田 信...22
建築運動の變せん和新しい建築運動.....	綱 谷 祐 規...26
国土開發の變せんを見通し(その1 アメリカの部).....	松 井 光 夫...30
建築事務所35年回顧.....	池田谷 久 吉...34
我が半生を回顧して ——建築界の變遷——	井 上 民 治...36
私たちの建築史(7).....	林 野 益 孝...39
城口君・谷さん・中之島.....	藪 中 一 良...46
會員の聲.....	42, 43
九州だより(第2信).....	44
和歌山だより(第1信).....	45
會 報.....	49

日 本 建 築 協 会

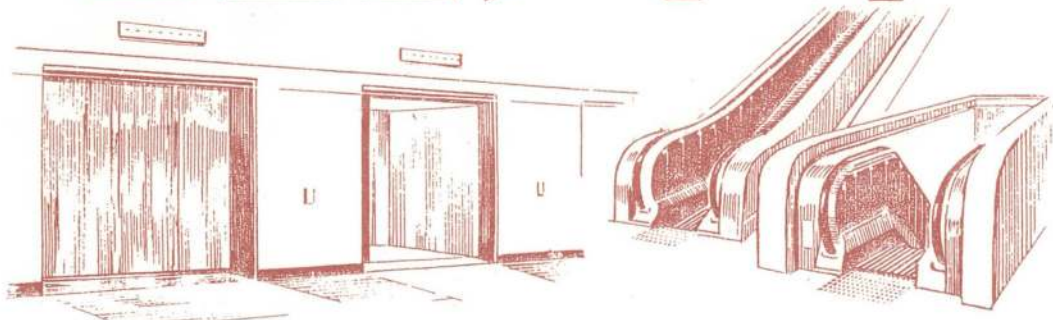
Heastle Kemmer

Vol. 34
1953

8

HITACHI

快適な運行！ 日立エレベータ



各種 エレベータ 電動階段 ダムウエータ

東京 大阪 名古屋 福岡 仙台 札幌

日立製作所

シックで清潔！

サンウォール
(珪華化粧板)

新感覚の建築の

SUNWALL



は新しい資材の利用

により一層輝きを増します

日進月歩の建築界に
サンウォールの出現は
新しい一頁を書き加へ
ました。

サンウォールの高性能は次の三つの点で然も経費
の節減になります。

- ①軽くて丈夫で施工が簡単
- ②耐火・耐水・耐薬品性
- ③色調自在で褪色せず

最近主なる完成例

- ・大阪そごう百貨店1階底
- ・東京野村證券ビル化粧室

カタログ贈呈

- ・東京営業所
- ・名古屋代理店

千代田区霞ヶ関3の3(鋼鉄ビル)電話銀座6111~5

日商名古屋支店(中区木曽町8の33)電話本局3175)

(用途)住宅…厨房、浴室、便所、子供室、家事調度…公共建築…ビルディング、学校、事務所、工場、劇場、各種商店等人の出入の多く清浄を必要とするところ

本社 大阪市北区宗室町1大ビル7階758号 電話土佐堀(44) 1115-5520

工場 兵庫県明石市大久保町大久保通111 電話 大久保 39

サナワール工業株式会社



アメリカ式技術を導入し日本で初めて完成され各界に一大センセーションを巻き起してゐます

アサヒビール西宮工場増築建物並醸造状況見学会

アサヒビール西宮工場は新しく増築され、アサヒビール吹田工場に次ぐ偉容は私等の関心をそそつている。この度、竹腰会長の御幹旋に依り本会会勢委員会と兵庫支部共同主催の下に工場見学を開催致します。設計は竹腰建築事務所、施工は大林組で工場の規模は敷地3万6千坪、今度新築された精麦工場1500坪、仕入貯酒工場750坪、鉄骨鉄筋コンクリート工場で、工場の年間生産高は25万石。近代的設備を誇っている。何卒下記に依りお友達おさそい合せの上、多数御参加下さるようお願いいたします。

日	時	8月26日(水) 午後3時 時間厳守
集 合 場 所		西宮市津門大塚町二六アサヒビール正門前(阪神国道電停北今津下車東へ半丁)
会 費		50円 参加人員80名先着順締切
申 込 場 所		日本建築協会天神橋分室

日本建築協会会勢委員長 浅沼猪之吉 兵庫支部長 吉田信武

建設技術映画研究の夕

最近の水害状況に鑑み、我ら技術者は広く諸外国の治水工事映画を観賞せんとの会員の希望に答えて、今回下記の如く五団体は映画会を主催します。座席にも制限がありますので御見逃しならぬよう、お早く御申込下さい。

日	時	9月4日(金) 午後5時20分
会 場		大阪ガスビル講演場
映 画		フーバーダム物語 ヴォルガ・ドン運河 アサヒニュース(水害関係)
会 費		50円(整理券)
申 込		整理都合上、日本建築協会朝日ビル事務所、天神橋分室宛会費と引替に整理券受領の事、但満員次第先着締切る。
主 催		日本建築協会、日本建築学会近畿支部、大阪建設業協会、大阪建築士会、大阪教職員組合大学部
後 援		朝日新聞社

○フーバーダム物語 アメリカコロラド河の征服を企てた、夢が現実になった、フーバーダム物語映画。

○ヴォルガ・ドン運河(天然色) 自然改造の先頭をゆくソヴェトのドンとヴォルガを継ぐ運河建設映画。

○アサヒニュース 最近の水害地状況映画。 以 上

和歌山支部会員各位に御見舞申上げます。

今次水害で相当御被害の会員の方に対し聊か御見舞申上度(会費半々年分免除)該当者は、御手数ながら支部を通じ御申出願います。

九州水害の惨状消去りやらぬ7月18日同じ水禍が和歌山県下を襲い又稀有の大天災を蒙られた事は人力の如何共すべからざる事とは云へ真に啞然たるものであります。罹災各位に心からなる御同情を申し上げます。取敢ず書面を以て御安否伺いましたが切に会員各位の御安泰と御健康を祈り一日も早く復旧ならん事を念願いたしております。水害に関する短信御寄稿頂いた各位に紙上よりお礼申し上げます。

昭和28年8月1日

社団法人 日本建築協会会長 竹腰健造

三井信託銀行新築現場鉄骨電気溶接工事見学会

只今、御堂筋に於て工事中の三井信託銀行ビルを竹中工務店の御好意により見学することになった。この建物の鉄骨構造は全部電気溶接で、日本施工界では珍しい特色ある工事である。設計は市浦建築事務所、施工は竹中工務店で、地上六階地下一階の鉄骨コンクリート造建築で、目下工事中なる為見学人員に制限があるので、御見逃しならぬよう、早く御申込下さい。

日	時	8月25日(火) 午後3時
集 合 場 所		南区三ツ寺町20番地(御堂筋道頓堀橋バス停留場下車北へ二ツ目筋東側角)
会 費		30円 参加人員50名先着順締切

建 材 陳 列 場 開 設

(市内東区北浜5丁目 日建設計工務KK内)

戦前建築協会は朝日ビルに、建材協会は曾根崎に、夫々 100有余の小間を有する常設の建材陳列場を持っていたが、戦争のため何れも閉鎖の止むなきに至つた。戦後これが復活に努めていた所、今般日建設計工務株式会社格別の御協力と御援助により、同本社入口横の一室を提供されたので、同所に49小間のサンプルケースを設け8月1日より開場することになった。スペースの関係上充分ではないが将来の大成を期している取敢ず3ヶ月毎に展示資料を更新し、なるべく多種多様の資料を展示して一般の期待に添いたいと念願し努力中である。一般の御観覧を得て御指導と御後援を賜りたい。

昭和28年8月1日

日本建築協会 関西建材会

建材優良証明有効延長の件

昨年発行した証明中、下記4件は有効期間満了の処、今般夫々有効延長方申出あつたので7月7日建材審査委員会にて再審査の結果、更に1ヶ年間優良と認める事に決議し更新優良証明を発行した。

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 防火塗料タイネン2号 | 関西ペイント株式会社 |
| 1. ナニワS瓦 | ナニワ瓦株式会社 |
| 1. 三星印石綿ギルソイドルーフィング | 田島応用化工株式会社 |
| 1. 三星印アスファルトタイル | 田島応用化工株式会社 |

以上各通共特徴は当初発行の通りである。

○追而現在有効期間満了となつてゐるものは下記の通りである。

平安瓦 佐村木商店。波型スレート 朝日石綿工業株式会社。波型スレート 盤城セメント株式会社。銅付金物サポート オーケー商会。エマコート(塗料) 日本塗料化学株式会社。厚型スレート 和歌山スレート株式会社 以上

社団法人 日本建築協会建材審査委員会

建設資料便覧発行予約を募る

今春準備中の上記発行については目下委員の手許で鋭意整理に努め8月より印刷に着手11月発行の運びに進捗している。内容は仮設、土工、杭打、防水、鉄骨、煉瓦タイル、石材、木工、左官、金属、建具、塗装、内装、硝子、コンクリート、屋根、管工、電気、設備等20余種目に亘り夫々の部門につき簡結した梗概を記し各関係業者 300余の案内欄を附し一般設計、施工、技術家並学生諸君の参考となる様編集されているB5型装幀上製約400頁であるが記念事業として特価¥350.00 送料実費で予約申込を歓迎している。(予約以外は¥400.00以上となる見込み) 此際多数申込あらん事を切に御奨め申上げる。

昭和28年8月1日

日本建築協会卅五年記念事業出版委員長

尾崎久助

外 装

南及び西面

腰（2階窓上迄）黒御影石貼

柱型廻り 稲田御影石貼

外 壁 1寸8分角モザイクタイル貼
目地タイル 8分角モザイク
タイル貼

バラベット上部 2丁掛タイル貼

東面上部 南及び西面に準ず

北 面 バラベットは西、南面同断
一般は色モルタル掻落し仕上

設 計 監 理

株式会社 東 畑 建 築 事 務 所

施 工

建築工事 株式会社 大 林 組

冷暖房設備 株式会社 建 材 社

電気設備工事 浅海電気産業株式会社

衛生設備工事 三機工業株式会社

昇降機設備工事 株式会社 日立製作所

家具設備 宮崎木材工業株式会社

同 上 内外木材工業株式会社

同 上 大和工業株式会社

ブラインド設備 株式会社 高 島 屋

映写設備工事 アクメ貿易株式会社



全 景

富士フイルムビルディング

概 要

建築位置 大阪市東区備後町4丁目15～19番地

建築工期 本館 起工 昭和27年1月20日

竣工 昭和28年5月6日

別館 起工 昭和28年2月7日

竣工 昭和28年7月31日

敷地面積 212,022坪

建築面積 本館 144,50坪 別館 47,47坪 計 191,97坪

延 面 積 本館1,191.73坪 別館246.59坪 計1,438.32坪

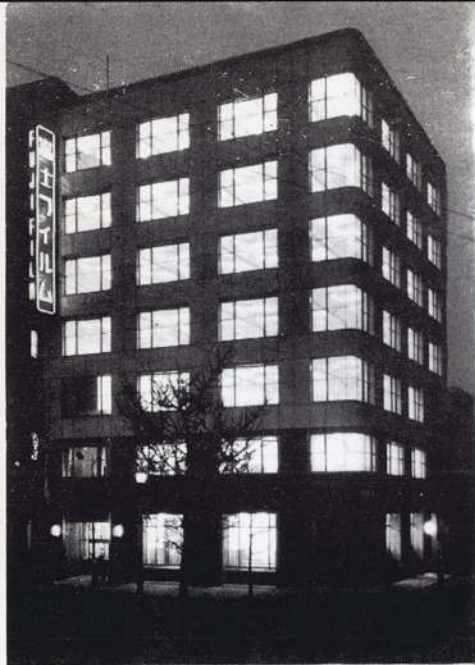
主体構造 本館 基礎 生松丸太杭打 鉄骨鉄筋コン
クリート造

別館 基礎 コンクリート杭打 鉄筋コン
クリート造

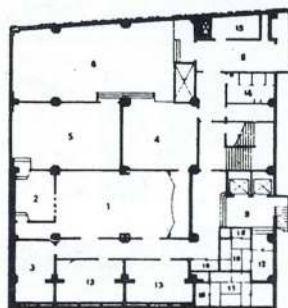
階 数 本館 地下1階 地上7階 塔屋付

別館 地上5階 塔屋付

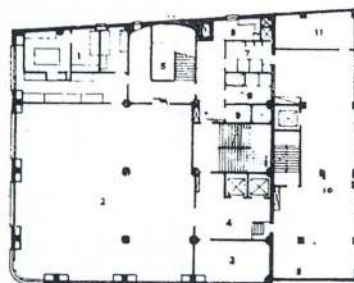




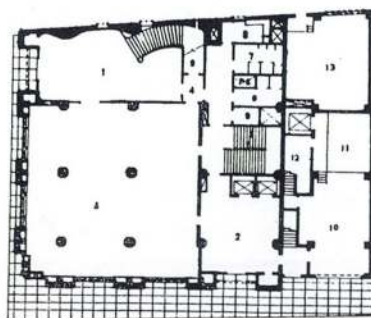
夜 景



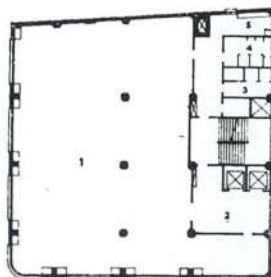
地 階



3階 (別館4~5階)



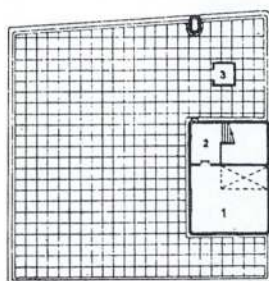
1 階



4~7階



2階 (別館2.3階)



屋 上

坪	数
本 館	
地 階	162.25坪
1 階	144.50坪
7 階	
塔 屋	17.98坪
別 館	
1 階	47.47坪
2 階	48.785坪
5 階	
塔 屋	3.98坪
総 計	1,438.32坪

地	階	
1	試映	寫 室
2	映 庫	寫 室
3	金 庫	寫 室
4	冷 凍	機 室
5	電 機	氣 室
6	機 重	油 タ ン
7	ボ シ	ン プ
8	エ レ	ベ ー タ ー
9	使 宿	用 人
10	湯 沸	直 炊 事
11	更 便	衣 室
12	ダ ス	ト 処 理
13	物	入 室
14		
15		
16		

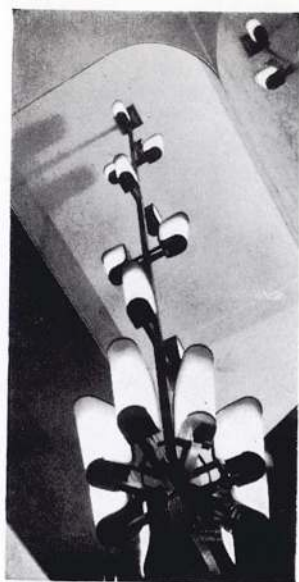
1	階	
1	表 裏	広 間
2	裏 營	前 小
3	女 子	便 所
4	男 湯	物 車
5	荷 係	員 詰
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

2	階	
1	重 事	電 話
2	電 話	交 換
3	エ レ	ベ ー タ ー
4	表 女	子 便 所
5	男 湯	物 車
6	荷 係	員 詰
7		
8		
9		
10		
11		

3	階	
1	暗 事	予 務
2	予 務	備 室
3	エ レ	ベ ー タ ー
4	表 女	子 便 所
5	男 湯	物 車
6	荷 係	員 詰
7		
8		
9		
10		
11		

4 ~ 7 階	
1	事 務
2	エ レ
3	女 子
4	男 湯
5	湯 沸

屋 上	
1	エ レ
2	階 段
3	フ ァ ン



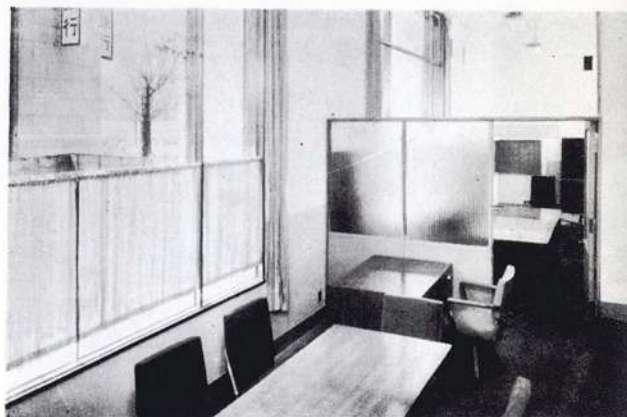
表玄関シャンデリヤ

表 玄 関 1 階

床 トラバーチン貼
 腰、壁 大理石(茶竜紋)貼
 天井 プラスター塗 一部
 間接照明



所 長 応 接 室

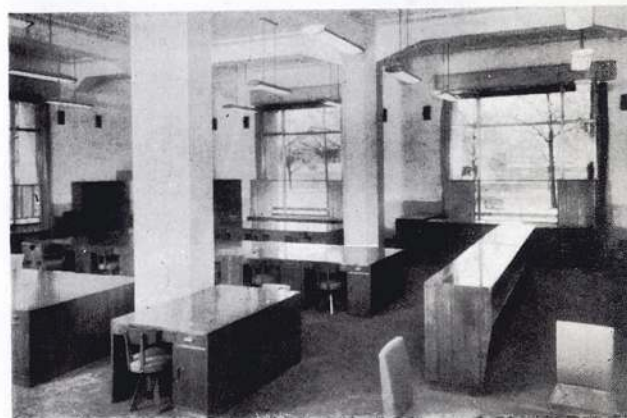


各階事務室(1~7階)

床 リノリウム敷
 巾 木 テラゾーブロック
 腰 プラスターペイント
 仕上
 壁 プラスター塗
 天井 同 上

1 階 営 業 室

床 リノリウム敷
 巾 木 テラゾーブロック
 腰 プラスターペイント
 仕上
 壁 プラスター塗
 天井 同 上

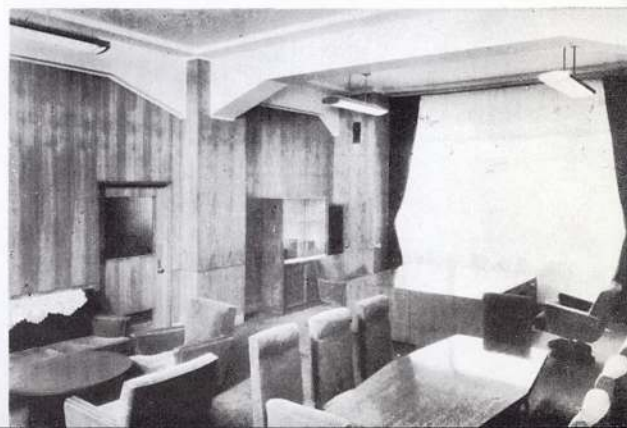
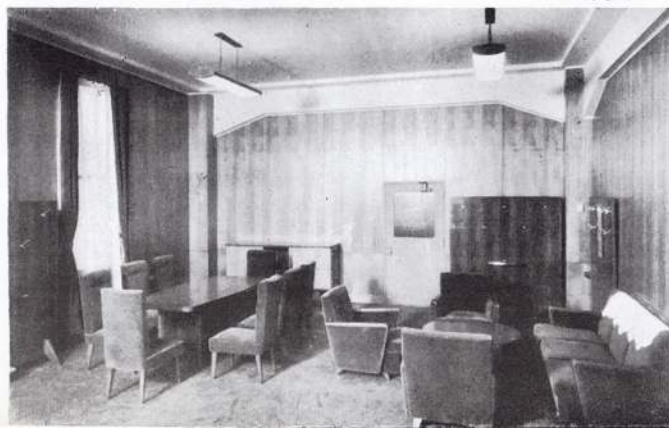


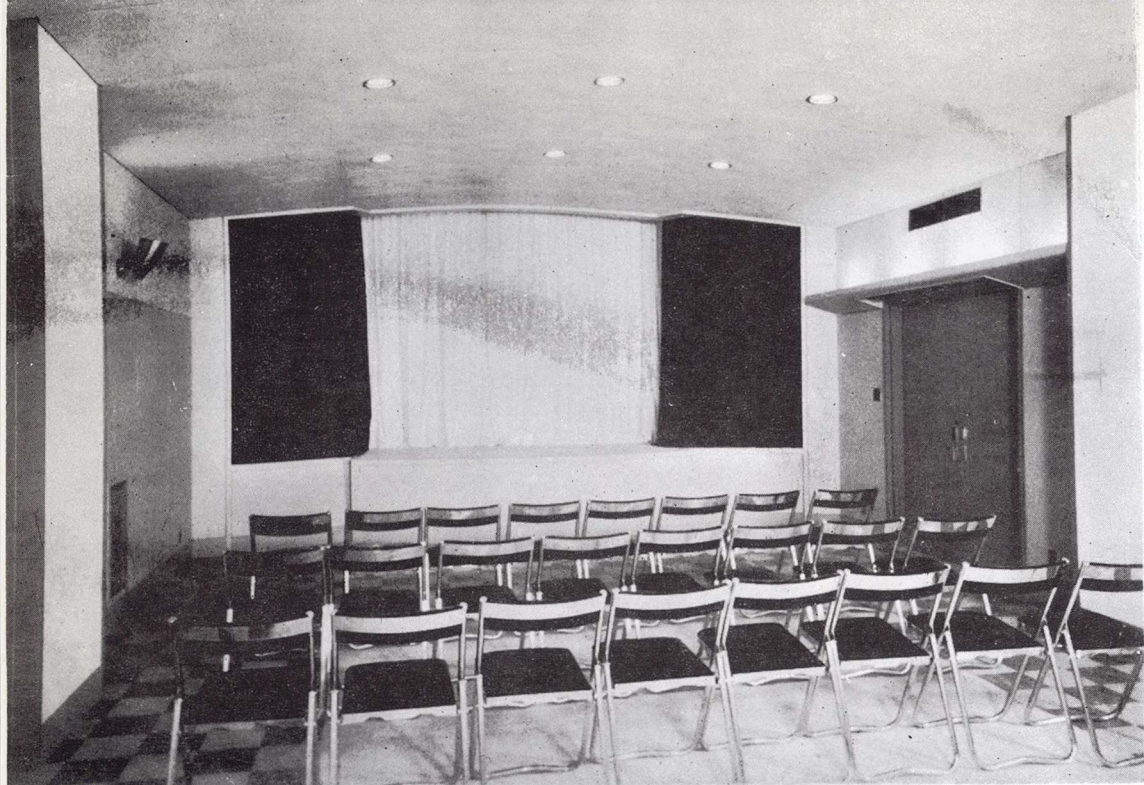
重 役 室

床 リノリウム敷
 腰、壁 特殊ベニヤ(桧)貼
 天井 プラスターペイント
 小叩き仕上

重役室 ↓

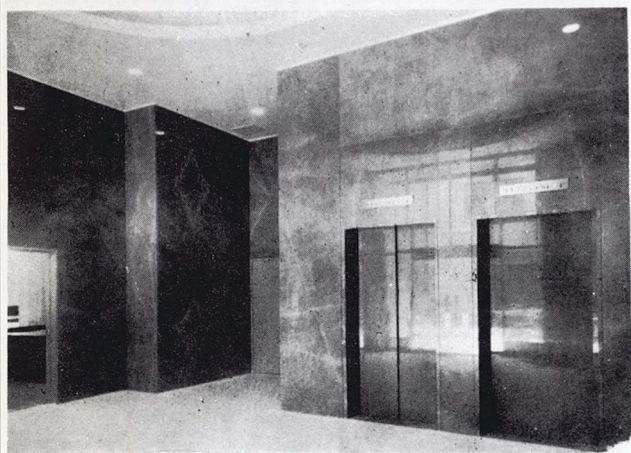
重役室 ↘





試写室(地階)

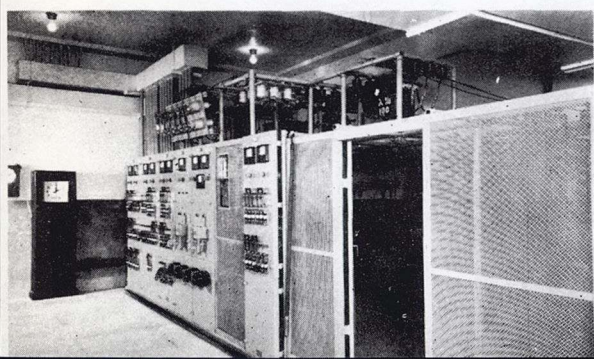
- 床 アスファルトタイル貼 一部モルタル仕上
- 巾 木 木製ペイント仕上
- 腰 ペニヤ板貼ペイント仕上
- 壁 ハードテックスペイント仕上 一部
ヒル石プラスター仕上
- 天井 ハードテックス貼ペイント仕上



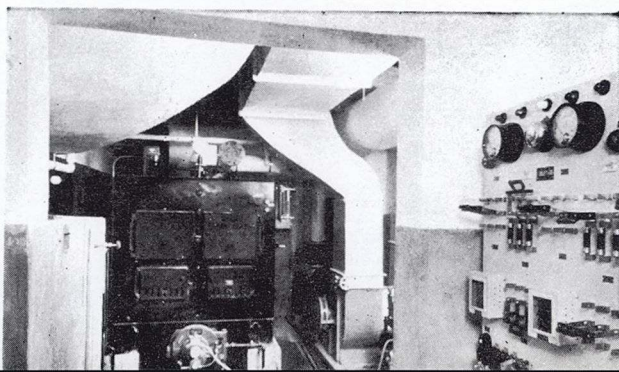
裏広間(エレベーターロビー、1階)

- 床 テラゾー研出し 真鍮目地切仕上
- 腰、壁 大理石(長州カスミ)貼
- 天井 プラスター塗 一部間接照明

電気室



機械室





新 阪 神 ビ ル デ イ ン グ

監 理 阪神電気鉄道株式会社工務部

設計施工 株式会社 大 林 組

概 要

建物名称 新阪神ビルディング

建物位置 大阪市北区梅田町47

敷地面積 977. 坪97

建築面積 878. 坪252

建築床面積 延坪5, 772, 450

建物構造 基礎は「ペデスタルパイル」2階床

上1.1米迄は鉄骨、鉄筋コンクリート

造それ以上は鉄筋コンクリート造9

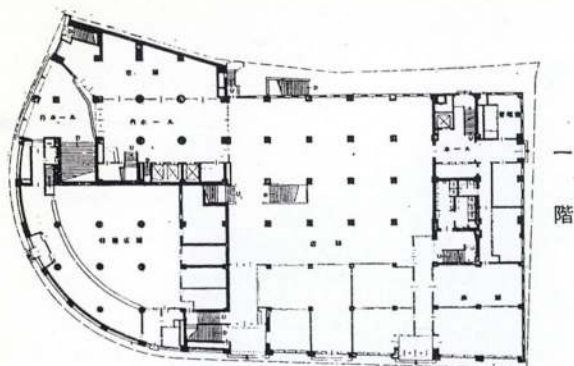
階建

既設電車隧道上部は地上2階建

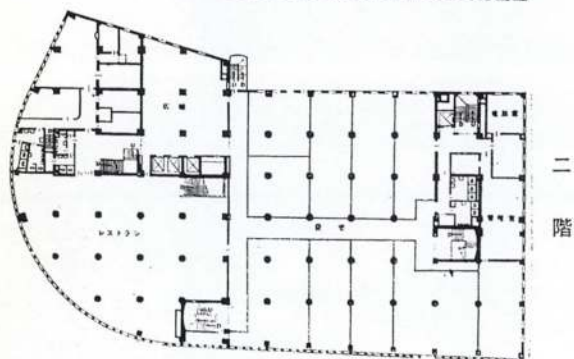
建築物高 (標準地盤線より)

9階建の部分 31,000米

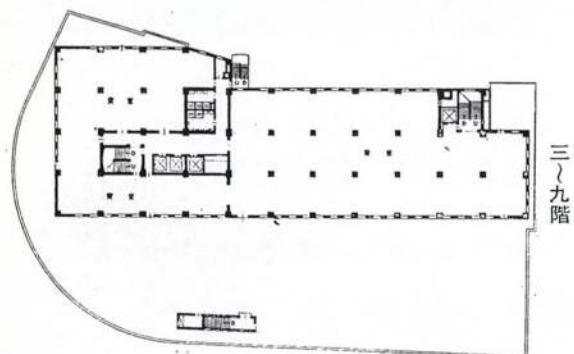
階 別	坪 数	用 途
地 下 1 階 中	936.484 8.463	店 舗・レストラン 電気室・諸機械室・倉庫
1 階	856.708	ホ ー ル・店 舗
2 階	872.276	店 舗・事 務 室
3 階	429.279	事 務 室
4 ～ 9 階	423.052×6	事 務 室
塔座 1 ～ 2 階	50.464×2	電気室・水槽・エレベーター 其 他・機 械 室
合 計	5772.450	



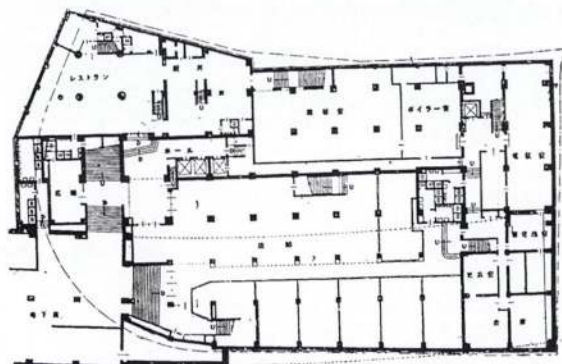
一
階



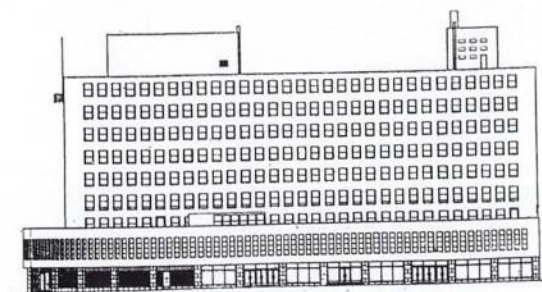
二
階



三～九階

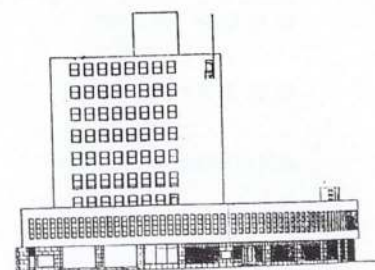


地
階



北
面
図

夜 景



東
面
図



銀行客溜

床 テラゾー研出真鍮目
入地
壁 テラゾーブロック貼
ガラス ブロック特製大型
天井 漆喰ペンキステップ
ル仕上
出納スクリーン 枠ホワイ
トブロンズ磨硝子入

喫茶室

正面ステージ 壁裂地貼黄色ペロ
アー
床 テラゾー研出真鍮目地入一
部リノタイル貼
壁 プラスター
上設室との境手摺は塩地クリヤラ
ッカー 手摺子はスチール製エン
ジ色仕上



ファーマシーの ソーダーファンテン

カウンター天板 本漆塗
同腰 桜コペンハーゲン・リブ
腰掛 朱色ビニールレザー貼
壁 塩地ベニヤクリヤラッカー
塗
天井 漆喰TX塗



重役室（神鋼金属）

床 スポンジの上に絨毯敷詰
壁 センダンベニヤ、クリヤラ
ッカー仕上
天井 漆喰塗TX塗
飾棚 内部壁絹裂地貼





1 階 階 段 室

エレベーター枠及扉 ラッカー、灰青色焼付

階 段 手摺 エビ茶色ラッカー吹付

手摺子 ステンレススチール

段 テラゾー研出真鍮ノンスリップ

正面鏡嵌込

右手のショーウィンド 腰 ゼヴラウッドベニヤ

枠 ホワイトブロンズ鍍金



1 階 エレベーターホール

床 テラゾー研出、鮮明な群青と灰青色 朱と

クリームの模様入り

地色クリーム

壁及円柱 テラゾーブロック貼

天 井 漆喰塗TX塗

電燈蛍光灯埋込ルーバー付

商 店 内 階 段

両側壁 テラゾーブロック

手 摺 ステンレススチール製パイプ

段 テラゾー研出真鍮ノンスリップ付



附 帯 工 事 関 係 者

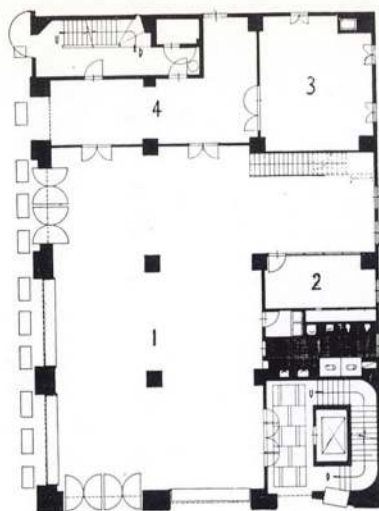
冷房設備工事 関西暖房株式会社

暖房設備工事 高砂熱学工業株式会社

電気設備工事 中央電気工業株式会社

衛生設備工事 須賀工業株式会社

昇降機設備工事 株式会社 日立製作所



一階 1 売 場
2 応 接 室
3 倉 庫
4 荷 捌 所

福武ビルディング

建築位置 大阪市東区南本町二丁目40〜41番地
設計施工 清水建設大阪支店
建築面積 建坪129.坪66 延坪1159.坪89
構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造
階 数 地下1階地上8階建
軒 高 地 上 96.50尺
深 さ 地 盤 面 下 11尺



外 装

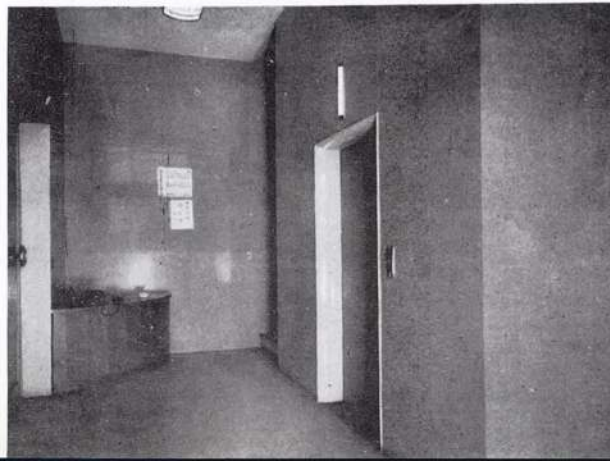
壁 1階柱型黒御影水磨 2階〜
7階壁2丁掛タイル縦張
8階モザイクタイル帳
屋根仕上 アスファルト防水の上シンダ
ーコンクリート打防水モルタル塗

1階 貸室玄関エレベーターホール

床 テラゾー 研 出
腰 テラゾーブロック
壁 プラスター
天井 プラスター

1階 売 場

床 テラゾー 研 出
壁 テラゾーブロック
天井 プラスター 塗





● 近代建築構造の発展 ●



横 尾 義 貫

は し が き

建築構造はそのスケールの大さきの故に、工芸品等とはちがつて、構造を規定する外力のうち重力が卓越し、その作用に方向性があり、恒常性があり、しかも工芸品等の強さを規定する人力程度の力に比すれば、はるかに order の高い値をもっている。そして私どもはかゝる永劫に働きつづけている重力の作用に対しては、またそれに抗する構造材の働きについてはかなりするどい感覚をもっており、構造に対して多少とも一つの生々しい力の働きを感受するものであると私は考えている。私はこれを力感とよんでいる。力感のありかたは構造が建築の存在の第一条件であるように、建築の表現の基調をなすものであると思つている。近代構造の発展のあとをかえりみ、新構造がどうして成立し、どのように建築に受容されたかということは、純粋に構造技術の立場からばかりでなく、上の如き見地から建築家にとつても興味深いものがなければならぬと思つている。

構造の形は構造材料によつて、その特性に則したものとなる。産業革命が多量の鋳鉄、鋼をもたらし、鉄材が新たな建築構造材料として登場し、19世紀に近代建築の骨格をなす frame structure を形成せしめた。これは Giedeon の Space, Time and Architecture, Bauen in Frankreich に詳細にとりあげられているところであるが、私はまず、彼に従つて19世紀における鉄骨構造の発展を “Toward Frame Structures” としてたどつてみたいと思う。それから19世紀の末になると、も一つの近代建築構造の骨組をつくつていく鉄筋コンクリートが実用の域に入る。そして今世紀に入つてから著しい発達

をとげ、ついにその特性を十分発達したさまざまな平面や曲面構造が生まれる。これについては “Toward Surface Structures” としてのべてみたいと思う。

Toward Frame Structures.

「鉄材以前」——石と木 エジプト、アッシリヤの上古から、鉄骨構造の出現まで、木と石と煉瓦は建築の主体構造を構成する材料であつた。木と石とは力学的性格をことにする。そしてそれぞれに応じた構造を成立せしめた。木はいわゆる tensile material であり、圧縮、引張、曲げに対して均衡のとれた強度をもち、かつ直材として産出される。このような木材が作り出した構造は軸組構造 frame structure であつた。そしてその力学的作用は、真壁造りとして柱、桁を露出することにより、外に明らかに表現するような手法が多くとられていることは周知のとおりである。

一方石あるいは煉瓦はいわゆる nontensile material であり、圧縮に比して引張、曲げにきわめて無力であるとともに、はなはだ重量のある構造材料である。石材はギリシャの列柱のように、はじめは木材にふさわしい軸組構造の形体をとつたが、やがて迫持作用をなすまぐさをもつた縦長窓をあけた、遮断の働きと同時に柱の作用をする厚壁造りとなり、そして屋根には Barrel Vault や Dome が架け渡された。いわゆる Masonry の構法を完成した。

Masonry構造は素材が石や煉瓦のブロックからなる関係上、木構造に比すれば、形体の自由があり、Basilica のような、応力を壁体に等分布させるような壁構造のも

の、あるいは gothic 寺院のように比較的応力を集中的に分布させた構造も造りだした。しかし石材は non-tensile であり、短スパンの場合をのぞき梁作用は回避され、共通した独特の力感をもった構造であつた。

日本の建築は古来木構造の軸組構造を骨格とし、ヨーロッパのそれは Masonry 構造を主体とし、それぞれの力感を経緯として伝統的な建築の意匠はおり出されたのであつた。

鉄材の出現、このような伝統的な構法とその上にきずかれた建築に、構造材料としての鉄材出現は19世紀に至つて構造を内部からついに外部まで変革し、建築意匠にも大きな変貌をもたらすにいたる。

鉄が構造材料としてもちいられるようになるのは18世紀の終り頃からである。製鉄に昔は木炭を燃料としていたが、18世紀の中頃、英国の A・ダービーはコークス熔鉱炉によつて多量の鉄鉱の生産に成功し、彼ははじめて Coal brook dale の Severn 河にスパン 100 尺の初めての cast iron アーチ橋を建設した。この頃より建築構造にも局部的に、工場の柱あるいは小屋組等として cast iron が散見されるようになり、こゝに鉄骨構造の胎動が始まる。

Frame Structures の胎生期 鉄材構造は、木材のように圧縮、引張、曲げの各種程度の均衡がとれた tensile material であり、梁、柱式の軸組構造がそれにふさわしい形体である。そしておどろくべきことには 1801 年にすでに蒸気機関で有名な watt 等によつて英国の Salford 軸組構造による 7 階建の工場が出現する。外壁は煉瓦造であつたが内柱、床 I 型梁は cast iron 製であり床は煉瓦のアーチにコンクリート打ちしたものであつた。この早い時期にすでに Frame Structures が外廻りはともかくとして、およそその形体をととのえたという事実は注目に値することである。「建物」(Bauten) にかくのごとく Frame structures の先驅はすでに 19 世紀の初頭に技師達によつて、出現せしめられるのであるが、その後当時の人達の考えている「建築」(Architectur) の分野における成長は遅々たるものがあつた。1950 年にいたり始めて仏国の Henri Labrousse によつて St. G  n  vi  ve 図書館において、内部に上から下まで軸組方式がとり入れられた。しかしなお外壁は massive な煉瓦の壁体でかこまれていた。なお彼は当時の建築家の中でもつと新しい思想のもちぬしで、設計したものには王宮の如きものはなく、捕虜収容所、病院、図書館のような建築であり、「プランを気候、材料、プログラムの要求によつて作り」、「構造に建築の最奥所の相をみ、外観は単に表皮と考えた」、「1830 年代の改革の熱情に燃えた世代に属する人」であつたという。

その後英国では 1851 年の万国博に、有名な水晶宮が鉄骨とガラスによつて作られる。また仏国では鉄骨の梁、柱をもつた百貨店、例えば L. C. Boileau と、Eiffel 塔で有名な Eiffel との協力になる Magasins au Bon March   (1876) 等その他他多くの鉄骨構造の建築がつくられた。しかしなお工場をのぞいては鉄骨構造は内部にとゞまり、外部は Salford 工場以来 4 分の 3 世紀を経過したにもかかわらず、依然として Masonry 構造の建築の意匠がほどこされていた。

Frame Structures の誕生 ヨーロッパでは、このように鉄骨構造が建築の内部にはかなり成長をとげていたが、縁の下の力持ちにとゞまり、伝統的な Masonry の外壁を変貌させるにはいたらなかつた。しかし伝統にとらわれぬ、海をこえた新大陸の米国においては、勇敢な試みがなされ、遂にこの大地ではじめて鉄骨にふさわしい近代的な Frame structures がその形態を獲得するに至るのである。すでに 1850 年代において、万能な技術者が watchmaker-ironworker-engineer そして inventor である James Bogardus を始めとする人々によつて cast iron による柱、桁その他建築のパートを作り建築のプレファブがこゝろみられ、それによつて外壁が鉄の軸組型式に構成され、軸組の区切る四角な広い区画には大きなガラス窓がはめられた建築が多く現われた。cast iron 製の Masonry の様式の意匠を模した低俗な趣味の柱や桁ではあつたが、Giedion が紹介した St. Louis の河岸の諸建築のようになんとなく落着いた感じのする建築がみられた。

さらに 1880 年代にいたると、米国には chicago を中心として高層建築等が續々と建設される気運が高まってくる。これらの建設をリードしたのは engineer 出身の William le Baron Jenny を中心とする chicago 派の建築家達であつた。1879 年に Jenny によつて最初に造られた chicago の First Leiter Building では、鉄骨の軸組構造は内部にとゞまり外壁はなお石造であつたが、1885 年に竣功した 10 階建の Home Insurance Co. Building においてついで 1887 年 Holabird と Roche による Tacoma Building においては外壁にまで軸組構造がおよび、鉄材にふさわしい軸組構造が、はじめて建築にあからさまに受け入れられるようになった。chicago 派の工法の特徴は、Iron skeleton, floating foundation とそして横長の chicago window であると云われているが、こゝにいたつて、小さな縦長窓を配列する Masonry の伝統をやぶり、軸組構造に直した大きな横長窓が開けられて、Frame structure は名実ともに建築の骨格を形成するようになった。

その後 1889 年には Rand McNally Building に始

めて全鋼構造が採用され、Frame structure の鋼材、構法、設計現場はいよいよ改良洗練を加えられ、1930年には全溶接の高層ビルが建設され、またビルいよいよ高さをましていった。

高層建築における Frame structure は今日においてはほとんど定型化した状態にあるが、しかしいまなお数千年の歴史をもつ Masonry の郷愁はあとうえず、重要な装いをした建築もすくなくはない。しかしそれが構造的には無意味であり、したがって一種の擬態であることを知ってしまった現代の人々にはわざとらしい演出的なものが感じられるのはいふまでもないであろう。一方においては Frame structure にふさわしい表現はいよいよするどく追求され、また現にされつゝある。

Toward Surface Structures.

鉄筋コンクリートの発明 広い意味でのセメントとしては、エジプト、ギリシャ、ローマの昔から石灰や火山灰と混合物が用いられ、ついで天然セメント Roman cement が発見、盛んに使用されたが、19世紀に入り、1824年に英国の Joseph Aspidin によつて、世界初とて容易に手に入れることのできる、石灰石と粘土を原料としてつくられる Portland Cement の製造法が発明されて、今日のセメント工業の発展の基礎がきざされた。一方鉄筋コンクリートの他の材料である鉄鋼の生産も19世紀の中期には反射炉、ベッセマ法等の考案があり急速に上昇しつゝあつた。このような情勢の下にフランスの Lambot, Coigvet, Monier 等の人々によつて鉄筋コンクリートが発明されたのであつた。ついで米人 Hyatt, 仏人 Hennebique 等によつて、さらにドイツの Wayss, Koenen 等の努力により、スラブ、梁の工夫が重ねられ、次第に今日の鉄筋コンクリート構造が成長していった。

Frame Structure としての鉄筋コンクリート

鉄筋コンクリートは鉄筋の挿入により圧縮、曲げにもたえる tensile material である。その特性に従つて鉄筋コンクリート構造でまず梁がつくれ、ついで柱と梁を一体化したラーメン構造へ進展し、今日広く用いられている軸組形式の構造となつた。材料の特性から考えて、木材、あるいは、鉄材のごとく軸組構造をとることは自然のなり行きであつたろう。たゞ木材、鉄材の場合との相違はスラブも、壁も軸組と一体的に cast され連結性を有する考へである。この性質を生かし、T梁の工夫が生まれ、最近では外壁に Wall girder が採用がされるようになった。鉄筋コンクリート構造は、さらに鉄骨とむすびつき鉄骨鉄筋コンクリート構造へと発展した。

鉄筋コンクリートは tensile material であり構造的

には Frame structure へと発展したが、他面 cast して作られるので形体が自由であるという特色をもつてゐるために、建築の意匠の上では内部的には軸組構造であるにかゝらず、外的な表現においてはあらゆる過去の様式、あるいは奔放な形体を造る可能性をもつてゐたとしてこのゆえに、さきに鉄骨構造の場合にのべたように、Frame structure に一種の擬態を演ぜしめる傾向を助長したといえるであろう。しかし frame structure としての鉄筋コンクリート構造を、すなおに外に表わし、その力感を基調とした建築も多数、造られている。ふるくは Perret, Garnier さらに現代の多くの建築家の作品をあげることができよう。

鉄骨、鉄筋コンクリート構造をとわず Frame structure の建築にあつては、さらに構造的にも能力過剰な壁体、スラブの軽量化をはかり Frame structure の力学的作用を明確にしようとする傾向があり、意匠的にも、この線に沿うものとして壁面を軽ろく表現しようとするこゝろみが多くみられる。

面構造へ 鉄筋コンクリートは tensile material であり、鉄材のごとく frame structure へ発展した。一面鉄筋コンクリート構造は鉄材のもたぬ一体性、連続性を有しており、そのために形体の自由をもたらし。その自由さは Masonry がブロック構造であるために有した自由さの比ではない。まずこの自由さはさきにのべたように、構造的には全く無意味な、擬態的な意匠の手段として利用された。しかしこの特性はやがて構造的にも發揮されることになり、近年とくに著しい傾向としての面構造 surface structure, Flächen tragwerk への展開をみせる。その曙光は鉄筋コンクリートの発明の当初につくられた、ボート槽その他のものにすでにみとめられるのであるが、建築構造においては、まずスラブの考案であろう。それによつてT梁の工夫があり、これがさらに発展して1910年頃、梁なしの無梁板が生まれた。また壁梁の採用もこの線にそうものである。かゝる平面構造の進展ととも一方においては曲面構造の発達がある。

Flat Slab. Flat Slab はヨーロッパでは1910年頃スイス人の R. Maillart によつて考案されたものであり、米国においても全く独立に同じ頃 Turner によつて造られている。建築構造全体として鉄筋コンクリートの連結性の特色を發揮して作られた面構造である。Flat Slab は創始者達の鋭い構造的な理解力によつて試みられ、多くの実験をつみ実現され、今日では理論的な研究も進み、設計方式が一応確立されるに至つてゐる。創始当時1910年頃以来多くの「建物」に適用されその有利さを示してきたが、近年にいたつて一般の「建築」構造に応用された例がみられることはなほだ興味深いことである。

Flat Slab の変形として、荷重を多く分担する柱間帯の Slab を柱間帯のそれよりいさゝか厚くした Slab band system とよばれるものが最近造られている。水平力の大きな日本では注目すべき構法ではないかと思う

Box Frame 面構造への第2の傾向は“box frame”とよばれる構造型式である。これは梁なしばかりでなく、壁に柱の役割をさせた柱形なしの構造であつて、日本でも鉄筋アパートに応用されている。欧米においては最近、10階にもおよぶアパートがこの構造によつて盛に造られている。これはまた鉄筋コンクリートの連続性の特色を発揮して、壁の多い構造において壁と軸組との重複の愚をさけた合理的な構造法である。

曲面構造 鉄筋コンクリート構造の連結性平面構造の発展をもたらしたが、他方、屋根構造とくに大スパンのそれとして、その特色を遺憾なく発揮する。曲面構造は迫持作用によつて断面における応力の分布を均等化し、きわめて有利な構造であることは論をまたない。曲げによわい石材は曲面構造をとることによつてはじめて広いスパンをかけたことができた。しかも鉄筋コンクリートは曲げ耐えうる材料であるので、石構造が安全のために必要としたかなりの厚さを徹底的に薄くすることが可能となり、100mにおよぶ大スパンをも掩う例があらわれた。(Rapid City, S. D. における格納庫、1949.) 鉄筋コンクリートによる曲面構造の初期のころみは1920年前後にさかのぼることができる。その後ことに独仏に多くの例がみられたが、今次大戦中および戦後には世界的に普及をみるようになった。米国において近年曲面構造を奨励する目的をもつて ASCE に Thin Wall shell committeeなるものが設立され、昨年11月その報告書が提出され、本年春の米国の雑誌はこの報告に関連して曲面構造に関する啓蒙の記事を多くのせている。一方理論的な面でもかなり研究が進み実用的設計方式も次第に確立されるような気運にむかいつゝある。従来曲面構造には Dischinger, Freyssinet, Torroja あるいは Neroi のごとき構造技術者が指導して造られたので

あるが、近年多くの建築家達によつても積極的に採用されんとする傾向にあることは注目すべきことゝ思う。

鉄筋コンクリートは tensile material としてまず frame structure として発展をみせたが、その連続性のゆえに surface structure として、しかも non tensile な特色を併せ発揮してきわめて薄目の面構造へと発展していった。面構造こそは、鉄筋コンクリートの特質を最大に生かした、それにもつとも適した構造といえよう。そして建築家によつて積極的にとりあげられようとしていることは、いままでの構造の発展の歴史にかんがみてはなほだ興味あることゝ思う。

む す び

建築構造としての鉄骨構造と鉄筋コンクリート構造の発展のあとをいさゝかふりかえつてみたが、要するに、新しい構造材料は、構造技術者の努力によつて新しいその力学的性質にふさわしい構造形態を与えられる、そしてやがてその構造の表現は建築家によつて理解され、explicit な形で建築に導き入れられるということがいえるであろう。将来をはらんだ近年普及しはじめた構造材料 prestressed concrete あるいはアルミニウムのごときは、どのような構造の発展をみせるか予測することはこゝではさけない。しかし他の構造材料についていまのべたような経過をたどることは想像にかたくない。おわりに私は近代構造の発展の上に建築家の、構造の表現——建築の力感の把握がきわめて重要であつた点を、建築家には強調したい。そして力感とは、構造の重たる力学的作用、すなわち主として重力の静的な作用の上にもとづくものであり、飛行機や自動車のように流体力学的、動力学的なものでない点を付言しておきたい。また構造技術者には flat slab その他想像的な形態をした多くの鉄筋コンクリートアーチ橋の設計者 R. Maillart の言葉、「計算家 Rechner でなくて構造家 Konstrukteur であれ」をおくり、構造技術者の一人である私もともどもに反省してみたいと思う。(筆者 京大工学部教授)

杭

説明書及び防潮
養生、盛土地帯
に於ける実績表
進呈

特許

武智式鉄筋混泥土杭基礎工
日信三角型鉄筋混泥土杭基礎工
コンボジット、パイル(長尺継杭)基礎工
測量・地質調査・地耐力測定施工

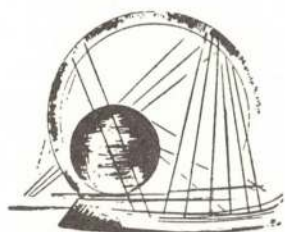
特長 砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

株式会社 武智工務所

取締役社長 福留 並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目宅〇 細野ビル三六号
電話新町〇九 九五〜九九八番

田園都市から近隣計画迄



三輪雅久

第1図 Letchworth の田園都市



1. 大都市の問題

最近の新聞紙上を賑わしている記事の一つに、交通事故がある。トラックが住宅へ飛び込んだり、子供をはねとばしたりするのは殆んど毎日の出来事である。自動車増加と大型化は非常なもので、ラッシュ時の交差点は自動車の列で埋められる程である。

又、風もない晴れた日に長屋が自然に倒壊することが時々ある。勿論人の住んでいる建物であつて、現在大阪市内にはこのような命数の尽きた老朽住宅が相当あることが報ぜられている。満員の通勤電車がまだまだ住宅を建て得る空閑地の傍を通りすぎてゆくのはもう日常の風景となつてしまい、反対に休み続きの晴れた日には郊外へくり出す人々でターミナルは混雑する。

少し前の新聞に、相当の店を構えていた商人の一家が商売上の理由で店をたたみ、暫く転々とした末に省線のガード下の一角に落着き商売をはじめた所順調に立ち直つたという話が出ていた。ガード下は人情も厚く、まわりへの気兼ねもないし、こゝへ来て救われた様な気がします。電車の音も馴れれば気になりませんよ。というわけである。一つの社会美談であろう。

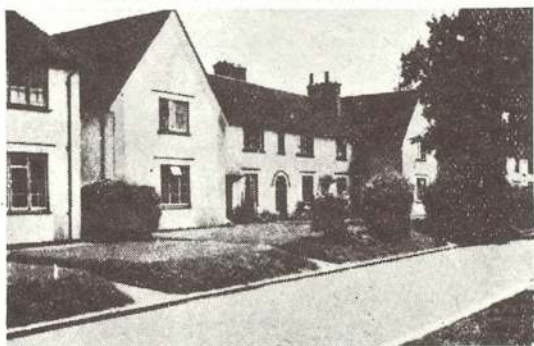
ガード下というのは、大きな駅なら店舗になることもあるが、大抵の場合倉庫位にしか使はない所で、まして常識で考えれば住宅になる場所ではない。しかるに多くの人達がそこに住み着き、一つの庶民社会を為しているのは、単にこのガード下だけではなく、今は無くなつたがお茶の水の濠端などもこの例であつて、大都市に共通する問題である。

工場の騒音や臭気、塵埃が住宅に及ぼしている害も著しいものがある。特に零細工業地に於ては工場と住宅が混在し或は家内工業のために住宅の不良化と伴つて一層その害を大きくしている。

戦災復興事業も除々に実施されて昨年末でその60%が完成しているといわれる。一応町並は揃つたし道路も広くなつている。ところが、その上に立つている建物は戦前より遙かに小さく貧弱なものである。鉄筋コンクリートの堂々たるビルディングは最新式の技術を取入れて、或は空気調節、或はルーバー、或はモータープール等とその偉容を誇つているけれども、その隣りには2階建の木造バラックが押し合いへし合いして並んで居り、しばしば土地問題にからんで紛争の種となつている。

ざつと目につくこれらの事は、我々の現在生活している都市内の出来事なのである。これらは程度の差こそあれ、世界の各国に於て経験されていることであり都市計画のみならず、政治経済や社会学、医学、衛生学等の方面から夫々の立場に於て調査研究が行われ、その対策

第2図 Welwyn 田園都市の住宅



がはかられてきたのである。

これらの問題の発生を求めるならば、産業革命迄さかのぼらねばなるまいが、特に19世紀の後半より20世紀にかけて甚しくなつて来たことである。

都市計画に於ても、たくさんの計画が為され、提案が為されて来た。或るものは空想として斥けられ、或るものは理想都市として棚上げされ、残つた幾つかのものを完全に実施せられたものは少い。

2、田園都市

密集、混在、過大といった大都市の問題に対する提案の中で、完全に実施され、又輝かしい成功を収め伝統的なものに迄なつてゐるものに、まづ英国の田園都市がある。戦後は更にこれが継承され、新都市の建設事業として国家的に採り上げられている。バターが大砲かと言ひ煙草まで配給制度を続けている英国でこのような大規模な都市計画事業が為されていることは、注目すべきことである。

この英国の田園都市も一タにして出来たものではなくロバート・オーエン以来の一世紀に近い苦闘がその前に為されている。18世紀の中期から後期にかけて行われた産業住宅地の経営は、SaltのSaltair (1852) LeverのPort Sunlight (1886)をはじめ幾つも実現されて居り、その住宅地の配置計画に英国の伝統的手法を見るのである。

煉瓦造の住宅が緑の木の間に配置され、ゆつくりとした道路と前庭をとり、中央には広場や図書館、教会、クラブ等をもつ、工場は歩いてすぐの所にある。一步外へ出れば広々とした山野が開けている。このような住宅地が工場従業員のために実現した。たしかにそこに住む人には幸福なことであつたと思う。

しかし乍ら、それらはいづれも都市ではなかつたし、都市になりうるものではなかつた。これが都市となるにはHowardをまたねばならなかつた。

Letchworth (1913)、Welwyn (1903) の二つの田園都市が建設されたのはHowardによるものである。(第

1図)。民間会社によつて経営されたこれらの田園都市が健全な成功を収め、また現在も発展を続けていることはHowardの構想に基づく土地の一元的所有と利用及び利益の制限に基づくものであることは疑いのない所であり、その結果、計画的な建物の配置が可能となり、緑地や共同施設の確保も居住環境の維持も簡単に実現されて来たのである。その他に産業の適当な誘致によつて都市内の有業人口の大部分を吸収し得たことも大きな原因となつてゐる。Letchworthには現在144、Welwynには70以上の工場があり、その業種も多様に互つてゐることが報告されている。

この社会事業会社である二つの田園都市は成功した。しかし大都市ロンドンはロンドンであり、この時期のロンドンの膨張は約300の田園都市を作らねば、吸収出来ない程であつたと言われる。勿論ロンドンの中では、他の大都市と同じく道路や緑地の整備、不良住宅改良などの都市計画事業が田園都市を生み出した実行力を以て続けられていたことは疑いのない所である。

田園都市は最初の二つの波紋であつた。やがてこの波が広がつて行つたのである。

3、不良住宅改良と住宅地の開発

田園都市に於て試みられた住宅地の計画は其の後各国に於ける郊外住宅地の開発、住宅改良事業の良き先例となり、設計技術に関する幾多の研究を生み、各地にその実現が見られる様になつた。

アメリカに於ける田園郊外からGreenbelt townをはじめとする郊外地開発、フランスに於ける高層住宅地、ドイツに於けるSiedlung、日本に於ける戦前の郊外地の開発などにこの影響が見られる。

田園都市に於ては、その技術は単なる住宅地としての景観、落着き、快適さ、所謂Amenityが重視されたに過ぎなかつたのが(第2図) この時期に於ては夫々の



第3図 初期の不良住宅改良(フランスの例)

第4図 ニューヨークの不良住宅改良（スーパーブロックによる建物の自由な配列の例）



国に於て敷地制や、隣棟間隔、附帯設備などの科学的合理性から更に住居本来の平面の問題、住生活の合理化の問題、大量生産のための規格化の問題、共同住宅の高さ生活共同化の為の共同施設の問題等に迄進められた。これらは Thomas Adams や L. Hilberseimer, W. Gropius 等の発表している所である。

不良住宅の改良に当つても、以前の最大床面積をとる為の建築制限図のような改良でなく（第3図）、居住状件を満足せしめる為のスーパーブロック式による空地を充分とつた方式に進んで来た。（第4図）更にアメリカでは自動車の普及により住宅地の設計に於て、個々の画地を考へない有機的な計画に発展している。（第5、6図）、

アメリカに於ける不良住宅の改良は、都心の整備とかねて、市街地の再開発或は再整備（redevelopment）として行われて居る。大都市の中心部における不良住宅地が都市の収入を低下させてしまうので、企業としても充分採算がとれる点が主張され、公共団体以外にも、ニューヨーク生命保険会社等の民間会社によつて大規模な改良事業が行われている事はアメリカの一つの特徴として考えられる。

不良住宅地の改良については、日本でも戦前試みられた所であるが、一つの地区を改良しても別の所に又不良化する地区が発生することが報告されて居り、これは今後の課題の一つとなるであろう。

4、衛星都市

第一次大戦後の時代は電力事業の発達と鉄道網の完成と電化の時代であり、全国的規模におけるこの送電線と鉄道網とは、産業と人口の配置つまりは都市の位置を改めて見直すべき契機となつた。工場の規模が大きくなつて都市の周辺にどんどん建設され、一方都市の中心部の商業地が膨張したのもこの時期である。

一面に牧歌的な夢をもつていた田園都市、或は又田園郊外も大都市に結びつけられる。都市に対する衛星都市の関係としてである。その上に防空上の要請が加つて地方という背景の中で都市が検討されることになつた。

R. Unwin, Whitten, P. Wolf, T. Sharp 等の衛星

都市論乃至は地方計画論はこれであり、大都市の過大な膨張を防止する為に衛星都市をとりあげ地方的計画が必要なことが主張された。

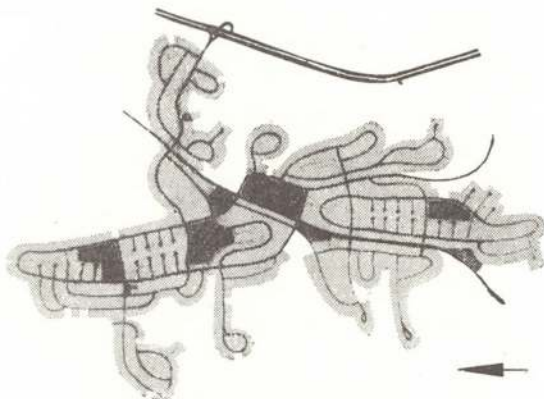
1933年の C. I. A. M. の会議でも地方計画が取り上げられている。その宣言（アテネ憲章）の中で「都市と農村とはお互に切り離すことは出来ない。所謂地方という単位の要素である。いづれの都市に於ても地理的、社会的、文化的政治的の地方にその発展はかゝつ

て居り、その一部分となつている。従つて都市の外国と環境を形成している地方から都市だけを取り出して考えることは不可能である。……」と述べている。

戦後、1946年英国では新都市法が制定され、14の新都市が選ばれた。この中8都市がロンドン周辺にあり、ロンドンの膨張を防ぐための衛星都市として建設されることになつている。9都市は既に着工され、公営貸工場や公営住宅の建設が近隣単位を基本とした計画に従つて建設されているのは既に紹介されている通りである。住宅地は近隣単位から成り、コミュニティの施設をもち、理想的計画が実現されつゝある。（第7図）しかもこれからは単なる郊外都市ではなく、この都市内に職場をもてるような産業を配置している事、又都市計画と公営住宅とが一体として建設されている点は忘れてはならないであろう。

5、近隣単位

アメリカに於ては、自動車専用道路の問題や、交通事故の問題を契機として、住宅地の構成の原理として近隣単位の考え方が起つて来る。ドイツに於ては国土再編成



第5図 カリフォルニアの郊外住宅地計画（有機的計画の例）



第6図 Radburn の住宅地（歩道と車道が完全に区別されている）

の理論として同じような日常生活圏の構想が原理として取り上げられた。

戦前のニューヨーク地方計画、戦時中の大ロンドン計画或は戦後の英国の戦災都市復興計画などいずれもこの近隣単位を都市構成の基礎にしている。Thomas Sharp が Exeter の戦災復興計画の中で述べている説明を引用すれば、次のようなものである。

「近隣単位の計画は二つの主な目的がある。一つは都市社会の健康さを助長することであり、他の一つは、家庭、店舗、学校などの日常生活に必要ないろいろの施設の便利な配置と結びつけとを図ることである。——組織立っていない現在の大都市は全体としてとらえるにはあまりにも大きすぎる。個人対個人の接触、グループ対グループの接触も困難になる。都市に対する関心は失われ市民は山ノ手、下町といった階級に分けられてしまう。近隣単位の目的とする所はこのような大都市の病気を癒すために、近隣の意識をもちうる大きさの単位に分けてその中で山ノ手とか下町という階級の融合を図ろうとするものである。

一方近隣の意識をもちうる集団の大きさを決める事は不可能であるが、社会学者の方で、人口一万が適切な大きさに最も近いと考えられている。普通の都市では一万の集団は中心から歩いて10分位の範囲である。一方では広い範囲の性格や職業の人を含むべきであるし、他方では、お互に顔見知りになれる程度に小さくなければならない。——社会的に最良の大きさは更に論議されるとしても、日常の利便のために適した大きさは正確に出しうる。——

日常の利便の為の施設の中最も基本になるのは子供の

教育である事は疑いない所である。11才以下の小供達は通学途上で幹線道路を横切るような危険はさせてはならぬ。この事から人口5000という大きさが考えられるが学校の選択出来るのは望ましい事だからこの2倍の10000という大きさが考えられる。——」

このようなわけで Exeter の計画では都市を10箇の近隣単位で構成している。近隣単位の大きさやその中に含むべき各種の施設については、いろいろ基準が考えられて居り、又国や地方によつて異なつても止むを得ないのである。

マンチエスターの戦災復興計画でも同様に近隣単位というものが、利己と冷淡に満ちた都市の生活を否定し、町や村に見られるような親密な社会生活を取戻すためのものであり、更にそのための場としてコミュニティセンターの重要性を述べている。

近隣単位に限らず、もつと広い意味で都市コミュニティの中心施設を、同じような都市社会の健康さを助長し或は人間関係を確立する為の場として主張しているのが C. I. A. M. の第8回会議の主題となつた「Core」であり現代社会のモニュメントとして、その記念性と造型性を追求しようとしているものである。

都市を一つの目標に向つて組織し、統一しようとする事は、現在の都市の機能の複雑さからみて、まづ不可能に近い事である。都市を人間の生活のための容物と考え生活するために最も健康で且つ便利なものとして組織しようとするのがこの近隣単位の考えである。その構成の基本となつているのが主として消費生活の面であり、生産に関する面について直接には触れていない点が今後の問題として残るであろう。

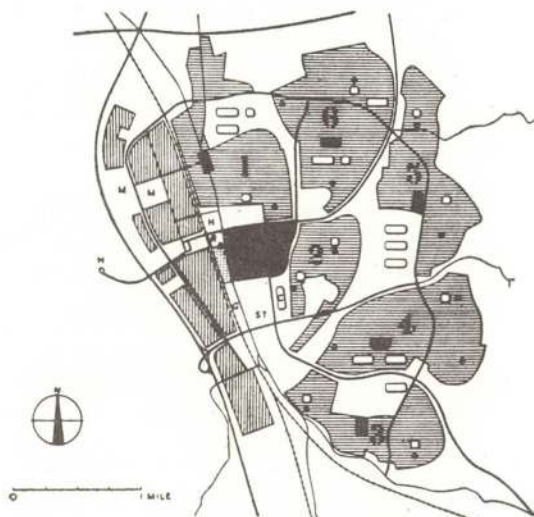
職住の分離が完全に行われ、しかもコミュニテイ施設の利用が充分可能な条件の下ではこの近隣住区の構成はその偉力を発揮する事であろう。

6、われわれの問題

日本に於て都市計画が法制化されてから約30年になる。270の市では都市計画が立てられ、各種の事業が行われている。戦災復興計画も着々と実施されている。しかし何が今迄に為されて来たかを考えると、先人の努力は尊いとしても、すべてがこれからであると考えられるのである。

都市をつくっているのは市民であり都市計画を実現するのも市民でなければならない。従来の日本の都市計画が官公庁に於て主として考えられ、市民の生活を束縛するような面で印象づけられてしまった事も十分に考えねばならない事である。

市民の基盤の上になつた都市計画であつた事が田園都市以来の外国に於ける都市計画を生み出して来た原動力であり、又今後も都市計画を充分に発揮せしめて行く力となる事であろう。交通の問題も、不良住宅の問題も工場



第7図 Stevenage 新都市の近隣単位計画図

公害の問題もすべては、解決されねばならない問題なのである。
(筆者 市大理工学部中沢研究室)

7月号 誰れにでも作れる胴縁製家具 正誤表

頁	左右	段	行数	誤	正又は補足
29	左	段	上より 29行目	10円という事になるが、 の次に左の字句を加える	5本や10本では実際は倍位は かゝるだろう。
32			図面3のうち	座板 1.6 8	座板 1.5 9
"	左下段	上より	1行目	延長 4 7.7 6 尺	延長 4 7.0 4 尺
"	"	"	10行目	1.6 8 × 8 = 1 3.4 4	1.5 9 × 8 = 1 2.7 2
33	左	段	下より 10行目	格別ら意味は	格別の意味は
"	"	下より	7行目	前建の	前述の

近代建築の粹

床材は リノリウムと リノタイル

世界の市場に雄飛する

東洋リノリウム株式会社

取締役社長 齋 信 敬 二

本社及工場 兵庫県伊丹市伊丹五五八番地 電話 伊丹 1・51・69

東京支店 東京都中央区銀座四丁目(三和ビル) 電話 東京 1701・2564

大阪事務所 大阪市東区瓦町二丁目(三和ビル) 電話 北 浜 3 7 5・376

TOYO'S LINOLEUM • LINOTILE

施工法の変遷と将来の見通し



日 野 勝 好

1. 戦後の施工技術の変遷

回顧すれば、昭和20年の終戦を契機として現在に至る数年間に、建設技術の施工法は昔日のそれと比較して全く遜色を見ぬまでに進展し、従来ややもすれば手工業的製産法や加工法が一変し近代産業形態を整える程に大きく転換を見て来た。想えば建築技術は戦争中期より動員による労務者の技術低下、資源の行詰り、輸送能力の貧弱、技術家の建設意欲の放擲等起因して敗戦と同時に全く粗悪なバラック建築工法のみが存在したものであった。

然るに終戦と同時に迎えた進駐軍工事は基地の設営に兵舎、宿舍の施設に於て全くわが国建設技術の啓蒙をもたらし、施工技術向上への研究努力を促進せしめてくれた。これは建設技術のみでなく正に麻痺せんとしたわが国産業界全般にわたつたものであつた。

まず輸送力の復元に始まり、工場の整備、生産方式の再出発は逐次粗悪資材を追放し、工程の短縮は施工方法の改良変化を促進した。即ち施工の機械化が登場した。又利用者本意の建築工法として、主体工事と設備工事の一元化に基地設営に兵舎建設に其他あらゆる施設に新しい指針を与えられた、施工技術改良研鑽が建築界に新しい課題を提示してくれるに至つた。そして戦後の急造建築の施工の粗悪を時日を経るに従い追放する基盤が一步一步確実に築かれる様になった。

想えば終戦当時は軍施設工事に於てすら先ず資材欠乏が掌げられよう。一本の釘、一枚の硝子、一握のセメントすら自由に得られず、加えて動力源の電力やガソリンも得られず、凡て手工業の手法に委ねられ、一切の機械も器具も軍工事以外には見受られなかつた。当時はセメントもプラスターとして闊売りされ、軍のⅢタイプのセメントは全く吾々が垂涎禁じざるものであつた。一応当時

を回想してその変遷を見てみよう。

斯くして昭和22年末辺りより漸く軍工事の建設速度も鈍り戦災復興の槌音が本格化して来た。殆ど当時は木造の粗悪な建設物が多く、鉄筋コンクリート等の本格化ビルの実現は未だ当時に於ては到底望むべくもなかつた。資源の不足は構造方式の改良や工夫を要求した、例えば片流れ式の商店建築の工法が神戸元町に出現を機に各所に実現された。戦時中の代用品は特殊なもの以外は産業界の復元につれてその粗悪なものは順次に姿を消した。例えばアッシュ、煉瓦は焼ビルの古煉瓦にすら劣り、その後ブロック工法にまで進展して来た。

そして都市の再建整備の進捗につれビル建築復興にさきがけとして所謂ビル移動の工法の研究が始り、業界に新しい課題を生んだ。即ち都市計画による市街地道路の拡張による既存重量物たるビルディングが有姿のまま移動再建工法が考えられ、昭和24年始めより各都市に於て銀行建築がこれの先鞭をつけ各種の工法が案出された。これは主として資源費と工費も新築の場合より割安且つ工期の短縮等の諸利益が考えられるが、近代装備や事務の能率的な検討からは勿論疑問が残っている。が兎に角戦後の新工法として登場したもので、現在では延坪も1,000坪階数も数階の数千トンの重量建築物が自由に移築出来る程になつた。そして治安の回復、経済界の復興につれて、漸く建築工法も粗悪性を追放して昭和24年に入つて、都市復興は建築よりのスローガンが都市不燃化の促進の声と共に本格的となり漸く鉄筋コンクリート構造工法がカムバックして来た。それまでは戦後鉄骨構造が軽微な工場の一部復興や進駐軍工事に採用されていたが建設省基準型としての集合住宅が全国各所に現われて来た。これは構造的に見て在来の柱梁型式を脱した壁構造で、利用鉄筋も細物の9~13φ程度で、漸くこの頃に至り

セメント施設もやや石炭の良質によつて向上を見たが、未だ本格的とは云えなかつた。

一面23年1月1日より旧市街地建築物法の適用が全面的に復活し、次いで11月1日に臨時防火建築規則が制定されて、施工の面にも対策が講ぜられ漸く復元調を帯びて来た。又設計面に於ても、昭和24年を中心として木造建築は漸く本格的となり、先ず公共的な建築が復元の先達を承つて来た。然し当時は労務者の技術も低級で、資材も未だ良質とは行かず、施工後その缺点が各所に見受けられた。反面終戦直後に起つた軍設営工事は材料に相当嚴重な査定があつた事が幸いし粗悪品は割合に少なかつた様になる。そしてこの頃より漸次コンクリート工事が登場して来たが、何分人力以外の機械力は極度に不足し、これも軍の機械力には到底比較にはならなかつた。焼残りのそれ等を補修してのコンクリート工事がスタートをしたのも昭和24年の始め頃であつた。そして復興の軌道につた繊維界のブームに各所の工場の修理が始り新設中学校の二階梁の大梁等に鉄骨工事の開始され、久しぶりのリベット打ちや久しく絶えた電気溶接のスパークが建築施工面に復元色として迎えられた、続いて金融界の各所営業所の新設工事が本格的に登場し、建設省の集合住宅の出現と相俟つて待望の鉄筋コンクリート工事がミキサーの廻転音も高らかに復興調を呼びかけ施工技術が一応昔日の俤へを偲ぶべく努力研鑽のスタートが切られた。これ等の本格的な鉄筋コンクリート工事は従前の施工法とその性格が異つて現われた。即ち戦後はアメリカ方式をこの分野にも大きく取り入れた。即ち、打放しコンクリート仕上、硬練りコンクリート配合、振動打ちコンクリートの実施、AEコンクリートの活用、離型剤の使用、型枠工法の改良等がクローズアップして来た反面コンクリート施工用機械類も著しく改良進歩を見、加えて各種パイプレーター、エアメーターの出現や、骨材計量器の精密度の増加、運搬車の利用改善工夫等が考案された。材料も早強セメントの復活、セメント品質の改良、骨材に碎石利用、設計強度の増加、異形鉄筋の出現等は、昭和26年の所謂ビルブームの基盤をなせるもので施工技術もそれに応じて全く素晴らしい進歩の跡が見えた次いで最近では米国式なレデーミクスコンクリートの配給所の創立となり、機械化の建築施工技術に大きい改良が加えられて来たのである。

昭和25年春より昭和26年を頂点として六大都市がビルブームの競演をして地下の深層なケーソン工法の採用となり、更に地上9層を最高としたビルが競々建設され、仕上工法並に設備工法共全く終戦当時は夢想し得なかつた建設技術の超スピード的進歩の記録を作つた。勿論この間新材料の輸入や国内生産力の充実はあらゆる面でこ

れ等の建築施工技術の進歩に大きい協力をしたものである。更に現場作業も機械的切替えがなされ、特に土工事に於て見るべきものがあり、工期の短縮や雨中作業等の難問題を輸送能力の復元と共に解消している。

仕上材も床材料を始め各種の防音資材や塗料の改良が完成し、各種の照明器具や暖冷房等の設備工法の技術の進展と相俟つて、採光に通風に異常な質的向上を見ている。

斯くして戦後に於ける建築施工の問題は近代産業の一翼として大きい分野を分担する企業である事は何人も否むことの出来ない事柄となつた。

2. 将来の見通し

講和締結により欧米の施工技術の流入速度が一躍増加し、街を走る自動車も大都市では欧米の新車が殆どである如く、建築施工技術も今後急速に欧米の総てを取り入れる事は必至であろう。設計面に於て基準法による統制法はあるが、まず構造の進展が中心となり施工法も大きく変化するものと考えられる。

まずP. S. コンクリートの建築的な取扱い方や、シェール構造の普及、軽量材の利用即ち硝子又は軽量コンクリート材、アルミニウム材の構造的活用化、合成樹脂系の新建築材料の普及化等も考えられよう。

更に耐火建築としてブロック建築の利用度増加延いてはレディーミクスドコンクリートの活用や高強度鋼材の出現に伴う電気溶接工法の進展は都市騒音の防止と構造の簡易化を生むものと考えられる。勿論建築施工技術は新機械や新材料の出現や各種関係法令等によつて相当の影響を受けるものであり、例えば新機械が登場すると、それにつれて施工方法が変化し、技術が改良進歩するので、技術と機械は相関連して互に発展するものである。又欧米の科学の進歩が生む新材料は直ちに流入して在来の工法に変化を生むものである。アメリカでは建築は生産工業の一種なりとの見解すらある由であるが、資源的や地理的に考えて、わが国では中々実現しないと思うが、少なくとも今後の施工技術は経験主義より科学的合理主義に移行することは必至と思われる。更に激しい生存競争は工期の短縮性を要求することも必至と思えるものである。即ち従来の現場製造加工の過程を省き、完備した工場でも熟練した技術のもとで生産され、現場では只搬入された製品の取付組立の作業をすればよい様に今後の施工方法は移行するのではなからうか。即ち、今後の建築施工技術の見通しは従来の手工業的より解放され近代産業形態の確定へ転換すべき趨勢にあるのではなからうか。(筆者 株式会社竹中工務店技師長)

戦後における
住宅問題
の
うつり
かわり

日本

扇田 信



カットは日高正法作

「平和」の彫刻

まえがき

これからさき住宅事情はよくなるだろうか、わるくなるだろうか、そのような予想をつけることは割合に容易である。戦後8年も経つというのにまだ控え目に見ても320万戸の住宅が足りない。「今度こそは…」と宝くちを当てる程の頼りない気持で申込む「公営住宅」にも1戸に100人からの住宅困窮者が殺到する。それに入れなくても、やがて入った人のお古が安く廻つて来ることもあるだろうと果ない望みを抱いていると、そのしりから大火災、台風、水害等々が古い家も新しい家もかつさらつていく。そしてやつと平和になつたと思うのも束の間また再軍備だのMSAだの戦争準備に懸命になりはじめた昨今、国民の住宅はますます建つ可能性がうすれていくようだ。

これで住宅問題の見通しが明るいと思える人は、いま大きな家にゆつたり住んでしこたま金を儲けている人かさなければ世の中の空気を肌で感じることはできない鈍感な人々である。

「見通しをたてる」ことは手相見の運命判断のように、予想をたてるだけではつまらない。悪くなると決まっているなら聞かない方がましである。「見通しをたてる」ことは「それならどうすべきか」という将来の行動をふくんでいるから大切なのだ。それには現在までの経過や傾向、そうなつてきた原因を充分検討する必要がある。そのために住宅問題の変遷を知ることが大切である。しかし住宅問題が社会問題として発展した明治以降の変遷を見ることは紙面で許されないから、さしあたって戦後のうつりかわりを主にして、その中で社会問題としての住宅問題と同時に、建築としての住宅の変遷とその見通しについても考えて見たいと思う。

☆住宅問題☆

応急住宅

1945年8月15日、日本は完全に敗れた。「聖戦」を信じて「ほしがりません勝つまでは」で慣らされてきた国民は、敗戦によつてひどいショックを受けた。しかし平和の到来はもつと大きな力で、衣食とともに国民の基本的な要求である「住宅」の問題を国民の心の中によみがえらせた。

しかし国民のまえにさらされた住宅事情は、戦争指導者たちが破壊消防と称して自らの手で取壊した55万戸の被疎開住宅、アメリカ空軍の無差別ジュウタン爆撃で焼払われた210万戸の戦災住宅、復員兵士や海外引揚者の帰還等大量の人口移動によつて400数拾万戸にのぼる絶対的な住宅不足数としてあらわれた。

この極度の住宅事情を具体的に代表していたのは、焼

跡へ焼残りのトタンやレンガ、木屑等を拾い集めてこしらえた3〜6坪のみすぼらしい竈舎住居であつたが、1945年5月(戦時中)で東京都焼野ヶ原にはすでに7万戸24万人の人々が住んでいた。最も恐ろしいことは栄養失調になつたこれらの人々が、果してこの竈舎で冬を越せるかどうかということであつた。

この窮迫した問題にせまられ8月29日東久邇内閣は「越冬計画」として6坪2室の応急簡易住宅30万戸の年内建設を発表しなければならなかつた。しかし資材・労力・土地・資金の裏付けもない机上計画にすぎなかつたこの計画は、翌年3月になつても僅か4万3千戸という遅々たる歩みで年内30万戸は及びもつかぬこと明瞭であつた。

慌てた政府は急場しのぎの対策を法的措置に求めた。11月16日発令の住宅緊急措置令がそれである。罹災建物非住家建物、寮、空住宅、使えそうなものは何でもアパート化する。しかしこの転用で生じた住宅数も49年までで7万2千戸余にすぎない。翌46年には「余裕住宅開放」が令の一部に加えられたが不徹底と情実の下に3年間5千戸を開放しただけである。しかも応急住宅といい転用住宅といい2〜3年を経ずしてスラム化し、しかもそれらが現在なお恒久化して残存していることに、日本の住宅政策の変遷の一部を示している。

1946年8月借地借家人保護を目的にした「罹災都市借家借地臨時処理法」、9月には地代家賃統制令、47年5月には臨時建築等制限規則が公布されて不要不急建物の禁止、住宅規模を12坪に制限等々、この2〜3年住宅に係した一連の法令が連発されたが、実質的な建設は殆どなかつた。

この時期をこれと対照的に特徴づけているのは昭和21年を山にもつ占領軍の兵舎と宿舎の建設である。そのことは敗戦後の国民経済に多大の負担をかけ、建設力の大部分をその方に集中させただけでなく、やがて「基地日本」を運命づける布石になつていた。

炭鉱労働者住宅

1947年から48年(昭和22〜23年)といえ、物凄い勢で「炭鉱節」が流行し始めた時代であつた。社会党の大員が輻一で炭鉱視察するというゼスチュアーもこの時代に行われた。

住宅政策と建設の面でもこの時代の最も特徴的な面が「炭鉱労働者住宅」の建設にあらわれている。それらの事柄はどんな役割を果たしたのか。敗戦後一挙に縮小された生産方式を基本産業の育成を通して拡大再生産することにより独占資本の立直しを計ろうとする所謂「傾斜生産方式」を助成する役割を果たしていた。

炭鉱労働者住宅は、労働者を炭坑に固定させ、家族持にして定住させ、熟練工をつくり稼働率をあげる、という資本の要求に基いて大量の給与住宅として建設され、政府はそのために1947年復興金融金庫から建設資金の全額融資、必要資材の優先的供給を決定している。その結果47年1月から48年上期までに7万3千戸の炭鉱、住宅、3千戸の硫化鉱亜鉛鉱の労働者住宅が会社の住宅として建てられた。それらは国庫補助の計画住宅の大半を占めている。それでは国民のための住宅はどうか。この時期の住宅生産は昭和23年に67万戸、戦後最高の山をつくつたと統計は伝えている。しかしその中で国民の大部を占める低賃金労働者のための公営住宅建設は、たとえ山をつくつていゝとは云え、46年2万6千、47年3万、48年3万5千戸という微々たる数に留まつている。1946年には東京都高輪に戦後始めての鉄筋アパート48戸が計画され、逐年不燃住宅が公営住宅建設の中で占める比率は大きくなつて行つたが、一方公営住宅がますます低収入層から離れる傾向を生じていつた。

住宅金融公庫

この傾向はアメリカからドッジ氏が来て声明を出し、それに基く経済安定九原則が昭和24年度以降の予算に反映するようになってからますますひどくなつた。ドッジ氏は「日本国民は戦争の結果として長期にわたる困苦と自己否定のほか何物も期待できぬことを認識すべきであつた。それなのに…」国民はゼイタクだときめつけ、「政府は支出のうち生産的用途に振り向けられるものが余りにも少な過ぎた」これからもつと資本を擁護せよと声明した。その結果歳入では96%を勤労者層の血税からとり、わずか4%が法人税。一方使う方、歳出の方では40%強が独占資本の手に直接入り、公共事業費、社会的経費等は17%しか出ないという予算が組まれた。住宅の予算は17%のそのまた一部である。この時代を政治的に見れば独占資本の労働者階級に対する攻撃が官僚機構の整備、全官公職員に対する新職階制の強要、罷業権剝奪等になつて現われている。

そのような経済及び政治情勢下に住宅建設は急激に坂を下り始めた。公営住宅にしても48年の3万5千戸は、49年2万4千、50年2万6千、51年2万4千、と下降し49年度公営住宅建設費は公共事業費の枠に押さえられて25億しか計上されなかつた。一方公務員住宅と称して一般行政費から49年〜51年の3年間に36億支出されているがそれらは部課長級の高級公務員にあてられている。最も広範な勤労者国民階級に対する住宅建設は、初めから応急住宅一炭労働住宅と跛行的な形をとつてしか現れず、49年には公務員住宅へと上滑りしながらますます影うす

れていくなかで、1950年5月6日に「住宅金融公庫法案」が公布された。

その規定は住宅資金融資の対象として、①自ら居住するために住宅を必要とする者、②住宅組合法による住宅組合、③自ら居住するために住宅を必要とする者に対し住宅を建設して賃貸する事業を行う会社とその他の証人を挙げている。これらの人々や団体は住宅建設資金の7.5割を借りられるが2.5割は頭金として用意しなければならぬ。①の自ら居住するために住宅を必要とする者は、この年になつても400万を越えていた。しかし頭金2.5割(12坪住宅にして約10万円)をボーと出せる金廻りのよい人はこの中の一部に過ぎなかつた。結局この法案が大いに歓迎される対象は始めから③…事業を行う会社にあつたのだ。それを助成するは50年(昭25)度の住宅建設戸数にあらわれている。当時の住宅需要市場が公営住宅60%、低利融資住宅25%が適正だと考えられていたにも拘らず、建設は公営2万6千戸に対し、公庫住宅8万戸で全く逆比率である。

産業労働者用住宅

1951年7月に公営住宅法が公布された。この法律では公営住宅の建設とその管理の責任が地方公共団体にあることを明確にし、その区域内に「低額所得者の住宅不足を緩和するため必要があると認めた」場合国の財政のゆるす範囲で予算を計上し公営住宅の供給を行わなければならないことになつている。ところで51年の全国住宅建設戸数は21万戸、法令だけ整備して戦後7年最悪の年になつている。

1952年この公営住宅法にもとづいて、公営住宅建設3ヶ年計画なるものが打出され、1952～54年3年間に毎年6万計18戸建設する計画が立てられた。そしてその舌の根も乾かぬうちに4月国会で決定した実際の予算は、第1期分に対し50億2万5千戸分であつた。11月の補正予算に残りの84億3万5千戸分は24億1万戸に切下げて要求されたが全部蹴られてしまった。そして金融公庫に対する30億(9000戸余)だけが通過した。

30億円で9千戸分の公庫住宅の予算は通つた。しかし24億で1万戸分の公営住宅の予算は否決された。なぜそんな馬鹿げたことが行われるのだろうか。

公営住宅を無視し融資住宅に偏執するこのような傾向は、1952年には明確な意図としてあらわれる。それは産業労働者用住宅供給法案の作成である。単独講和と日米行政協定による日本再軍備の前進、軍需産業の育成、そのための合理化促進等々一連の動きが、かつて傾斜生産方式下に炭鉱労働者住宅を重点的にとりあげたようにいままた軍事産業のための産業労働者住宅を重点的に住

宅政策におりこもうとする傾向を生じている。

不良住宅

1951年には関東関西一円の大都市における不良住宅地区調査が行われ、その改善が問題にされ始めた。そのことは「もはや国民全般にわたる住宅問題は一段落ついたこれからは不良住宅の問題だ。」という印象をすら与えようとしていた。果して一段落ついただろうか、皮肉にも不良住宅は不良住宅地区の問題ではなく、日本全地区のことを示すような事柄が続出している。

1951年に、なお同居と過密居住に悩む175万世帯がある。3帖に6人、2帖に9人などの超過密状態が添寝をしている赤ん坊を圧殺した事件がしばしば新聞に掲載されている。しかも、これらの同居や過密居住が敗戦後6年を経た今日、都市では半ば諦め半ば常識となつて人々の生活態度の中で固定化し癒着しようとしている。これが不良住宅でなくて何であろう。

既存住宅の荒廃腐朽が年々促進されていく。それをくいとめられない理由は低賃金政策と高い税金にある。修繕をすれば課税が増える、借家ならそのシワ寄せが店子へくる、いずれにしても不当な課税が住宅を喰いつぶしその結果は戦後の台風被害の増加に現れ、少し強風がふけば到る所で潜在した老朽が倒壊家屋となつて現れる。風もなく雨もない静かな一日、突如家鳴して崩壊する住宅が新聞にのる。老朽の極みまで住み荒されていく日本の大部分の住宅、それが不良住宅でなくて何であろう。

この事情をさらに悪化させている水害・火災・地震等々のいわゆる天災が、実は天災ではなく「人災」であり「政災」であるということは国民の間では常識化している。

しかし、この不良の平均化した国民層の住宅の中からさらにひどい新しいスタイルの不良住宅が、戦後アメリカの占領下に芽生えていた。そしてそれは講和条約の発効とともに全国一斉に毒々しく開発し、再軍備、昨今ではMSA軍事援助などの動ききとともに、ますます成長しつつある。それは日本全国700ヶ所にばらまかれた基地の住宅問題である。悪水——空軍基地立川では川や井戸にガソリンが浸透し全く飲むことができない。立川の住民は給水車から一日バケツ2杯の給水を受けるだけである。騒音——九州板付では1時間に40台の割合で(朝鮮戦争中)ジェット機が発進し120～30ホンの疼痛に近い騒音が終日続く。周辺の住民は不眠症に陥り学童は著しく学力低下している。風紀——奈良という点ではあらゆる基地で共通、北海道千歳町では住民4人にパンパン1人の割合である。金儲けに殆どどの基地でも一般民家がパンパン用貸間営業をやっている。犯罪——加害者が

兵隊で被害者が日本人の場合が殆どで、被害者は泣き寝入りという状態である。

む す び

誤った戦争が日本の住宅問題を極度に悪化させた。そしていま再び戦争への道程が、住宅問題の真の解決をひきのばし、偏則的な発展の方向へ引きずりつつあることを、これまでの変遷で見きわめることができる。そして最も憂うべきことは戦争への道程が強大な外国の力によって指示されていることである。

現在その目前にさしせまっている問題は再軍備でありその具体的な形はすでに基地およびその周辺の住宅問題としてあらわれている。しかしそれは基地周辺に限られた問題ではない。730もの基地が日本にあることは、日本の何処でもが基地でありうる証左である。しかもその可能性は現在、憲法改正の声やMSA軍事援助等におびやかされつつ一層濃くなりつつある。

そのような中で住宅問題の解決を真実国民の方向へ導びく最も具体的方法は、「基地日本」を造ろうとする一切の事柄を喰いとめる努力をあらゆる分野から払うことに始まる。そのことが具体的な住宅問題の解決の前にある根本問題である。また、その努力を払う行動の中に直接に住宅問題を解決する途がふくまれていることもありうる。たとえば基地接収反対斗争や基地撤去の運動の成功は、その町や村が植民地的なスラムに陥ることを救っている。

☆戦後の住宅☆

新しい住宅のあり方

戦後、日本の住宅建築のあり方に対する批判がまず起った。新しい経験としての民主主義による一時的な解放感憲法第25条に示された「すべて国民は健康で文化的な最低限の生活を営む権利を有する」等々のことが、日本の住宅の封建的性格や、反社会的な家族主義に対して議論をまき起す思想的な背景をつくりだした。たとえば玄関や座敷のための住宅、主人本位の住宅を、家族のための住宅、個々のプライバシー尊重という方向へもつて行くことが新しい住宅のあり方を具体的に示していた。

和製リビングキッチン

これらの考え方は、戦後2～3年たつて12坪内外の小住宅が建ち始めるとともに、それらの中で部分的にとりあげられる結果となつた。入口を開けるとほんの僅か靴や下駄を脱げるだけのタタキだけを残してすぐ板敷の広間（といつても6帖位）である。広間の一部に台所があげひろげに設けられ、その近くに食卓と椅子がある

この家で一番大きいこの部屋は食堂であり居間であり同時に応接間、そして職業によつては仕事場でもある。このような居間に対する機能の集中は、12坪という小住宅において面積合理化の苦肉の策であつた。客から丸見えの炊事場もそのことのために却つて合理的に説明されたそしてその様なプランがアメリカ流にリビングキッチンなどと呼ばれることになつた。しかしリビングキッチンは加工された料理が高度に商品化され、あるていどゆつたりした広さをもっているアメリカの中流住宅では、整理された台所が食堂や居間全体と家庭的な雰囲気をかもし出すかも知れないが、未加工の食料がせまいブラック式建物に持ちこまれ、ガスがなければ木炭やせいぜい石油コンロで煮炊される炊事場では、体裁の点でも能率や衛生の点でも余りよい結果にならず、結局カーテンでも垂らして仕切るのが落ちであつた。

こうした無理なやり方は18～25坪位の小・中住宅が公庫や自己建設でできて来る頃には次第に影をひそめた。しかしリビングキッチンの椅子式の生活は、現在建つ新しい住宅の食堂兼居間を支配し、そのような居間が住宅平面構成の中心となつて時代の傾向を特徴づけているかつて洋間は客室として住宅の一部にとり入れられ、それがいわゆる文化住宅と称する中産階級住宅の1つのミエを作つていた。戦後はそれが居間の生活にまで拡張られそれが中心になつている。そしてこの傾向は一面ではアメリカ文化の模倣も考えられるが他の面では、やはり時代差、つまり正座や座ることの不得意な若い層の成長衣料や社会的な生活における生活様式の変遷を基盤にして進められていく。

小 住 宅

しかし、戦後日本の住宅のいちじるしい一つの特徴は「小住宅」ということにある。建築制限による12坪の制限は1948年に15坪、49年には30坪、50年には無制限になつたにもかかわらず、建設される住宅の多くは15～20坪位。蛍光灯が電燈に変わったり、電気洗濯器が使われたり、新しいスタイルの家具調度類が住宅を新しく整備することが部分的に行われても、家族数や家族構成に応じた適正な規模を実現していくことができない。

そのことは公営住宅に最もはっきりあらわれている。それは戦後現在に至るまで依然として12～15坪より進歩しない。

これまでに示された、中産階級の小住宅における戦後の新しい傾向、その中から「いかにすべきか」という見通しをのぞむことはできない。日本の住宅の本当の進歩は、小住宅が小住宅にとどまらねばならぬ現状を改革すること、広い国民層の住宅問題の解決の中で求められていくべきだろう。（筆者 京大工学部建築学教室助手）

建築運動の変せんと

新しい建築運動



絹 谷 祐 規

明治維新に際して、新しい政府がとつた「半封建的組織を温存してその上に絶対主義専制国家を打立てる」という方策は、建築界では、生産組織の封建的な形での整備、技術者の傭人的图案家としての養成といった風に現われ、それが建築計画を単なる末梢的な技術の問題とすりかえる「日本的折衷主義」を生みだすものになった。当時来朝して我国建築家に大きな影響を与えた外人建築家が、当時欧州で盛んであつた折衷主義の影響をうけた人々であつた、という事のためより、我国では、始めより建築家は芸術家としてではなしに当時の洋風建築建設という政府の政策に応えるための「官僚」として養成された。という事がより大きく考えられねばならない。

日本資本主義は、半封建組織というゆがめられた基礎の上に立つて、やがてはなばなしく開花し、従つて建築家も国家政策の建築から、漸次民間建築の方へと進出するのであるが、彼等の立場はやはり傭人的なものではない。日本建築、東洋建築の研究の必要な事が、辰野金吾によつて説かれ、工科大学に日本建築史の講座が設けられ（明治22年）、又西洋建築に対する研究が進んでもそれはただ様式の研究のためであり、単なる图案家的設計より様式選択主義に進む階程の1コマにすぎない。明治42年の「我国将来の建築様式を如何にすべきや」の討論会は、当時の有力な建築家を網羅して行われたものであつたが、ここでは、或人は和洋折衷を説き、或人は全く洋風に従えと主張し、又或人は新しい日本の様式を創り出さねばならぬとしたが、結局様式を問題とするに止まり、そのよつて立つ基本的な問題にはふれられなかつた。即ち、様式はあつても芸術はなかつたという感を深くするのである。そして大正4年、野田俊彦の「建築非芸術論」によつて、始めて、折衷主義に攻撃が加えられ

るが、明治以来50年の年月を経て、やつと、建築芸術の自覚が、この「非芸術論」に見られるのである。

こういつた歴史の上に、大正9年「分離派建築会」が東大の新卒業生を中心に結成され、「過去建築圈からの分離」を宣言した。それはウィーン・セセッションにおくれる事約20年、しかもその透徹したレアリズムの影響ではなく、当時混乱せる欧州を風靡しつつあつた表現主義の影響を強くうけた芸術至上主義的なものであつた。分離派に続いて大正12年には、通信省官繕課の製図工、技手といった下層の技術者層を中心とした「創宇社」が結成されるが、これも多分に芸術至上主義的なものであつた。この2つの団体は、はなばなしい展覧会活動を続けるのであり、特に分離派は、その第1回展を大正9年日本橋白木屋で開いたときに、新聞雑誌に写真入で紹介され、又大正11年には平和博覧会が彼等の作品で催される等、その世間的影響は非常に大きかつた。しかし経済恐慌によつて中小資本が没落し、大資本の独占化が進むと、産業合理化の波にのつた合理主義の影響は、建築では機能主義の輸入となつて現われ、これが分離派等の芸術至上主義者の大きな敵となる。分離派は始めのうちは機能主義を否定するが、やがてしぶしぶながらこれと妥協せざるを得ないようになる。そして結局大正3年9月の第7回展を最後にアカデミーの中に戻つて行く。一方創宇社は、第4回展（大正15年10月）の高層建築、監獄草案、第5回展（昭和2年12月）の労働会館案に見られる如く、その活路を社会的テーマに於て見つけようとする。

合理化の波におされて、建築芸術の問題は、又技術の問題へと帰つてくる。1925年グロピウスによつて発せられた国際建築宣言に応じて、日本にも1927年7月、「日

本「インターナショナル建築会」が生れる。「国際建築」の宣言は様々の反響をよびおこしたが、しかし、日本の過去にこの様な技術に底をおく合理主義によつて否定されるべき何者かが果して存在したであろうか。強いであるとするならば、芸術至上主義の旗印の下に生れたばかりの分離派位のものではなかつただろうか。何となれば、それ以前の建築は様式こそ古いけれども全く技術主義的なものであつたから。こういった中にあつてその果たした役割は、極言すればただ「豆腐の様な形」の流行を生み出したにすぎず、それによつて産業資本の合理化の要求により応えたといえよう。

やがてファッショ化が進んで、帝国主義戦争準備のために準戦時体制がとられる。こうした事態の変化は、建築運動の質をも完全に変えねばならぬ様にする。建築はその発展の方向を見つけないとすれば、前代のはなばなし運動より、もつと着実に現実根を下したものにしなければならぬ。創宇社はますます社会とのつながりに於てものを見ようとする。昭和3年7月の第1回建築思潮講演会には明らかにこのことが看取され、やがて「建築の社会的任務をその階級的意識にまで把握せんとしつつある」状態にまで行くのである。そして昭和5年10月には創宇社のメンバーをも含めて当時の「最も優秀な進歩的建築家達 150人」によつて「新興建築家連盟」が結成され「新興建築の理論的並に技術的獲得」を目的として、活発な行動を開始せんとしたが、社会活動団体であるという一新聞の簡単なデマによつて、アカデミーからの強圧を受け、忽ちにして解散する。ここに始めて旧勢力の明白な弾圧が現れる。小市民的進歩主義者である彼等は何らなすところを知らず、或は研究室に、或は事務所に戻つて行くが、戻るところをもたぬ下層の技術者達は、若い人を中心として「建築科学の獲得」のために「日本青年建築家連盟」（後に建築科学研究会）を結成する。しかし彼等が若く、下層であればあるだけ「技術と学問との結合」は困難であつた。そして昭和8年10月にはそれは会員相互の親睦機関としての「青年建築家クラブ」となる。そしてニュースの発行と共に活発なグループ活動（学校グループ、地域グループ等が存在した）を行うのであるが、国内に吹きすさぶファッショ化の嵐の前に半年にして「消滅」してしまう。

新興建築家連盟より青年建築家クラブまでの「建築の階級的観点よりの理解」それ自身は全く正しい。それは単なる外部からの借入れではなしに、それまでに建築運動の辿つて来た歴史の弁証法的発展であつた筈である。しかしたとえ、つくりくるファッショ化の下に、旧勢力の弾圧があつたとしても、斯くの如く、もろくもついえ去つたのは何故だろうか？それは彼等技術インテリゲンチ

ヤのもつもろさと、それに底を置く建築運動のむつかしさに原因するであろう。しかし次の様な見解もある事を知らねばならない。高橋寿男氏は「青年建築家クラブを顧みて」次の様に述べている。「グループが確固たる独自の組織をもち、責任ある統制者をもつた存在であつたならば、クラブが最悪の場合解散に際しても、其処から立直り第2のクラブが生れ得たわけであるが、事実クラブの消滅と共にこれらグループも亦消滅してしまつたのである。而してこの事は更に追究するならばクラブがかかるグループの統制を計る謂わばクラブ幹部養成という事に余りにも無定見でなかつたかと想像せられるのである。着眼と創意をもち乍ら恒常的運用の点に於て余りにも自然発生的なものに期待しすぎたのではないかと惜しまれる。」（建築と社会昭和12年6月号）

かくて、この正しい流れの上にする建築運動をつぐ新しい団体は現れぬ。昭和11年には「建築家を中心として造型文化に關係する各方面の専門家を糾合し」生活文化と密接に結びついた工作文化のための団体として「日本工作文化連盟」が生れる。この中には曾ての建築運動の中堅が多数見られるが、この妥協的な団体では、当時益々反動化しつつある社会に於て何等前進的な意味を持ち得ない。結果に於て、軍国主義の下に御用組合的な存在となつてしまう。そして軍部の干涉の下に国粹主義建築が生れ始めるのである。一部の良心的建築家を除いて殆どが、或は建築に於ける日本的なものの追究という美名にかくれて国粹主義の普及に協力し、或は直接帝国主義戦争遂行のための諸建築の建設に關係し、ここに戦前の、アカデミーの諸建築家はもとより、近代建築家達はみじめにも軍国主義者達の職人となるのである。

無謀な戦争は敗戦を以て終る。そして焦土の中からいち早く、民主的な建築界を目ざして種々の団体が生れる戦前の建築運動で苦勞をした人々、即ち創宇社、新興建築家連盟の流れをくむ人々が中心になつて出来た「日本民主建築会」は、地味ではあるが、それだけ着実に、しかも重要な歩みを始める。又前者より若い層に属する人々で、デザイナーを主とした「日本建築文化連盟」が誕生する。その他「関西建築文化連盟」「住文化協会」「都市計画懇話会」「観光技術家協会」等が續々と生まれ或ものは機関誌を発行し（計画、住文化等）或は展覽会活動（関西建築文化連盟）を行うことによつて対社会活動を行う。そして1946年9月8日には、前五者によつて日本民主化のために各団体が相互に連繫するという劃期的な目的の下に「全日本建築民主協議会」が成立し「建築界の民主的組織化活動、建築界民主化のために必要な諸活動」等を行うと規定する。ここに戦後の建築運動は

新しい発展を見せはじめ、1947年6月28日にはその中心的存在である日本民主建築会と日本建築文化連盟が合体して「新日本建築家集団 New Architect's Union of Japan」(略称: 新建. NAU)を作り、その綱領を次の様に高らかにうたうに至つて、それは大きく前進して行く。

- 綱領 1 建築を人民のために建設し人民の建築文化を創造する。
- 綱領 2 建築についての総ての問題を大衆の中で解決し実践する。
- 綱領 3 建築界全般を拖う封建性と反動性を打破する
- 綱領 4 建築技術者の解放と擁護のために闘う。
- 綱領 5 全国にわたる建築技術者の組織的結集を実現し、さらに海外の建築技術者の進歩的運動と提携する。
- 綱領 6 人民文化建設のために闘うすべての運動と協力する。

以上6項の綱領を實踐する基本組織として、専門部会が設けられ、又地域、学校グループの相互連絡のための連絡班が設けられ、地方には支部を設けて相互の交流を活発にする等々の方策がとられた。ここに曾て見なかつた強力な建築界の民主団体が生まれたわけであるが、それに対する反動勢力も亦急速な直りを見せ始めていた。即ち最初は解放軍かと思われていた占領軍も1946年2月1日のゼネスト禁止を境として次第にその正体を明らかにして来た。特に建築界に於ては、復興のため、進駐軍のために緊急を要するという名目で、その民主化のための改革に一指もふれなかつた事は、占領政策がもしそれを利用出来るものならば、封建的組織と結びつくという事を、はつきりと示した。戦後間もなく建築の諸雑誌に現われた日本の建築界民主化の諸提案は、今や容易に成就出来ない事が明らかになった。労働組合も生れるには生まれた。そして全日本土建一般労働組合の如きものも生まれたが、多くは戦時中の労務報告会の流れをくむものであつた。こうした状態に於ては、建築界民主化に対する建築技術者のウェイトも亦大きなものにならざるを得ない。NAUの活動的分子は各々の職場で民主化のために先頭に立つて闘つた。しかしNAUはその重点を専門部会活動においた。即ちNAUは建築技術運用の高さに於て全建築関係者の信頼を得る事が大切で、そのために部会活動を活発にせねばならぬとしたから。そしてデザイン部会、住宅部会、都市計画部会、理論部会、歴史部会、生産部会、農村建築部会、構造部会、行政部会児童施設部会等が出来、又部会活動の裏付けを強化しつつ、姉妹諸団体と友誼的に密接な関係を保ち、共同活動を行

いつつ、自らを独善的孤立化から救い、民主主義的活動の内容を高めようと努力した。

会員は800人になり(昭和24年)特に国土復興に関連して安本、建設省を主力とした震ヶ関班、東京都庁班は多数の会員を擁し、その活動は活発であつた事が報ぜられ、又学生では日大の様な私学の方に活発で、東大では伸びなかつた事、又老壮年層がNAUに加わる様になつた事が注目される。地方では、京都は学生が殆んどであり、大阪では逆に一般の会員の方が多いという現象が見られた。又NAUでは設計委員会を組織し、労働組合との提携の下に、その組合会館の設計管理を行つた。

しかし反動の波は、職場に於ける民主化の斗士をレッドパージの名の下に追出し、NAUそのものに対しても「赤い」とか「不平分子の集りで学会をのつとろうとしている」といつたデマを横行させる様になつた。

この様な旧勢力の反撃と、しかも戦前と異つて日本がアメリカの植民地となりつつあるという事実を前にしてNAUはその方針をかえて行く。1949年のNAUの活動方針は「人民の住居の擁護、確保」「建設行政の民主化」と共に、経済九原則による住宅、公共施設、平和産業の工場等の建設の放棄とそれに結果する技術者、労働者の大量失業に反対し、「日本建築産業を守るために、技術者労働者を失業から守るために、公共事業費の増額を要求する運動に参加する」方針を出し、更に法隆寺の焼失によつて明らかにされた文化遺産の危機にたいし「民族の文化遺産を守る事」を大きく打出している。

ここに抵抗の方針がはつきりと出てくるわけであるが朝鮮事変が勃発し、平和への脅威が深まるにつれて、NAUは「平和建設のために」というスローガンをかけ平和運動の一環となろうとする。

この様にNAUは良心的な真面目な建築家のとりでとして、建築界民主化のため、それを阻むものとの闘いに大きな足跡を残して来たのであるが、社会の反動化と共に、1950年を境に衰えを見せ始め、中央のニュースも1951年で中断されてしまう。しかしNAUに対して「氣息エンエンと余命を保つているにすぎない」と評するのはあたつていない。甚だ地味ではあるが、より巾の広い層を吸収した姉妹諸団体と協同して、建築界の民主化と、技術の向上のための研究を続けている。例えば、東京では農村建築研究会、デザイナーの会と。大阪ではデザイナーの会、都市計画研究会と協同し、セクト主義を打破つて広く国民の要求、建築家の要求と結びつく努力をしている。

今までの建築運動をふり返つて見ると、最初は古いものに対する反撥となつて現れるが、建築がその時代の制

度と密接に結びついている事が認識されると、当然、制度そのもののえの抗議となつて現れた。芸術至上主義の分離派から、階級的観点から建築運動となつた新興建築家連盟、青年建築家連盟に至るまでの動きがそれである。敗戦によつて見通しは明るくなつた。そしてこれらの悪い制度を打ちたおし、人民の立場に立つて建築をとり上げようとしたのが、初期のNAUである。NAUは形式的には、戦前の「青年建築家クラブ」によく似ているが戦前の建築運動団体が限られた人々の集りであつたのにくらべ、より広汎な建築家を含む大衆的な民主建築団体になつた。又姉妹諸団体との提携、日本民主主義文化連盟への加盟等、文化運動の総合的な一翼になつていたしかし政府の反動政策が進み、民主主義団体に直接間接の攻撃が加えられる様になると事情は変る。活動家は職場から追出され、サークル活動は衰微してくる。そして広汎な大衆団体でなくなつて行く。この事は戦前にも見られたように、技術インテリゲンチアが弾圧を過大に評価し易い事、帰るべきところをもつていない事、民主的協同作業に対する未熟と、それに対する評価の不十分な事等といったところからくる反動期の建築運動のむつかしさから来ているであろうが、この事こそ建築運動を特質づけるものであり、これの正しい解決なくしては建築運動のより高い発展は望めない。そのために情勢の変化を正しくつかみ、そしてそれに対する建築家自身の要求を、国民の要求を正しくとらえ、共同でこれらの問題を解決していくという方向をとらねばならない。その際、あれもこれもといった方法とはとらるべきではなく、彼等に最も共通した事に重点をおいて、集中的におし進めるべきで、こうした実際的な問題にも大きなウェイトがおかれねばならない。又教育機関が支配権力によつて握られている限り、この団体の中で質の高い会員をつくり出すための教育的機能が非常に重く考えられねばならない。

今や再軍備政策に反対する国民の声は澎湃として各地に起つている。国民の住宅はいつまで待つても、建たぬどころか、年々歳々、収奪政策に原因する災害で失われ老朽化して行く。そして街には、アメリカ流の安っぽいモダニズムが流れ、戦争準備の建築が盛んに建つ、こういつた中にあつては、自然発生的な芸術運動、技術運動社会運動は何の意味をもたぬことは言うまでもない。建築運動を正しく発展せんとすれば、それは困難な闘いになるであろう。そしてその目標とするところは、「国民のための建築」となろう。具体的に云えば

1. 国民の住居の国民の手による解決

国民は、自らの住いを、自らの手で合理的に解決せねば、いつまでたつても駄目な事を知っている。そのため手近なところから、それを始める必要がある

それには、生活様式に合致し、しかも経済的で、又我々民族の誇りを保たせる様な住宅の創造が必要である。

2. 平和建築に対する建築促進要求

建築技術者が戦争に協力せずボイコット出来るためには、国民の平和のための建築を大量に行い得る事が大切で、そのために民族的な建築資本の擁護と、政府への建設計画促進の圧力を加える事を要する。

3. 民族文化の保存と、その新しい創造

いま日本国中いたるところ、頹廢的なアメリカ文化が滲透し、植民地的様相を呈しはじめている。建築に於ても例外でない。一方我国の誇るべき建築が、危殆に瀕している。こうした状態の下に、真の芸術的な建築は、戦争政策、植民地政策、等々に反対する国民と結びつく事によつてその中より生れる。曾ての国粹建築は、支配者のための、我国の古い様式を利用しただけのものであり、決して民族的とは云えぬ。過去の民族文化を正しく評価し、国民と共に前進する事によつてのみ民族的な意義ある建築は生れる。

以上の様な事が、これからの建築運動の大きな問題となると思うが、何よりも大切な事は、国民の要求、建築家の要求を謙虚になつて正しくとらえ、広汎な国民・建築家のための運動となる事である。そしてこの団体自体が有力な教育機関となつて、新しいスタイルの建築家を輩出する様にする事である。そしてそこにこそ永い間模索を続けて来た真の意味での日本的な（その故に国際性を有する）建築芸術の花が咲くであろう。

（筆者 京大工学部大学院）

×.....×.....×.....×

×.....×.....×.....×

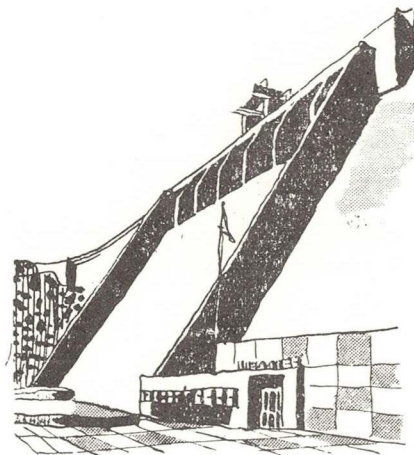
×.....×.....×.....×

株式会社 大阪市北区木幡町三一番地 電話堀川 ③ 一〇一六四番番	合理的工法・責任施工 防錆完全・中空防音	耐震・耐火・軽量・堅牢	採	は	を	に	間
			用	日	・	は	仕
			下	進	軽	軽	・
			さい	式	量	量	天
			を	鉄	鉄	骨	井
			・	御	骨	骨	

国土開発の変せんと見通し

その1 アメリカの部

松 井 光 夫



は し が き

先日、西日本における水害や、紀州の水害はまさに国土の荒廃を物語っている。このことは吾々に国土建設＝国土開発について更に深く検討しなければならない段階にあることを教える。その際、それが科学的であるためには、先ず何よりも、技術と経済との観点から、国土開発の性格＝発展法則を明確にする必要がある。吾々はこの発展法則をつかんだならば、現在の国土の荒廃の基本的要因が明らかになり、従つて吾々の進むべき基本的な方向が見出せるであろう。この意味で、国土開発の史的分析をみることにする。第1に、とくに独占資本主義段階＝帝国主義段階における国土の開発の性格を明らかにするため、アメリカにおける国土開発をみることにする。第2に、社会主義における国土の開発の性格を明らかにするため、ソヴェト同盟における自然改造をみることにする。そして、第3に、これが一番重要であるが、吾々の祖国日本における現在の国土開発の性格並びに当面の復興プランを明らかにする。但し、極めて概略なものに止まる。尙新中国の治水計画などにもふれるべきであるが、次の機会にゆずりたい。

☆ アメリカにおける国土開発 ☆

アメリカにおける国土開発が非常に発展したのは1930年代からである。勿論1920年の「連邦水力法」を法的基礎とし、1930年の「第308号報告」を技術的基礎として

いわゆる多目的河川開発の概念が導入されてきたが、その実施が急速な発展をみたのは、いうまでもなく「ニュー・ディール」政策の一環として、国土開発が重要視せられ、発展したものに外ならなかつた。このとき、何故国家の名による「ニュー・ディール」政策がとられたかといえ、それはアメリカ独占資本が「危機の打開」をしなければならなかつたからである。その危機の打開とは2つあつた。1つは、1929年以後の大恐慌によつて経済が破綻した独占資本は国家を従属させて国民の血税でもつて資本集積を行い自己救済する必要があつた。他の1つは、同じく大恐慌によつて生じた労働者・農民の失業闘争や飢餓行進などの革命運動をそらすため、国家機関を利用して若干の譲歩的改良政策をとらざるを得なかつた。このようななかから生れた「ニュー・ディール」政策には当時テクノクラシスト達のいうところの「自然の計画的利用」などの改良的自由主義的性格を含んでいた。

その「自然の計画的利用」の具体化ともいえる「TVA」もこの「ニュー・ディール」の一環として発足開発したものである。国土開発として、その外1928年発足になつた「ボルダー・キャニオン開発法」によるフーバー・ダム建設、1935年の「コロンビア平原開発法」によるグラント・クリー・ダム建設やボンビル・ダム建設、1935年の「セントラル・ヴァレイ計画」によるシャスタ・ダムとフライエント・ダム等々の建設を含むいわゆる

「多目的河川開発」(Multiple-Purpose River Development) 或いは「総合開発」(Comprehensive Reclamation) が行われた。ところで若干の経済の活況の後、再び1937～8年の新たな以前にも増して打開のむつかしい深刻な経済恐慌に襲われ、こゝに「ニュー・ディール」は成功しなかつた。この危機の切抜けには、独占体は戦争を必要とし、こゝに第2次大戦が起る必然性があつた。

かくて、国土開発においても、発電、治水、航運、灌漑の四大目的をもつ「多目的開発」は殆ど戦争遂行のため捧げられ、その限りで「多目的開発」或いは「総合開発」は大いに進展した。

しかし、一方平和的目的の水資源の利用や、独占体の「最大限利潤」にならない自然の開発は、中断、阻止され、或いは停滞化した。即ち、TVAの農村電化計画やコロンビア平原の灌漑計画の中断、更に、セメト・ローレンス河、ミズリー河、ミシシッピー河、アーカンソー河、リオ・グランデ河の水力資源の開発の阻止、又は停滞化がこれである。

第2次大戦後、アメリカの国家機構を握る独占資本は最大限の資本主義的利潤を確保するため、自国民及び他国民(例えば日本、西ドイツ、フランス、イギリス、南朝鮮)を政治的にも、経済的にも従属させ、国民経済を軍事化し、軍事基地化、原爆生産、軍拡にけん命になっている。特に朝鮮戦争以後は国土開発＝自然開発もこの軍事経済・軍拡、軍事基地建設の一環として行われている。即ち、失業救済や、消費面に力を入れ公共の福祉に行うという「公共事業」や恐慌回避のためでなく(そう見えるのは現象だけである)或いは、自然の生産力を国民生活の改善や物質的需要を満たすために利用するためでなく、出来るだけ多くの利潤を確保するために利用される戦争と国民経済の軍事化との一環として自然の生産力を開発し、それによって、窮極には最大限の資本主義的利潤を確保する必要から、国土開発は行われている。そのため、朝鮮戦争以後は、平和的国土開発の予算は大巾に削減されている状態である。これは戦争経済のもたらす必然的結果である。

☆ T V A ☆

アメリカが生んだ有名なTVA(テネシー流域公社又はテネシー流域総合開発)の技術的な目的は、(1)水資源保護の植林計画、(2)ダム建設による洪水防止と貯水、(3)水運の改善、(4)農業の灌漑用水の利用度を高める、(5)水力発電、(6)化学肥料、又は火薬の原料生産の確保、(7)「忘れられた人々」の生活を高めること、等であつた。

TVAのダム組織：1933年後半から工事が始まり、1945年の第2次大戦終了時には、支流においては、TVA直営が9個、購入から3個、アメリカ・アルミニウム会社

建設から管理権をもつたのが5個、テネシー河以外のダム1個、本流においては、TVA直営が7個、TVA以前建設が2個、以上、27個のダム組織が出来ていた。何れにせよ、現在で約30個近くのダムによつて、テネシー河は洪水が完全に防がれ、河というよりむしろ湖の連続となつた。御承知の様に、ダムには大まかにいつて2つのタイプがある。1つは、支流のダムで、高さは比較的高くて、長さが短かく、航行水門もなく、殆どが全部コンクリート造。他のタイプは、本流のダムで、高さは比較的低くて長さの長く、コンクリートの溢流路(Spill Way)と航行調整可能の水門をもち、土と岩とコンクリートで出来ているダム。

水運の発展：これらのダム組織によつて洪水管理は勿論水運の発展にも寄与した。いうまでもなくこれは南部工業の発展に応じる輸送量増大の必要からであつた。

TVAの電化とその矛盾：電力は終戦時には、250万kwの発電能力を有し、加うるに45万kwの火力発電所をもつた。1945年の報告ではこの電力は「戦争目的に生産されたアメリカの公営私営の電力組織の全電力の1/10」を占めたといわれる。これらの電化によつて都市及農園における電力消費が増えたけれど、実態において現在ではこの安い(私営に対して)国営の電力の大半は、オークリッジの原爆工場(広島に投下した原爆を造つた工場)アルミニウム工場、鋳山工業などの軍需産業に使われその結果、今日では、進むべき農村電化は中断ないし停滞化し、住民には電力の足りないという皮肉な現象が生じている。電力は工業を発展せしめ都市と農村を経済的に結びつけたが、しかし両者の対立の矛盾をも深めた。

TVAと住民：深く事実を推察しない者は、TVAの総合開発によつて、如何にも農民や労働者の生活水準が向上したと早合点しがちであるが、事實はむしろ逆である。この流域の73%の住民は「飢餓線」上にあるといわれ、「TVAからのおくりものは彼らをおきざりにしている」「TVAの成功といわれるが、これは大いに問題だ」「低収入を最大のなやみとしているこの谷の住民にとつて、これは全くの悲劇だ」と種々の人々が指摘している。たしかにTVAは自然の恐怖をなくし、洪水防止、航運、発電の3大目的を達するという技術的成果を上げたけれど、この技術的成果のかけに他の諸目的、即ちそのうちのひとつたる「忘れられた人々」の生活を向上させる点について却つて貧困をもたらした(たしかに電化設備などによつて文化水準は向上したが、文化水準の向上を生活水準の向上ととり違えてはいけぬ)という点に、TVAの大きな矛盾がある。戦争経済へと進む方向においては、この傾向は民需産業の減退と共に益々ひどくなる。独占資本は国家の力で総合開発をやり安い電力を産業の最大利潤獲得に用いるが、同時に一方、住民は貧困

にあえている。こゝにTVAの寄生的性格が見出されよう。

☆ ミズリー流域の開発 ☆

ミズリー河は「アメリカ河川の父」といわれるが、属々洪水を起すので、ミゼリーな河と呼ばれている。この流域の開発は、1930年代中頃から上流のフォート・ベック・ダムなどが建設されてきたが、1943年の大洪水にこりて大々的に全流域にわたつて、開発することになった。1944年、「洪水管理法」ができ、一河川の全流域にわたつて総合開発することが可能となった。これは、このミズリー流域における「ピック・スローン計画」に具現された。

「ピック・スローン計画」：このピック・スローン計画というのは、陸軍省技術本部のピック案と開発局のスローン案とが、妥協して作った折衷案である。これは、始め両者がお互に猛烈に反対運動を続けてきたが、TVAに似たMVA（ミズリー流域公社）が提出されるに及んでMVAをだしぬくために妥協して作ったものである。「ミズリー流域諸機関審議会」：しかし「ピック・スローン計画」による開発の経過はよくない。この開発方式はTVA方式（以下「VA」方式という）と違つて、色々な連邦開発機関が集つて「ミズリー流域諸機関審議会」（Missouri Basin Inter-Agency Committee）をつくり、この「審議会」方式（以下「IV」方式という）によつて開発を進めている。（日本の現在の…河総合開発審議会はこの真似であろう）この「IV方式」の特徴は「VA」方式と同じく、一河川の全流域を総合的に開発する方式でありながら、「VA」方式のような単一の計画主体でなく、単なる調整審議会であつて、従つて、その地域をダイナミックに統一的に行う機関でない。調査が重複したり、同じ目的をもつ機関が2つも3つもあつたり、各官僚機関のセクショナリズムもあつて、各機関はお互に反対は反対を呼び、各機関の責任や権限もまちまちで、各機関間、連邦各州との調整も、経済的基盤を異にしているため、困難である。このような国土開発には、大独占土建会社や高級官僚などのボスらの大がかりな裏面政治工作がつきものであり、その暗躍の事実が予算のぶんどり合い、政治資金をめぐる目をおおわしめるものがあるという。日本でも、この点は一流国であるが、アメリカは、これに輪をかけ、もつと巧妙である。1950年頃に1954年までに要するに65億ドルの国家資金を浪費してしまつてゐる。しかも工事は $\frac{1}{3}$ すら進んでいない。これらの矛盾や土壌の侵蝕、山林の濫伐などによつて、ミズリー流域は1949年、50年、51年にも52年にも洪水や旱風に定期的に襲われている。

こゝに「IV」方式の基本的な特徴は工事の促進テンポのゆるい停滞性にある。

尙この「IV」方式による「ピック・スローン計画」の内容は簡単に記すと、主流に3つの多目的ダム・支流に約100個のダム、約500万エーカーのカンガイ、250万kw、（200万kwという本もある）をもつ30の発電所、数百マイルの洪水防止用堤防。

☆ コロラド流域の開発 ☆

「赤い河」「たいまつ河」といわれたコロラド河の大きな開発は先づフーパーダムから始まる。

1928年の「ボルダー・キャニオン開発法」によつてフーパー・ダム（旧名ボルダー・ダム）が1936年にその形態を出現し、その後発電機が据えられ、現在では最大103万kwの能力をもっている。高さ726フィート（約220米現在世界最高）、コンクリートの量325万立方ヤードの重力式ダムである。このダムで、コロラド河の狂暴性は防がれた。

その他、このフーパー・ダムの下流にディヴィス・ダム、パーカー・ダム、イムベリアル・ダムが構築され、河川調整、発電、灌漑、水道源の確保にコロラド河の水力エネルギーは用いられた。

これはすべて、カリフォルニア、とくにロスアンゼルス方面に発展した工業の要請に応えるものであつた。

又、上流に、いわゆる「ビッグ・トムソン計画」がほぼ完成し、コロラド水分嶺に掘つた13哩のトンネルや運河、貯水地、ポンプステーションを通じてコロラドの水はミズリー流域の方面へ流れ、その地方の水不足地帯に役立っている。

コロラド河をめぐる矛盾：しかし、かゝる成果と共にアリゾナの農民対カリフォルニア企業家との争いが宿命となつた。開発されるけれど、水の利用はカリフォルニア側にとられアリゾナ側はわずかに形成的にしか利用されず、従つて利用欲に対する水不足である。この様に両者の対立を深めた。

☆ コロンビア流域 ☆

コロンビア河はミシシッピー河を除いてアメリカのどんな河よりも水量豊富でその流域における水力、舟運、森林、農業資源等の潜在力、更に工業潜在力はアメリカ有数で、国家的注目をされている。というのも、この地方にハンフォード（ここに長崎へおとした原爆をつくつた工場がある）、リッチランド、アークなどの原子力工業＝原爆工場、原子炉工場があり、又、航空機、造船所、アルミニウム工場がありといつたように一大兵器廠地域であるから。これらの産業を動かす基本的な技術たる電力組織はBPA（ボンビル電力管理局）で管理され、その電力は事実殆どグラント・クリー・ダムとボンビル・ダム等からの発電に多く負うている。

ボンビル・ダムは1938年竣工した。グラント・クリー・ダムは1935年の「コロンビア平原開発法」のかなめであつ

たが、戦時中にその形態は完成された。高さはフーバー・ダムよりも低いが（550フィート）大きさはフーバー・ダムの3倍もある（1025万立方ヤード）。発電力は197万kwである。

コロンビア平原開発：この計画は、コロンビア河が大きく曲つた内側の盆地約103万エーカーにカンガイするため、運河、トンネル、築堤等を建設する計画である。もともとこの盆地はコロンビア河の水面より約500フィートばかり高いので、ポンプステーションをつくり、水をくみ上げこの地をカンガンしようとするわけである。

しかし、この大がかりな灌溉計画は1942年に中断され戦後になつてもその進捗のテンポはおそく、1952年には100万エーカーのうち、約7万エーカーが灌溉されたにすぎない。しかし、運河建設に機械化が用いているようである。

以上の外に、ハングリー・ホース・ダム（最近外型は完成）シーフ・ジョセフ・ダム、マグナリ・ダムその他のダムの建設が行われている。

尚朝鮮戦争以来の軍需産業、原爆工場の発展は莫大な電力を要求しその上降雨量の減少もあつて、逆に電力の不足を生じ、遂に1952年秋企業に10%の節電を余儀なくされた。この為、倒産又は移転せざるを得なかつた中小企業が出たといわれる。

☆ カリフォルニア中央高原の開発 ☆

この地域の開発は1935年の「セントラル・ヴァレイ計画」の発足によつてようやく本格化した。即ち、北の方に、シャスタ・ダム、南にフライエント・ダムが夫々戦争中に完成し、その外に、ケスウィック・ダム、5つの運河、それに電気ポンプステーションの建設が行われた。

しかし、これらの建設はコンプレヘンシヴ・プラン（総合プラン）の第1段階にすぎず、着手して以来、約20年間にわたつてゐるのに、次の段階への進捗がおくれている。また、この地方の独占電気会社が（例えば大太平洋ガス電気会社）この開発に猛烈に反対してきた。この矛盾は、単にこの地方だけでなく、アメリカ全国に起つてゐる事実である。例えば、東北部のカナダとの国境を流れるセント・ローレンス河の水力資源開発計画に対して、1932年以来モルガン財閥（アメリカの電力会社の最も大きい支配者）が反対し、遂にこれを永久にはおむり去つてしまつたことなどは典型的である。このように社会の発展の要求と独占資本の要求とは根本的に異つてゐる。

その外に、クオ・グランデ河、アーカソソ河、ミシシッピー河、等の開発の阻止、停滞が見られる。

総括—現代資本主義の国土開発の特徴—

以上を総括して帝国主義段階—独占段階における国土

開発の性格をみれば、第1に軍拡と経済の軍事化の一環としての開発であり、それによつて、窮極には最大限の資本主義的利潤を確保するための開発である。

第2に国土建設の発展は、流域別にも、「総合開発」の技術的内容自体にも、不均衡性と不均等性をなしている。例えば、発電の発展、舟運の発展に比して、灌溉の停滞、植林事業の停滞化等々。又、TVA、コロラド下流、コロンビア流域の開発の発展に対して、ミシシッピー河、アーカソソ河、ミズリー河、リオ・グランデ河の開発テンポの停滞性。

第3に、開発において腐敗化、停滞性の一層の深化を示している。これは、(イ)軍事的目的の優先、平和建設の阻止、停滞、(ロ)技術的発展に比して、住民の貧困化、(ハ)開発局や陸軍省、農業省などの官庁セクショナリズムの現われ、(ニ)「VA」方式の阻止（MVA・CVAの阻止）(ホ)独占体による技術的進歩の阻止（例えばセント・ローレンス河の開発中止）等に現われている。

第4に、開発技術の発展にも拘わらず、豊富な自然条件を破壊している。計画は総合的であつても、実施において工事の不充分、不均等、土壌の浸蝕、森林の濫伐、鉱山地下資源の発掘の無計画性、山腹の荒廃等の原因によつて洪水や風蝕をまねいている。復旧に追いつくひまなく、国土の荒廃は益々進むのである。

第5に、開発によつて都市（工業）と農村（農業）との対立・矛盾を深めた。開発は、電化、発電電システム、交通網を分布せしめ、農村への工業の進出、農業の機械化を進め、可能性において両者との対立を止揚する物質的条件をつくつたが、現実性において都市（工業）が農村（農業）を搾取する経済的基礎を大きくし、矛盾の対立を大きくした。この両者の対立の止揚は勿論社会主義ないし人民民主主義によつて始めてなされる。

第6に「1河川1問題主義」（ルーズベルト）に基づく一河川の全流域にわたつて開発する可能なやり方に「VA」方式と「IA」方式があるが、前者は寄生性を示し、後者は停滞性を示している。これは、独占に固有な諸矛盾の現われであり、このため真の総合開発は破綻しつゝあること。そしてこれらの技術的成果を一層生かし文字通り人間のため、「大自然改造計画」を進めるためには、現在の戦争経済をなくして、平和経済と生活水準向上を目標とする制度に変らねばならない。

×

×

以上でアメリカを独占資本主義—帝国主義段階における国土開発を簡単ではあるがみてきた。次にソ同盟の「大自然改造」並びに日本の現状及び当面の復興プランが続くのであるが、紙数の制限がきたので、掲載は後日にゆずりたい。（筆者 建設技術研究員）

池田谷久吉

は し が き

建築事務所という名称は以前は「工務所」といわれていたが、何時からともなく工務所から事務所に変わってきたのである。之は弁護士や弁理士が「法律事務所」「特許事務所」という名称を用いていたので、之等に模倣準拠したにも思える。また請負業者は工務店と称し、設計監理業者を工務所といっていた様でもある。工務から事務へ遷り変わったのが、凡そ大正を下限としているから最早や30年を経過している。

明治時代に於ては、洋風建築の銀行、会社、事務所等の煉瓦造や鉄筋コンクリート造の建物で、殊に意匠を好んだものを設計する場合は従来の大工棟梁では到底不可能の事で、どうしても学校教育を受けた建築技術者の新智識に俟たなければならなかつた。然して社寺や劇場、旅館、料理屋、などの純日本建築のものは矢張り昔からの棟梁の分野となつていた。尤も官庁、銀行、会社などの大組織のものには、各々所属の建築課、営繕課等があつたから民間の建築技術者の必要もないが、個人組織の各種事業体のものばかりが民間の工務店を利用していたのである。殊に明治四十二年八月大阪府が各府県に先んじて一般建築物の取締のために「建築取締規則」を施工されたので、申請者に対して、学校、病院、劇場、湯屋、工場、病院、料理屋等に添付する図面として、必らず配置図、平面、正側面、床伏、小屋伏図並に仕様、明細書の作成が必要であり、また自治団体の公共営造物や社寺の建築物に就いては、各々財源を明記する必要上各図面以外にその予算書を提出するためには、明細書が必要であつたから、たとえ大工棟梁の設計であつても必要図面の作成にはどうしても製図と申請書作成の技術を持つた事務的経験を有するものに依頼せねばならなかつたのである。たとえば現在の代理人、代書人等の建築技術を持つたものが、要求されるのは当然の事である。こゝに於て当時警察部がその取締を主管していたから、各警察署に所属している代書人の中で、建築代書として一般の刑事事務や、市役所や登記所の代書と区別されて、専門の一派を独立する様になつたのである。

こゝに於て建築代書を専門とするものが追々増加するになり、たまたま施行された工場法に依つて、民間の工場建築の場合には工場課へ届出が生ずるに至つて、其の規模の大小に拘らず、必要図面の作成がこゝに要求されるに互つたので益々代書事務が盛んになつた様である。この頃から一般民間には常識として建築と青写真というものが認識される様になり、どんな小さい住宅、貸家を建

てるにも出願の關係上所謂、製図、青写真が益々必要となつて来たのが、建築事務所への前奏曲となつて来たのである。

こんなわけで事実は大工や棟梁の書いた番附を製図する事が、建築事務所のある様にもなつた。こうして発生した建築事務所は決してよい意味での建築事務所の発展ではなかつたが、また無くてはならぬ存在となり建築設計の事業化した動機ともなつた。此の結果は玉石混淆となり一般人には立派な建築技術を持つたものも只製図をのみ業とする代書業者も同一視される結果となつた事は今に其の悔を残しているのである。折から大正九年に都市計画法施行と共に市街地建築物法の施行となり、木造建築でも少しスパンの広いものや鉄筋鉄骨構造にはどんな小さいものでも強度計算書を附けて出願しなければならぬ規則が出来たので、之迄の単なる代書人では事務の完遂は不可能の事となつて来た。こゝに初めて意匠は無論の事、構造物建築技術のいよいよ必要と共に要求される様になつた。

こゝに於て建築事務所の本格的な存在が持つて必要されることになつて来たのは、業界のため一大発展を将来したといわねばならぬ、これからは従前の代書事務所でも学校出の技術家を必要とし、学校の教員や役所の技術連もアルバイトとして利用される様になつて来た。

以上の過程を経て来たので、世間に云う建築事務所という内容にも之を区別すると随分其の際に、級程度の等差があるも当然である。

其の間純然たる技術家等は建築士会を組織して、一定の資格を設けて、吟味したものを会員として発足したのであるが、矢張り世間では代書並に取扱うものもあるので、いかに其の地位を自ら誇らしげに自尊心を持つていても、識る人ぞ知る程度であつた事は甚だ残念な事であつた。建築士会へ入会するには建築学界の正員たる事を第一条件とし、之に経験の有無社会的地位等によつて推選者を経て資格審査委員会を経て、初めて入会承認という門戸を造っているのは余程の権威でもあり、事務所の所長は所謂「先生」と呼ばれ、税務署に於ても自由職業として一般販売業とは区別して所得税法に依る課税を対照として営業税の免除される取扱を受けるまでに一步一步地位の確立に努める様になつたのである。今日建築士法の制定される基礎を醸成したのも、日本建築士会の隠れた大きな努力を見通してはならない。

然しながら一般社会からは他の医師、弁護士等の如き地位とは仲々同等には取扱はれる事なく、極めて繁雑な

事務と技術とを提供しながら、尙も多年に渉る大工、棟梁に対する 観念から其の報酬に 於ても 到底其比ではなく、従つて事務所経営の如何に至難であるかは我々「建築事務所」の経営者間に於ても未だ一人の多額納税者さえなく、貴族院議員も出した事のなかつたのが、如実に証明しているのである。思へば物質的には余りにもみじめな稼業として今日に到つたのである。

今回建築士法の発布と共に之迄の大きな期待もまた裏切られた感も大いにあるのであつて、進歩か退歩か、只法律が出来たというだけで、むしろ従来の建築士会のメンバーの如何に高等的であつたという事も振り返つて其を知るのである。然も弁護士法、医師法が出来た当初は三百代言も、薙匠者も一応登録された社会政策から思い比べるとき、今後の発展は大いに期待すべきであつて、お互に練磨研鑽に努めてよりよきものにせねばならぬと思ふのである。

建築事務所の法人組織と企業化

建築事務所の組織は明治一大正時代を通じて全く個人経営であることを原則としていたが、例外として中には共同経営のものもあつたが近頃に至つて法人組織のものが追々に出来て来た事は何といつても大変革である。

以前は建築事務所長の信用と技術とが唯一の資本であつたが、今ここに株式等に依る資本金を以つて法人化される様になつたのは一は過重なる課税に対する対策と業務の複雑に依る大組織を必要とする自然要求とに依つて発生した事は時代の趨勢の然らしむところである。

商業法人化されて営利を目的として利益配当と存続年限を定款に法定制するという事は従前の「先生」稼業としての個人性と比較して時代の流れとは云え35年史の上に特筆すべき一大革命と云わなければならぬ。

殊に政府は建築士法中、建築事務所の経営主は病院の院主と同様に取扱われ、建築士と院長たる医師とを同一の線上に並べたところは設計監理業の実態の社会的企業生を帯びたかを如実に知る唯一の表徴である。

建築事務所の変遷

建築事務所の性格は個人の人格と技術が主格である事は弁護士、特許弁理士等の事務所と違ふところはないから其の事務所長の信頼性は勿論の事であるが、開所する時期は相当の社会歴と年令とが必要条件である事は云うまでもない。役人や学校の教職員を勤めていた人が恩給年令になつた頃から事務所経営を初めるとその人の活動期間が健康上の条件とが絡んで最早や幾ばくもないから年限としてはソウ長くないのが当然である。

之も自然の結果として止むを得ない事である。我が建築協会が生れて今日まで35年になるから幾多の先輩が現はれ相当に活躍され各自業績を残されたが振り返つて見ると大半は已に故人になられ其作品は戦災にまた都市計画の犠牲になつて失はれ、名実共に此の世から消えて行

つたのはそぞろ懐旧の念と共に哀愁の感を深くするのである。

今大阪を中心として在りし昔の頃の建築事務所を拾つて見ると、現在にまで存続しているものは誠に雨の夜空の星の数にて似て全く寥々たるものである。

或は已に故人となり、或は老後を養う身となつて一線から引退されまたは他の職に転向するなど転た感慨無量である。

思い出を明治、大正時代に走せて覚束なき回顧のもとには先づ指を屈すれば、何といつても現存事務所の最も大先輩は横河工務所の松井貴太郎氏である。次は渡辺事務所の渡辺節氏で尤も戦時前後は他の方面の仕事をされていたが最近帰り咲いている。池田谷事務所(筆者)も若くして初めだが終始一貫今日に及んでいる古参組の一人である。以上大正組は第1期生である。

第2期 生としては置塩事務所の置塩章氏、安井事務所の安井武雄氏も途中請負業に転向されたが最近再び咲き組の人、東畑事務所の東畑謙三氏、石川事務所の石川寛三氏等がある。

第3期 生では小河事務所の小河吉之助氏、村野事務所の村野藤吾氏等である。

今後日の参考迄に筆者の頭の中に浮び上つて来るまゝに凡そではあるが、年代別に建築事務所名を書き上げて見ると次の様な表が出来た。

第1期 建築協会創立から大正末年迄。

片岡、河合(幾)河合(浩)横河、茂野村、設楽宗、木子、真水三橋、葛野、小笠原、国枝、竹内、柳下、横浜、橋本、和田、古塚、池田、岡部、池田谷。

第2期 昭和初年から同10年頃迄。置塩、安井、渡江、本間、津田、原科、中村、島田、石川、東畑、朝永、清水。

第3期 昭和11年頃から同20年頃迄。

長谷部竹腰、村野、松本、小河、泉谷。

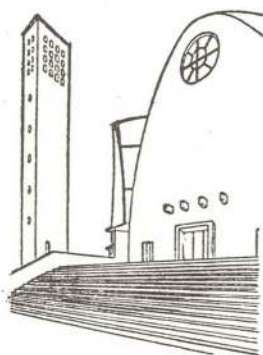
第4期 昭和20年頃から現在に至る。

中西、秋田、日建、渡辺(圭)三座。之は現在日本建築設計監理協会会員名簿から摘出。

以上列記の外数へ切れない位あると思うが今筆者の記憶に存するのみであるから、年代の前後、次第不同、脱漏も多からうと思はれる。確たる資料がないので不正確かも知れないが許して頂きたい、誰か後日補正して変遷史を編んで残して呉れるのを期待する。

註、本稿を執筆中はしがきを書き終つてから急に旅行をつづけている間に締切日となり所期の目的を完う出来ずに擱筆しなければならぬことになつたことを特にお詫びしておく。昭和28年7月21日

(筆者 池田谷建築事務所々長)



我が半生を回顧して

建材界の変遷

井上民治

日本建築協会も35周年記念行事の数々を目度く終了した。此度「建築と社会」の編集部から、〃建材界の回顧〃を書けとの御話しに、一応お断りしたが、自分もこの業界で皆さんのお世話になつてもう35年にもなると思うと、今更乍ら随分永いよおな気もするので、記憶をたどりとりとめもない事を書いて見る事にした。

緋の着物にセルの袴、それは大正8年2月の初旬、寒い夜汽車のなかで、未地の土地門司の就職先きへ赴く不安な24才の自分の姿であつた。

入社したのが資本金20万円也・株式会社森和商会という、セメント、煉瓦類を販売する建材屋であつた。「給月俸金10円也、命 販売系」この紙1枚が今日の自分の運命を決定した門出の第1歩であつた。この会社は、古いセメント屋さんのご承知と思うが、浅野セメントの有力な特約店だつた。岡山の山下忠四郎商吉初代門司支店長森田福市氏と、2代目支店長和氣正太郎氏の共司設立の会社であつた。販売系といつても、初めは事務所で伝票一枚書くでもなし、セメントの貨車卸、貨車積、赤煉瓦の水揚げやら、大八車でこの重いものを運搬するのも若い社員達の仕事であつた。そのセメントもこの頃のように、扱いのよい紙袋入りでなく、あの50貫もある樽入りで、今の若い人達にはセメント樽といつても、実物を見る機会もないからピンとこぬと思うが、この取扱はなかなかの重労働であつた。蓋に一杯〇〇セメントの商票紙を貼つた樽を見るとうらめしくなつたものである。

その頃セメントは1樽4円台でその利益が10銭—20銭で、運賃の何分の1というわけだから、明けても暮れても運賃の研究計りしたわけで、後年種々の商品を取扱うようになって、その頃の勉強が必みこんで運賃観念という事がいくら役に立つたか、知れないと思う。洋館とか目新しい工場建築といえ、現在の如き鉄筋コンクリートではなく、皆赤煉瓦建で、隧道工事も内部煉瓦巻きで門鉄司の何10万、何100万枚の煉瓦入札には関門築業、

三津戸浜煉瓦、讃岐煉瓦の大手筋の血の出るような競争で何れも必死であつた。

大毎門司支店の建築も其の頃で明正社建築部の請負で吾建材界の大先輩志垣氏は、お隣りの明正社門司支店長で、この資材の購入等もせられていたので恐る恐る何度お伺いした事やら、氏にはご記憶があることと思うが、

第1次欧州大戦後の景気が高潮し、セメント1樽5円6円、赤火瓦も2銭3厘、2銭5厘とそれぞれ値上りし売行きも活潑となつた。新米為替も49弗何分の1という現今の1弗360円とはまるつきり夢のようで、輸出はぐんぐん伸びて、多額の輸出超過、毎日の新聞紙上には新設会社や増資の株募集の広告が氾濫し、申込書を送つておけば何分の一から割当が来る。払込みもせぬ間にながしのプレミアムがつくという状態であつた。森和商会も100万円増資し資本金120万円となり、社名も東洋建築材料株式会社と改めた。その年の12月25日に賞与金100円也をもらつた、この稿を書くに当つてその時の辞令を探し出して、何年振りかに眺め、数々の記憶がよみがえってくるのも楽しいものである。

大正9年4月大坂支店へ転勤した。支店は京町堀五丁目で、市電も岡崎橋から堂島大橋えかけて家屋をこわしていた時であつた。現在の中央市場も出来る前で生魚市場は「ザコバ」といつて、夏の夜はその近くえ夜店が出て賑かなものであつた。セメントは1年前の1樽4、5円か15、6円にも高騰、赤煉瓦も4銭5厘、5銭となつた。それから間もなく、例の未曾有の大パニックが来て、急転直下、美酒に酔つていた当時の人達を真青にさせたものである。例の鉄屋の中村照商店、増田ビルブローカーの破綻を口火としてがらがらの大崩れ、堇花一朝の夢とは、工事中止の建築物の残骸が、あちこちに見られたのもこの時であつた。大坂通信局で、桜宮倉庫納めのセメント何千樽かの入札に1樽8円いくらが落札したのを覚えてる。会社も打撃が大きく、毎日出勤はするが、何

もする事はないし、独身者ののんきさから「イーストマン・コダック」を持つて、友人と阪神間の工場で煙りの出ている煙突が何本あるとかかけをして毎日、尼崎方面へテックタリした事もあつた。若き日の想い出の一齣である。結局大阪支店閉鎖、本店へ引上げた。本店も社員が1人へり2人へり、最後に整理委員が数人残るだけとなりとうとう解散の憂目を見、うらぶれて故郷に帰られるでもなし、月給取りの悲哀を泌々と味わされて人生勉強の第一巻を終つた。

他人の店先きを一問かりて建材なら何んでもこいの井上商店（ブローカー）を始め、どうやらかつこうがついたので結婚した。

飯塚郊外の小炭坑の貯炭を一山2000円位で約束し手金を入れて、広島方面の旧知の煉瓦工場へ販売して一儲けしようと、血の出るような金策をして、いざ積出しにかゝると、さあ大変、この粉炭の山は外部はきれいでもそのなかは自然燃焼で灰になつてしまつていたのでまるまるの損失、涙も出ない始末、これが端緒で、折角軌道に乗りつゝあつたものも、元の木阿弥で閉店のやむなきに至つた。

そうしているうちに日石下関販売店長の笹岡氏に招かれ下関へ移転した。関門と云へば当時日本三大市場の一として、満州朝鮮、台湾への進出口として殷賑を呈していたが、建築材料は大正9年後半期よりの不況に11年になるもなかなか景気わよくなかなかつた。当時九州及宇部等の炭坑の抗夫長屋の屋根材として、ルーフィング（その頃は便利瓦と称していた）を知つた。国産品として始めての、日本建築紙工大阪支店より高田馨三氏が来られよく宣伝に同道したが、壺巻10円渡しで2円以上の利益があつた。ルーフィングの高田といへば戦時中物故されたが業界では活動家であつた事はよくご記憶の事と思う。

大正12年関東大震災があり。災害の後生々しい時、初めて東京の地に足を印し、丸之内21号館を出張所として活躍した。セメントも樽入りから麻袋入りとかかわつた石綿煙突の元祖、金剛煙突で有名だつた金剛商会の多田学氏が、大井町に石綿スレート製の製造を始め、浅野、野沢の古豪と販売競走を始めたが、16時角1枚5銭何厘まで値下げして失敗に終り、朝日を加えて日本スレート販売株式会社を創立された。金剛商会えセメントを供給していたので、多額の代金回収が不能となり全く困り、遂には在庫品全部を背負いこみ、販売、施工請負に先方の経験者を数名入店させてこれに当らせ漸く解決した。スレートを扱うようになったのはこの時からである。前記の競走の余波を受け困つて居た時、東京スレートの責任者齋藤慶三氏と種々折衝し、石綿はカナダより、セメントは小野田と、何れも三井物産より供給を仰ぎ、これによ

り製品の半数を引受け販売する様話が纏つたのは成功であつた。

大正14年大阪支店に転勤、店は中之島にあり、日本スレート販売会社は江戸堀にあつて、河合氏が支店長であつた。設計指定運動が猛烈で販売会社取扱いの4社製品以外は社外品と称して、なかなか販売に苦んで羽倉儀平氏が特許をとつていた「羽倉式クランプ」の販売に協力する事になり「東京スレートに羽倉氏クランプを使用して葺上ぐべし」の宣伝に各府県の官庁を熱心に廻つたものであつた。たまたま第三師団で各務ヶ原飛行第1第2聯隊及補給部の、スレート屋根全部の葺替工事に羽倉式の御指定を受け1万何千坪かの施工をやつた事は当時の快心事であつた。

大正15年、独立開業を決意し中之島5丁目に家賃45円敷金120円の家を借り、今もある電話土佐堀2727番を保証金50円、月14円で賃借りした。形丈だけは整つたが、思案の結果、東京スレートの斎藤氏に相談し、種々の条件を有利に纏めて出発した。漸く軌道に乗つた頃、金剛商会支店え金剛板（大平板）の注文に行つた事がある。その頃は久保氏や神谷氏の居た時分で、支店長に、いくら事情を話して頼んでみても、絶体現金取引を一步も譲らず、東京時代にスレート工場の苦境の際、微力をつくした事を想い出して悔しかつたが、後日事ある毎に反省し「会社の重鎮として内外に重きをなし、自他共に許していた人が、一旦独立した際、余りにも過た日の夢を追い過ぎて失敗した人達のいかに多いかという事を」その時気付き、以来自重と発憤の好材料としてきた。

中島製作所が佐藤憲造氏の指導で「ウェットマシン」2台を製作し、1台で東京荻窪に、富士スレート株式会社を創立、あと1台を放出工場に据えつけて東洋スレート株式会社も創設された。

土佐堀橋電停前に居た建盛商会梶田氏が、歌島橋えルーフィング工場をこしらえ移転したあとえ、店を移し「佐藤合名会社」と組織を改めた。浪速建材株式会社も同じ5丁目で、防水工事とサッシュを取扱い、当時一流建材業者たりし、木下謹三商店も江戸堀南通へ立派な事務所を新築されたのもその頃であつた。ルーフィングも「日出」「三ツ星」「マルエス」と三大メーカーの優秀品が巾をきかし、輸入品はだんだん姿を消し、そこえ「工英社」「建盛商会」製品の出廻るにつれて、次第に競走も激しくなり、特半号、半号、1号、2号品というように貫建で、一番安価は、1貫40銭前後だつたと思う。何号品とプライマークを貼つて居ても次第に目方を落して規格も崩れて無茶苦茶になつたものである。それから有名な昭和の大バニク、金解禁の極端なデフレ政策で未曾有の不景気の襲来は、時の井上準蔵相の暗殺に迄発展し手のつけようもない状態であつた。店の方も折角順調

に進んでいたのにこの被害を受け、売掛金の回収不能の
為小切手のたらい廻しを1週間もやる等し、それこそ世
の中が嫌になり死をさえ覚悟した程だった。昨今流行の
融通手形はこの事があるのでよく肝に銘じて、再びこの
失敗を繰り返さぬ様心掛けています。

東洋紡績敦賀工場新築工事の内第1期、第2期を通じ
防熱コルク張工事を大林組より受注したのは其後であつ
た。コルク板2吋角約20万枚を要した、コルク工事とし
ては今迄にない工事で工員60名で2年を要した相当問題
の仕事であつたので、佐藤合名はつぶれるだろうとの噂
がもつぱら立つたものである。コルク板の注文は、広島
東洋工業へ出張し、社長松田重次郎氏に交渉したが(そ
の当時多量生産の工場)当時としては余りにも数量が多
過ぎて、原料が足らず末弟を朝鮮に3ヶ月も出張させ
て原料集めにあたらせ、汽船で宇品に揚げ漸く完成した
のは一生を通じての一番痛快事であつた。

昭和9年の関西大風水害の記憶をたどつて見よう。物
凄風風のうなりに2階から見ると、店の前に止つていた
積荷のまゝのトラックは、風のたびに後へ後へ押され、
街路樹は将棋倒しにたをされ、川向いの東神倉庫の亜鉛
板はウナリを立てゝ飛んでいった。少し静まつて、土佐
堀橋のてすりにすがつて見ると橋際の家が、スローモー
ション映画をみているようにつきからつきえと倒れてい
くのが見られた。夕方九条の東洋スレートへ見舞にいく
と川口あたりの電車道は腰あたりまで水がきて、木煉瓦
が浮いてとても歩けなかつたのを覚えている。翌日は早
朝から、スレートヤルーフイング類の屋根材を買いにお
客がつかけてきた。其後数日はトラック借り切りでス
レート工場より被害現場の運搬が続き、スレート職工が
うけに入り、松島を根城として職場へ通つていた者もあ
つたようである。翌年佃町に工場を新築し、ワイヤーラ
ス製造機械を据え、蛇籠の製造を開始したワイヤーラ
スは川崎式と指定になつて居り、蛇籠は川崎式特許とて、
製造から販売に随分苦労して、各県土木部を歴訪してこ
の諒解を得るのに苦心惨胆したもので、この間に友愛会
大阪金属総同盟という労働団体の後援でストライキの茶
番劇もあつた、丁度くさつていたので、工場閉鎖で対抗
して僅か1週間位で解決した。昭和10年佐藤産業株式会
社と改組し、主力を植民地に置き、台湾テックス製造所
の一手販売をし砂糖積込船の辰馬汽船と特約して毎航海
大阪揚はもとより、門司港で積替え、朝鮮、満州等えも
相当の数量を出したものである。

昭和12年日華事変が起き社員がつつぎと応召し半数
に減つたので、思いきつて業務の縮小を決意し、株式会
社を解散、佐藤産業商会と個人経営に変更し、大同ビル
4階に移転した。事変直後々と病院船の帰還に金岡陸
軍病院の建設が始まり波形スレート1万数千坪の施工を

競負つたのが、坪5円5銭であつた。それから岐阜、川
崎、明石の航空機工場のスレート屋根、壁、天井大平工事
約10万坪の施工を終つた頃は店に2、3名しか残らず皆応
召してしまつた。事変が太平洋戦争となり、鉄鋼統制は
益々厳しくなり、災害復旧用蛇籠も次第に線材の配給が
減つて来たので、蛇籠統制協議会(東京の川崎、東洋鉄
網、長作工場、木崎と大阪佐藤産業の5社と商工省、内
務省、農林省、日線工聯)をつくり、毎月会合して、割
当てをとり各府県に供給したものであつた。戦況の雲行
きも危くなつた時には、タイピストたつた一人丈となり
第一回の大阪空襲で江戸堀倉庫はまる焼けになり、毎日
サイレンを聞くようになり、疎開を決意して、工場も売
り整理も勿々に閉店、郷里岡山へ帰つて百姓生活に入つ
た。

悪夢のような戦争も終り、インフレが郷里の山奥にま
で及んで来た。23年7月又々大阪へ帰つて来たが、5年
余りのブランクは、何を始めるにも億劫で、毎日弁当持
ちで、知人や新聞社、北浜の証券会社等を訪ねて色々
意見を聞いて歩き、何をやるにも建材以外の経験もな
く、色々煩んだ末、20年来の旧知山中氏(山中製作所)
と相談の結果同氏もラス工場が閉鎖のまゝであつたので
その再開を計り、製造と販売の分野を取極めて、一身
合体の協力を約して愈々24年現在地を求め一切の準備を
完了。井上工材株式会社として新発足したのである。

以上私の半生の記録を通しての建材界の変遷を筆した
が、最後に感じた事の一端を筆し結びとしたい。今迄の
建材業者のありかたを見ると、全部とはいえないが、余
りにも無暴の競争が過ぎはせぬかと思われる。そのこと
が自然材質の低下と、不正の施工に落ちるのではない
か、互に心して自重しなければ建材各業者の発展と向上
が計れないのではないかと思う、今後共生ある限り建材
業界の発展を祈ると共に微力ながら力を尽くしたいと考
えている。(筆者 井上工材株式会社社長)

×.....×.....×



床の清掃維持方法に就ての
(9月20日建築会館に於ける講演要旨)
プリント御希望者はお申込下さい

ケントク
Kentoku

家屋の艶出

清掃作業も
御引受けします

大阪・北区豊橋(産経ビル前) KK ケントク
東京・神田小川町1(三越ビル) 東京ケントク
名古屋・駅前 堀江町2ノ1 KK ケントク

私たちの 建築史

(7)

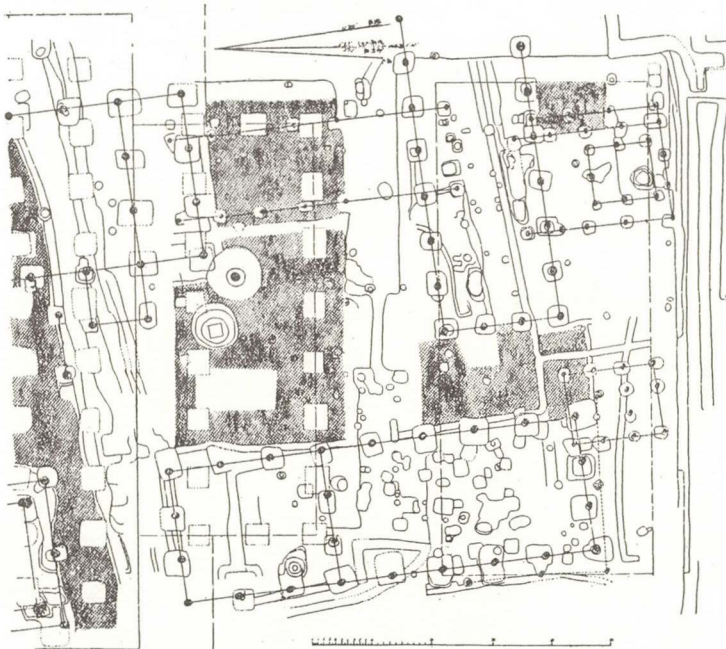
林 野 全 孝

中 期 —— その3 ——

1. 住宅の遺蹟と遺構

この時代の住宅は、前期より余程進歩しました。但し一般大衆の住いは、都ではやや都市風をおびてきますがその他ではやはり前代の延長で、掘立式のものも少なくありません。

かつて浅野清氏が法隆寺の東院を発掘したとき、伝法堂当り一面から、飛鳥期と思われる宮殿址が現れました



第41図 舍利殿絵殿並びに伝法堂下発掘の東院創立前に属する遺趾平面図



第42図

(第41図) いずれも掘立式の柱で、その下に礎板を置いた(第42図)もので、丁度登呂発掘の柱根に類似しています。(第12図) この柱を連ねた場合、いくつかの建物に廊下で連なっていて、丁度後世の寝殿造を推察させられるようなものです。これが、聖徳太子の斑鳩宮址であろうと言われていますが、確言出来ません。

この遺跡の上にある伝法堂は、天平11年(739)に橘夫人の邸宅の一部を法隆寺に施入され、仏殿に改築されたものです。(第43図) しかし、浅野氏が調査された結果、施入される以前の姿が判明しました。(第44図) のように全部床が張られ、後方に四方扉と壁の室と、前方に二間吸放ちの堂とから成り、堂の前に、すのこの縁がついていました。側面は五間(第45図)ですが、後改められて7間となりました。(国立博物館、調査報告) 次

に、藤原豊成殿というのがあります。これは現存しませんが、中將姫の父豊成が、天平15年近江の紫香楽(しがらき)の宮の近くに別業(別邸)を建てたものの一つです。(第46図) この建物は、天平宝字6年石山寺が建つとき、解体されて、寺の食堂にされたもので、たまたま、そのときの部材数量書が現存していますので、関野克氏が復原されたものです。(学会論文、昭和11年10月)

この建物は、伝法堂と違って、両面に一間吹放ちの縁を取り、室は壁と扉と、連子窓で囲まれています。又手法も伝法堂より簡単で、斗や蓑股や虹梁は使っていません。屋根も板葺(但し1寸以上の厚板)です。尤も伝法堂も当初は板葺だったかも知れませんが、床板はどちらも3寸以上もあり、大引の上ですぐにかかっています。



第43図 復原伝法堂

住宅関係の今一つの遺構が、大和西の京の唐招提寺にあります。(第47図) 続紀によると唐招提寺はもと、新田部親王の宅地であつて、内乱のかどでぼつ収され、その後この旧地を唐より渡來した鑑真に給つたというゆかりがあります。さて今もこの一角に校倉(あぜくら)が二つあり、これが親王宅地の名残とされているのです。最近浅野氏は南の方の倉を解体調査され、もとは豕叉首(いのこざす)の小屋組をもつた切妻屋根とされています。(第48図) (考古学雑誌昭和27年3月号)

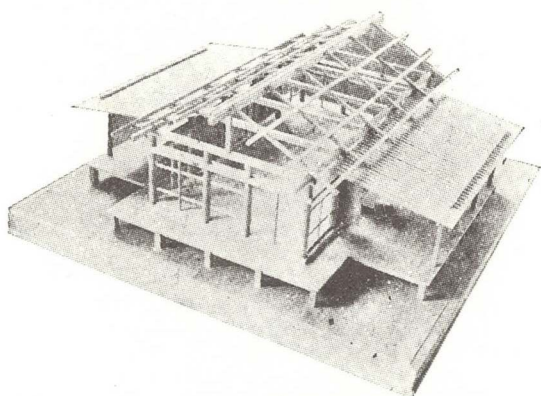
以上が邸宅関係の知り得る限りの形体です。

2. 宅地の班給

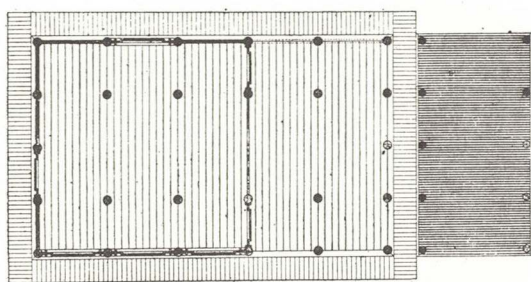
前号で述べた藤原京や平城京などで、貴族や大衆はどんな宅地を持っていたらうか。大路や小路に囲まれて、住居がどういふように囲まれて建つていたらうか。実の処、平安京では相当程度明かにされていますが、それ以前については良くわかりません。特に平城京では特殊な例の他は不明です。

平城京以前の都である藤原京では、書記持統5年12月に記録があり、大要次のようになっています。

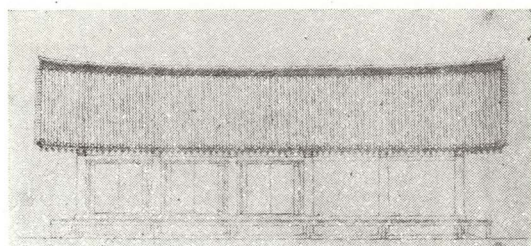
左右大臣の宅地	4町
直広式以上	2町 (3位以上)
大参以下	1町 (4~5位)



第46図 藤原豊成殿板殿復原模型



第44図 伝法堂前身の復原平面



第45図 伝法堂前身の復原側面

勤以下	上戸	1町	(戸口30人以上)
	中戸	½町	(#20人以上)
至無位	下戸	¼町	(#20人未満)

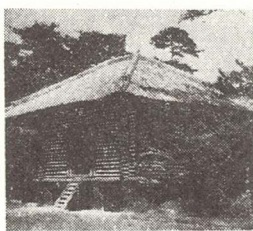
1町は大体3600歩ですので、勤(6位)以下無位の大衆の宅地は、1人当り90歩~45歩となります。(関野克氏の計算)

さて平城京はわからぬとして、平城京聖武天皇の離宮であつて難波京の班給を参考に上げますと、次のようです。これは続紀天平6年9月の記録です。

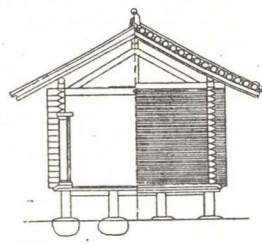
3位以上	1町
5位以上	½町
6位以下	¼町

これは、藤原京より狭く、約半分位ですが、もともと難波京は離宮であり、大阪の上町台地という狭い処に築かれた都ですので当然でしょう。

平城京が平安京に遷る途中に長岡京が一時的に存在しました。長岡京は、当初永住する予定で計画が行われたものですが、事情で実現しませんでした。しかし、平安京が出来て後も、長岡京に土地をもらっている人があり



第47図 唐招提寺校倉(北)



第48図 同復原(南)

それらの記録から見ますと、班給宅地は藤原京と良く以ていたようです、又平安京とも以て居ます。

そこで、平城京も例外である筈はなく、やはり藤原京の制度を引いたのでしょう。しかしつつ一例として縦三位某の家地は1町だったことがわかり、これは難波京に相当します。だから藤原京の半分です。それで私は大たんな想像をしますと、平城京は藤原京よりはるかに広いのに、3位でその半分しかもらえぬとすれば、やはり、宮城や寺院が極めて多くの土地を占め、又2位以上や皇室が、ばく大な土地を占めるに至つたからだと思ひます。人口が密集したからだと言く人もありますが、そう思いません。

3. 平城京内外の庶民（公民）の宅地

平城京では、貴族や官吏の宅地は、はつきりしませんが、庶民、中でもお経を写して生活していた人たちの宅地については、正倉院文書中に宅地を質草にした文書が数葉残っており、やや明かになつています。これは、明治44年に喜田貞吉氏が、又昭和15年に松崎宗雄氏が（建築史2巻6号）更に関野克氏が研究されたものです。これを二三表示しますと次のようになります。

人 名	物件	月借銭	宅 地	歩	一坪に 対して	居所
丈部 浜足	板屋 2間	500文	16分之半	69	$\frac{1}{32}$	右3.3
田部 国守	同上	500文	16分之4	35	$\frac{1}{4}$	左6.3
大宅首童子	板屋 5間	1貫文	16分之1	59	$\frac{1}{16}$	左8.3

家は板屋が多く、屋根に板を葺いた簡単なものでしよ

う。又板屋一間に10人位住んでいたようだから、1人当りの宅地は6歩位になります。

平城京では、一坊の $\frac{1}{16}$ が1町（=1坪）で、40丈四方のことです。庶民の場合、この1坪を更に16等分し、これを庶民宅地の単位としたようです。この単位を更に $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{4}$ にしたものもあります。（尙表中、右3.3とあるのは右京3条3坊のこと）

平城京以外の宅地についても、略々同様のことが言えます。これも文書が沢山あります。大体、家地一段、板屋一間という狭いもので、倉はなく、板屋の大きさは長さ1.3丈～2.0丈巾0.7丈～1.2丈といった極めて小さい家でした。そして当時の庶民は、これらの宅地や家さえ、質に入れて生活しなければならなかつたのです。

4. 結 語

宮城の広さは4坊、乃ち64町、貴族は2町～4町以上寺院が10町内外、庶民は1町の $\frac{1}{16}$ の更に $\frac{1}{2}$ といった狭い宅地に、あわれな板屋を建て住んでいました。高位高官の人は、立派な瓦葺板葺の家棟をいくつも並べ、倉も沢山持つていました。その実例は第一節に述べたようなものです。しかし庶民の家は、板屋以下のもので、万葉集を見ても又地方の文書に見る草屋を見ても草葺きのあわれな住居の存在を知ることが出来ます。其の他に、例えば東大寺の「布施屋」というのがあり、窮民救済の社会施設であつた。家宅を質にした人達の幾人かは、ここへ入つたでしょう。しかしそれも焼け石に水でした。

（筆者 大阪市大理工学部瀧沢研究室）

城口君・谷さん・中之島——藪中一良——の続き

（47頁より続く）

と思う。

片岡博士の告別追悼式が、その因縁の公会堂でしかも自分の遺作品の裡で行われた。これも亦寡聞にして未だ耳にしないのである。況んや、建ちならぶ遺作を前にしてとなると、恐らく博士の本懐ではあるまいか。

建築は時代の好尚によつて評価がかわる。朝に国際の新鮮を喜び、夕に国粹の幽玄を誇る。世紀の蒼苔と烟都の黒煤とは、建築の顔色をも更えるかも知れない。けれども、これに注いだ建築家の情熱はかわるべくもない。たとえば、日銀や図書館、公会堂等の窓台下を見よといいたいのである。これ等より数十年新しい建物の窓台下の煤で黒ずんだのとを比較すれば、一目瞭然、一事が万事だといつても過言ではないと思うのである。

谷さんは、公会堂を最後として建築界を退いて晩年は

設備、殊に昇降機輸送機界の人となられた。谷さんの建築家として最後の情熱を燃焼し尽された公会堂こそ、われわれが谷さんの最も相応わしい慰霊祭場ではなかつたろうか。

ともあれ、谷さんは、岡田、辰野、片岡の諸先覚と共に公会堂には忘れてならない人なのである。谷さんは不幸子宝に恵まれなかつた。昭和28年6月23日に白玉楼上の人となられると肉身の繋りの後嗣はないことになるけれども、われわれは、何日でも在りし日の谷さんの情熱をあの公会堂のどの部分でも感得することができるのである。（53.7.5起稿）（筆者 本協会元理事）

..... (◇)

九州の水害を被つて

九州支部会員 熊本市本外堀井町72

古 閑 靖 通

熊本市内の被害状況に関して、私の体験した事を簡単に御知らせ致し、これが何かの御参考になれば幸と幸いです。今度の水害は六拾年振りと伝えられてありますがその当時の状況を年老な人に聞いて見ましたが、河川附近一帯と、低地の部分だけの被害で水量は十分出たようですが、今度の三分の一位では、なかつたろうか、と云う話です。本年は量も多く、又其の半分は土砂であつた事が、特に相反する点です、新聞ラジオ等で発表された様に市内一面が泥海と化してしまつたのです。

入梅前から例年程度の雨量で一ヶ月以上続き、入梅期から雨量も日増に多くなり、雨又雨の連続でした。前日から急に大粒の大雨となり早くも市内の下小道では排水出来ず、低地や道路等は水が溜り、歩行困難となりました市内の中心地を流れる阿蘇高原野から打出する白川を眺めますと川幅百米以上もあるのに刻々と増水がわかり数分間に一米位上昇し、自動車の走るような速度で下流へと流れる。早くも上流の木橋が流れ落ち次から次と木材類が河一面に広がり濁浪と一諸に流れて来る。雨は降続き水位も橋桁迄上り低い塘から河外にあふれるこの頃になると、市内の下水道では河面が上つた為、逆に道路上に泉のように吹き上げ一面水海となつてしまつた。

私が或る木橋を流される迄見ました、上流から来る木材等が次から次と、橋柱にかかり水面も桁あたり達したと思うと、中心が浮び上り横振り始め半弓のようになつた、すると間もなく梁桁類がばらばらに浮流して両端にかけて同様に浮び流失するまで、湯槽の中で、洗桶をいぢる程度で楽々と持去つて後には何も無い。

あの阿蘇山腹の水が山津浪となり白川に打出し崖は破壊し、家屋が流れ木材類と雑物と一緒に土砂混合の濁流が下流へと走り、木橋を打流して市内に押寄せたのですこれが為、市内の木橋は勿論の事、鉄筋コンクリート橋も打流されてしまい通行出来るのは一ヶ所です実に無情の至りである。市街に入る白川の子飼橋の鉄筋コンクリート橋に何千石もあろうと思われる木材類がかかつた為河を仕切つてしまつた。これで流水が一旦止められるので、水圧が右左岸に当り塘を打破りあつと云う間に市街に出てしまつた。この出口附近の家屋等一たまりもなく濁流に吞まれ此の一帶の者は家屋諸共、数百人が押流されて溺死又は不明となつた。実に恐い事である。

私の家も此処より一軒以上離れているのに流れに吞ま

れ、家財道具を揚げる間もなく軒下まで泥水につかりかろうじて家屋は助つたのです。泥流の来たのが午後九時頃と思う、電燈が消えて真黒になり水音に驚き外を見ると一面泥海となつて押寄せて来ている、外に出ようと思うが戸が開かない、まごまごしている間に背が立たなくなり平家であるので押入の中段から天井を破り屋根を打破して上に昇つた、雨は降る、外は真暗で何一つ見えない人々の声が高まり助けを呼び乍ら流れて行く者もある、家が音をたてて壊されている。材木類が流れて家に当り気持の悪い程振れる、気の精が浮び上る様で何時流れるかもしれない生死の界をさまよい、二三時間は過ぎたろうか塘水が止り少しづつ下り始めたのである。この時の嬉しさ、助かつたと云う気持で皆な顔を見合せて涙の出たものです。

夜が明け初めた頃は水も大部減り室内に降りて見たら何と泥田のようになつて家具類は壊れ又は返され、建具は流れたり、壊れたり見る影もない有様、外を見ると水魔と戦つて生を得た各被害者が彼方此方と夢止めしている。実に惨たんたる現況である。熊本市全般に此の様な惨事が一夜の内に起つた恐い水害で毎日々々泥砂掘出しに一生懸命に戦い続けている。

今度の水害は勿論雨量も多かつた事と、阿蘇から打出した水と、十五日の満潮の大潮が一諸になつたため、河水が潮に押されて、排水出来ず堤防や塘を打越したのが原因だつたろうと思われる。

この様な事が再度起らないように河塘を高める事が必要だ。

私が一寸気の付いた事であるが市街の隅々等に水票を設けると良いと思う。今度の場合も各々自分達の地盤の高差が解つておれば塘を打越した水が来ても有る程度の準備が出来て被害も減少出来る。河岸一帯は一目で解るが市街の中心部は想像も出来ぬ有様で町の所々、電柱にでも良い、人目で気付く場所に明記すれば皆誰でも常識として知れる。二度と洪水が有つては困るが用心に設けたいものである。

記載事項のお願い

大阪市役所住宅課 水 谷 正 幸

私の要求致します事は建築、行政の件であります。

例えば一級、二級建築士、建築主事等の、試験がありました時には試験問題を記載して頂きたいと思ひます。

又別冊でお送りして頂きたいものです。それから、資材価格等の、変動等をお願い致します。

新材料ニニュースを！

A I 生

今回より本誌上に「会員の声」欄を設けられる事になったことは会の為にも又会員にとつても喜ばしいことと思う。会誌は一般会員にとつては毎月最も大きな期待をかけているものであり従つて編集担当の方々は常に会員の意嚮を反映した方針に則つて居られることと思うが、やはり会員が積極的に意見を陳べてないと、ともすれば遊離したものになりはしないか。その意味で大賛成である。大いにしかも気軽に誰でもどしどし投稿したいものだ。此れが結局我々の会を発展さす一つの道だと思ふ。

さて気付いた点の一つ、時々地方都市に行き建築技術者に接して色々の意見を聞くが、新しい材料に就てのニュースが大都市と較べ非常に遅く、色んな点からも田舎はやはり田舎であるが、出来るだけ早く知りたいものと言つてゐる。勿論大多数は協会員ではないが、他の充実と相俟つて、こんな欄が設ければ発展等の一助ともなるう。

協会が発展するにはどうすれば よいか、その他

脱会員より再入会したき者

協会は雑誌の配付に依つて会員としている以上、雑誌の内容を変更する事。

(イ) 雑誌の半数は業者の宣伝である。(ロ) もつと設計、施工、数学、構造等に関する頁を設けること (ハ) 業者宣伝収入に依つて雑誌発行が容易なれば我々としては、設計、施工、構造、設備、数学等、其の他の件が記入しあれば、勉強雑誌ともなり、若い建築家がどしどし入会する事と思ふ、又小生が協会へ紹介せし12名の人が、又入会すると、此の12名は今では脱会している。

「建築と社会」誌についての要望、批判。(イ) 上記の通り建築家に必要な記事のみをのせ業者の宣伝は別に発行するべきである。(ロ) 協会を脱会した者は皆新建築及建築学会の雑誌等を手に入れているから内容を他の雑誌に負けない雑誌とする事、入会者は多少の金銭は言わないはずである。

見学すべき建物については現在の所で良いと思う。「若い人の声」として上記の如き老若男女を問わず勉強参考になる雑誌を発行する事を希望しております。

此れ等の願いは建築界発展と進歩に大きな役割を与

え明るい気持で望んで行けるのも協会の一大使命と思います。

会費に理解をもて！

H U

梅雨も上り良いお天気になりました。照りつける太陽でびつしよりと汗かにじみ出る様になり、涼しい憩いの場所が何より体を休めるものです。暑い折にも会員諸兄には新しい希望と実現の道に毎日多忙な事と思ひます。所で我々協会員も今までの協会の歩んだ古い道を新道へと時代の道と理想によつて構想するものですが、ここに新しい義務をわすれてはならないと思ひます。それは会をもつと理解する事であり、これによつて発展し、会員相互の親睦を見る事が出来るものと思ひます。これに義務となつてゐる会費を理解をもつて払うべきだと思ふ。私自信も度々訪ずれる集會者を見て、なぜに彼が皆からあまでも文句を言われなければならないのか、彼が協会の事務を担当しているとは云え、彼がどうのこうのとやつてゐるわけでもない。一定の給料日に集金にくだりだけである。集金とはどんな意味にあるか。

義務である会費なら彼にそう手わずらわさなくても良いものと思ふ。彼等は会員諸兄の便利を計つて、御都合をお聞きするものと思ふが、此の暑いのに汗を出し諸兄の手元迄行き今日は都合が悪いとか何とか云々する事は賢明なる諸兄も 12、3才で義務をわすれているものと思ふ。私は会の発達を心から願う者であるが、会其のものも会員の気持を吸取つて雑誌其の他に心掛けて頂く事を真にお願い致します。(建築課勤務)

水害対策を講ぜよ

その復旧予算と復興プランを立て

S 建設技術者

西日本、紀州、中部方面に起つた水害によつて九州で2500億円、紀州、中部で1000億近くの損害をもたらしつてゐる。その復旧は緊急事だ。政府はわずかに数十億円でお茶をにごしてゐるから、至急に3500億円を計上して、復旧に充てるべきだ。その費用は、再軍備に廻す金を使用すればよい。仮りに2ヶ年計画としても年1750億円の予算でもよいはずだ。そうして、労働者や農民に仕事を与えることだ。そうすれば、国土の荒廃を救う大きな運動を起す第一歩となるだろう。このような、復旧予算と復興プランを組み、国民の生活改善と国土の荒廃を救う対策を、国民の側から立てようではないか。

九州だより(第2信)

鹿島建設株式会社

常務取締役九州支店長 村井佐八

拝啓 今回未曾有の豪雨により九州地区出水の際は早速御町重なる御見舞を頂き厚く御礼申し上げます。弊社各現場に於ても相当の被害を蒙るものと存じて居りましたが幸にも損害は軽微でございましたから何卒御放念下さい。但し九州としては稀有の惨害を蒙つて居りこれが復旧には容易ならぬものがありますので特に建設の一端を担う者として今後復旧に最善の努力を尽す所存でございます。先は右取敢えず書中を以て厚く御礼申し上げる次第でございます。敬具

小倉市到津新町二

株式会社 藤田組小倉支店

謹啓 今回の水害につき早速御鄭重なる御見舞を辱ういたし深謝致します。弊社も遂にこの厄を免がれ得ず支店事務所現場等浸水致しましたが幸い損害を軽微に止め得工事施工に支障を来すことなく一同新なる決意のもとに復興に寄与致す覚悟で御座いますから旧に倍し御愛顧の程御願い申し上げます。略儀ながら右御礼申し上げます。

昭和鉄工株式会社

社長 飯田 実

謹啓 当地方を襲つたこの度の水禍に対しては早速御鄭重なる御見舞に接し御芳情有難く深謝いたします。その惨状は言語に絶するものが御座いますが幸いに弊社は僅かに工場内浸水の程度にて被害無く平常通り操業中にて生産上些の支障も御座いませんから何卒御放念下され度願ひ上げます。先は取敢えず書中を以て御礼申し上げます。敬具

池田建設株式会社福岡支店

支店長 馬越繁造

此の度の水害に際しましては早々御町重なる御見舞の御言葉を賜りまして誠に有難く深謝致します。弊社は幸いにして軽微な浸水の程度で平常通り営業を致して居ります。尚工事現場もほとんど被害なく作業を続行致し居りますから何卒御放念下さい。様願ひ上げます。先づは不取敢以寸書御礼申し上げます。

福岡市今原町4/127

松田昌平

初夏の候御健勝を御喜び申し上げます

九州地方の水害につき早速御鄭重なる御見舞を頂きましていつも乍らの御懇情誠に有難う御座居ます、厚く御礼申し上げます。

稀に見る大雨のために、当市内の中心に在る拙宅でも下水のはげが悪く畳の上6寸位まで濁水に浸されましたが、幸いに2階がありましたので待避した様な始末で別に被害に御座居ませんので御安心願います。

北九州、熊本、佐賀、筑後附近の災害は言語を絶すると申しても過言で御座居いません、人畜を失い家を流され食糧は水浸しとなり衣料を奪われた人々に比べればもの数では御座居ません。

急に暑くなる事でしようから御自愛の程を希います。

大牟田市西米生沖田

嶋生茂

御見舞有難う御ざいます。

大変な雨でございました。聞くも見るも水の力の恐さ許りと哀れな話して気もめいります。

御蔭様で少し床下浸水しましたが、物の数にもはいりません。子供達は海水浴と許り広縁からポーチをでて裏の田一面の水の中で魚を追い廻す有様、家族一同無事元気であります。生水、生物気をつけて居ります、他事乍ら御放念下さいませ。合掌

株式会社間組福岡支店

取締役支店長 田中敬親

拝啓 今回の水害に対しましては早速御見舞いを賜り有難く御礼申し上げます。

当地方此度の洪水は60年来のものにて被害は殊に甚大なもので御座居ましたが幸いにして弊社の損害は軽微で御座居まして営業には何等の支障もなく水害復旧に全力を尽して居ります何卒御安心下さい。

先は右取敢えず御礼迄

大阪電気商会九州出張所
大阪暖房商会

所長 木村貞雄

謹啓 益々御隆昌奉大賀候

陳者今般九州地方の水禍に際し早速御懇篤なる御見舞に接し御芳志難有厚く御礼申上候に御蔭被害は僅少に止まる見込にて平常通り一同社務に従事致居候間何卒御休神被成下度候

先は右取敢不御礼申述度如斯御座候

九州だより(第2信)

和歌山だより (第1信)

28.7.24

栗林 一馬

前略 今回南畿水害に当り御鄭重なる御見舞に預りまことに恭けなく厚く御礼申し上げます。

幸い和歌山市並に近郊は差したる被害もなく、目下災害地救援の本拠となつて居りますが罹災地は全く目も当てられぬ惨状でございます。

何れ詳しい御報告申し上げたいと存じますが、只今入手致しました状況別紙の通りでございます。

尙今回の災害は重疊峻険の山又山に囲まれた奥地を襲つた計り知れぬ豪雨に各河川の水嵩10メートル乃至20メートルに及んで沿岸の道路、人家を流し、橋梁を落し、山足を奪つては山津浪を起し、禿げ上つた山肌から噴水する奇現象を生ずる等、夥しい遭難者を出した上猶も流水と倒壊家屋の残骸を以て沿線の部落をなぎ倒しつゝ下流平野に氾濫し、人家耕作地を水没せしめ甚だしきは見渡す限り深さ2メートルにも及ぶ砂原と化した田地もあります。而して流水、屍体は海を渡つて遠く淡路、四国にまで漂流すると云う、將に山は割け海はあせん未曾有の惨害で御座いました。

けだし木の国を以て謳われた本県も過度の伐木によつて出水、山崩れを一層大きくしたものと云われて居ります先は右概況をお知らせ申し上げ、御同情厚く御礼申し上げます。敬具

7.18 和歌山県水害状況 (7月22日現)

	有田川	日高川	紀の川	その他	計
死者	185人	265	142	48	640
負傷者	510 "	3,178	14	808	4,510
行方不明	892 "	520	81	189	1,682
家屋全壊	673戸	518	51	658	1,900
同半壊	320 "	900	61	1,025	2,306
同流失	1,514 "	1,631	501	1,359	5,005
床上浸水	1,270 "	7,288	198	4,976	13,732
床下浸水	1,557 "	2,370	370	8,844	13,141
田畑流失(埋没)	—	125 町歩	226	2,321	2,672
同冠水	—	282 "	1,354	6,571	8,207
道路損壊	—	13 "	68	7,584	7,665
橋梁流失	14所	38 "	23	409	484
堤防欠壊	—	34所	790	423	1,447
山崩れ	—	7	1	1,600	1,608
被災者概数	21,740人	31,344	18,745	33,176	105,005

28.7.27

垣本 堅

前略御免下さい。

御見舞状を頂き嬉しく存じます幸いに小生の身の家等何の被害もこうむらずにすみしました直ぐ御返事を出すべき所今バスケットボールの合宿中なので御返事の遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。

取り敢ず御返事迄

28.7.27

辻本 喜次

今次の災害に早速御見舞状を頂き感激致して居ります。小宅はお蔭様で被害はありませんでしたが高野山の奥地に罹災者の救出に参りましてその惨状と水の力の言語に絶する偉大さに肌に粟を生ずる思いが致しました。

不致取御見舞厚く御礼申上ます。

28.7.25

佐々木 末吉

拝復 御見舞状有難う家屋は流失しましたが家内一同無事です。

追而 今回の水害の大なる原因は堤防の不完全に依るものと関知しています。

28.7.25

浅川組社長 長井 長一

拝啓 毎度種々御引立を賜り有り難く御礼申し上げます。扱て本月18日の本県下未曾有の大洪水に際しましては早々御丁寧なる御見舞状を辱うし深く御礼申し上げます。弊社関係従業者中不幸にして家屋の浸水せるもの数名あるも事務所並に人命には何等異状なく災害復旧に全力を挙げ居りますれば御安心賜り度

尙今後共よろしく御援助を賜ります様御願申上ます。先づは取急ぎ御礼申上ます。

28.7.24

和歌山ストレート株式会社

多田 大典

見舞有難うございます。

弊工場としてはセメントを濡らしただけで他に被害はありませんが県下水害地にある販売代理店は何れもかなりの被害があり御坊の如きは未だに人共に行方不明にて間接的の被害は少くないと予想して居ります、当面の集金等は全然出来ず経営上非常に困つて居ります。

先は右御礼旁々情况御報告まで。

28.7.23

小向商会 小向 正雄

前略 今般の豪雨に際し早速の御見舞有難く御礼申し上げます。

当地は幸い被害僅少にて平常通り営業を致して居ります故今後共何分にもよろしくお願い申し上げます。

取敢ず右御礼旁々お知らせ迄。草々



帝塚山に20年近く住んでいたのが、阪和鶴ヶ丘に越していつたのは昭和25年も6月であつた。松原住宅といつて、生垣で囲まれた樹木や花は多いが家は古るいし全く草深い田舎という感じの一廓である。

ここに専売特許の城口大正便所が使つてある。一寸、珍らしい。大正便所は仕様書に指定したことはあるが自分で使うようになるとは夢にも考えなかつたのである。どうも紺屋の白袴のようだと可笑しくもなつた。と、そんなことを城口君に云うと感慨深げに往時を追想して君は語る……。

大正9年頃でしたね。

大阪へ始めて来て、わたしの仕事と云えば兄のやつてゐる水槽便所が出来上るとその都度試験管を振り廻して汚水の浄化程度を調べ上げ、結果を府の衛生課に持参して自分がOKといえればそれで役所もOKという呑気な時代でしたかね。

大阪南郊の田辺の南に松原住宅という新構想（今から30余年前の）の住宅群ができるということです。早速出掛けてコレコレの効能がある新構法だと説明すると、宜しい、使いまひようと、たつた1度の訪問で150の注文を呉れた。未だ20代の鼻息こそ荒いが何分にも青二才だけに、こちらが驚きましたね。

ナニー、1軒に百両余計に掛ければええのやと嘯いてゐる経営者の意気、その逞しい大阪人の気魄にや吞まれましたよ。

と穏やかな口調で語をつづける。

それから引き続いて緑ヶ丘の三百と。始めはロクに相

手にして呉れなかつた瀬戸物屋も、コレハと力を入れる下請に出していた工事でも直営になる。まあ、研究所から店えの第一の礎石ですか。

こんなことですね。だから松原住宅といえは特に感慨が深いですよ。アノ、阪和線は未だ出来ていないし、暑い日盛りに股ヶ池の停留所から半里程エッチラと歩いたことを思い出しますよ。然し変りましたな。

と30有余年の回想に眼を細める……。

その城口亀吉君が6月17日午後12時15分に逝去されたという。こちらが驚きましたね。

安房の中学で泳ぎ廻つてから早稲田の理工科を出て大阪と、浮世の波濤を凌いだ君は今や静かに古山に眠る。

古山と云えば、信濃なる古城のほとり、その入口に在つた家なので城口という姓だとは、協会25周年の東北旅行での夜話、さては協会35周年の表彰式で代表として颯爽とした雄姿が、耳底に眼底に今も鮮やかにのこる。

x x x x x x x x x

大阪中の島の中央公会堂といえは、大正中期の代表的の大建築である。これにまつわる挿話二つ。

風雲に乗じた北浜の岩本という商傑が、ボンと投げ出した当時の百万円。これで大阪市に公会堂を建築寄附するという。米が1升18銭の時代の話である。快拳として一世を驚倒させたことは云うまでもない。

が、この後に痛ましい悲劇が潜んでいようとは誰が想像し得るだろうか。岩本氏は数年後に一朝の蹉跎が起つた。由来、北浜は鉄火硝煙の地、一喜一憂は恒のところ、一起一伏の修羅の巷である。岩本氏とて冷酷な運命の神の指命は免るべくもなかつたのである。氏には諸方面からの再起救済の手は温くも差し延べられた。が、これを謝して、轟然一発、この予備陸軍少尉は自らの春秋のきづなを絶つたのであつた。

……後は令弟によつてこの名家は続いたのである。

公会堂の設計は、指命の Competition として大正初期の建築界を飾るトピックであつた。懸賞設計は、既に大阪市庁舎（青年置塩章さんが賞を獲られた）、台湾総督府庁舎、稍遅れて明治神宮、国会議事堂等々があつたが、これ等は一般競技で指命というのはその頃でも珍らしい。

錚々たる大家、潑刺たる新進が駒を進める壮観の内に、岡田信一郎氏が一等を射止める。実施設計は、地元の辰野片岡事務所が当り拮据数年、功を竣えて輪奐の美を土佐堀、堂島の両川の間に現わし、鮮やかな色の交錯を波間に映じて、百万市民の歓呼にこたえた。

建築家は、今も昔もお口が賑やかである。非建築など簡明一殺の表現は無い頃であつたが、建築批評も黒田鶴心氏などの美術史家から、楽屋裏の建築家も中々の頃である。

岡田氏は竣工後の感想をいう一

出来映えは、可愛い娘を女郎に売られたような気がする、と。

ところが松井清足氏は、これに付け足して—
その娘は、始めから器量も良くなかった、と。

この話を、後年無遠慮にも岡田氏に訊ねると、フ、フ、と笑殺されたので真偽の程は判らない。尤も、両氏ともに辛辣な、良い意味での毒舌家の双璧として鳴り響いておられたのではあるが。

さて、その公会堂の現場で、始めて谷さんにお目に掛つたのである—大正6年8月某日。

あの北浜の片岡事務所での夏期実習のある日である。現場の気魄と、谷さん初め一同の意気に圧倒され、事務所と異なる現場の厳しさを身に沁みて感じたということだけが今も鮮やかに蘇る。

協会と学会との合併問題のときは、竹腰、谷両大人の驥尾に附く光栄を有した。この戦争の前である。このときに、谷さんの全容を見たような気がする。大正6年から隔つること実に4半世紀。

現場の記憶では、寧ろ冷徹寡黙な意志の一人—実は恐い親爺—とばかり思っていたのである。それが、正々の議論を展開されるのである。しかも、原稿までも作つて議を練つて来られるのだから、どれ丈啓発されたか判らない。これは智将である。

悠揚迫らないあの温容、威容、これがどれほど力づけられたかは判らなかつたのである。これは又親爺がついているのだと力強かつたのであつた。

ここで谷さんから聞いたお話の最も感銘深い一つを披露しよう。

谷さんは静かに語る—

京城に銀行が出来る時である。（註 公会堂より前のことである）辰野先生が、

君に京城の銀行の現場をやつて貰うことにした、ついで今夜宅まで来るように。

と云われたので、即夜事務所の帰りにお宅へ伺つたのである。奥へ通されて暫し待つ程に、やがて先生が現われた。先生は、いつもお宅では袴を着けておられるのだが、今日は又、羽織袴の正装なのである。

訝りながら、じつと正座して控えていると、今度は、三寶が出されるのである。しかも、白鞘の短刀、9寸5分が乗っているのである。

若いわたしが、如何なるのだらうと心に驚いたのも無理はないでしょう。判りますか……。

と微笑されながら、じつと眼をつむられる……。

それで、先生は、わたしの前に三寶を据えられて云われるには、……。

こん度の現場は、自分としても事務所としても重大な現場である。それに遠く離れて度々は見に行けない。

それで君は、わしの代理として行つて貰う。いや、わ

しとなつて行つて貰う。その精神でやつて貰う。罷り間違えば腹を切る、と。……。

わたしは、その短刀を持つて京城へ行つたのです。別に短刀のご厄介にならずに済みました。

けれども、わたしは、それからの現場でも、事業でも、恒に、辰野邸での気持を忘れないのです……と。

これで、公会堂の谷さんが読めたと思つた。この話は谷さんの処世訓でもあるが、辰野先生の一断面でもあろう。又、雷親爺と蔭で恐れられたその辰野先生の信頼を博された谷さんの人柄も、よく判る気がするのである。

今の世の現場主任に、こんな古風なことがあるだろうか、と沁みじみと思うのであつた。

x x x x x x x x x

筆の序手に、中の島の東から逍遙して見よう。公会堂の外装は、English Competition といった蒼いクローズ表紙の本がトラの全盛時代の名残を今にのこして賑やかな赤白の彩り、ファサードのアーチが力強く見る人を圧する。震災前の東京馬場先の警視庁の入口にも、少し遅れて横浜開港記念館の入口にも同じアーチがあるが、これ等は一つのアクセサリーとして変化と柔か味を与えているが、公会堂のは主役として踏んまえて睥睨していることに意匠の力強さがあり、又議論の岐れとなるのではあるまいか。

西は図書館。今でこそ位置が悪くなつたが、オーダー（範柱）の豪快さ、ベヂメントの清麗さ、デティルの周匝さ、日銀支店の前から中の島公園（今の市役所のところ）の樹の間を透してレネッサンス風の端麗さを満喫したものである。富豪住友家の寄附で同じく住友の野口博士の設計。書庫の大部は後補。今の周囲と景観は、半世紀の変遷を物語る。

次は、豊国神社から市庁舎。故会長片岡博士の遺作である。鉄筋コンクリート構造勃興期のもの。6階を全部スベアとした計画も、基礎を終つた頃には最早狭くなつたと伝えられる大阪市の躍進時代のものである。建築協会は、東大當緒課長山口孝吉氏の新案仮枠の実施と講義会を、地階施工中に開いておる—大正8年頃。

日銀支店は古い。辰野博士の設計で青年時代の片岡博士の監督。当時の耐震手法の一つ、軒上の鋼板打出しのバラストレートなど今昔の感をそそる。

それから西は、ずつと時代が下る。

一人の建築家の遺体がこれだけ踵を列ねていることは珍らしい。学校とか工場とかの一団の建物群というのならば、お粗末であるが、わたくしにも無くはない。その都市の代表的建築、その時代時代の代表的建築が、奇しくも一人の手に成るとは、誰が計画したものだろうかと思ふのである。

全く、僅か3つに過ぎないなどとは云えないのである。これを運の一字で片付けるには、余りにも割り切れない

（41頁へ続く）

谷 民 藏 君 の 訃

本会名誉会員谷民藏君が昭和28年6月23日78才を一期として病歿されましたことは誠に哀悼にたえません。

谷さんと云えばエレベーターを想う程輸送機界の元老でありました。

氏は明治9年10月29日府下北河内郡交野村郡津谷九左衛門嘉吉氏の二男として生を享け、夙に工学院大学建築科卒業辰野片岡事務所に入り大正7年頃迄に15年間建築に従事されたが、此間第一銀行や大阪中央公会堂等新建築を担当し一式直営工事実施当時斯界美望の的であつたとよく聞かされていた。成程当時所謂西洋建築としてそれらの建築が如何に世人の注目を惹き珍らしくあつたであろう事が頷かれ定めし谷さんも得意であつた事が想像され黄金時代だつたと考えられる。大正8年2月エレベーターの輸入防過、国産奨励を旗印に日本エレベーターKKを創立、10年後には皇室、国会議事堂始め民間に愛用5,000余を製作大に国産エレの声面を挙げられた。後同社が日立製作所に合併されるや昭和11年から東邦輸送機KKを創立社長になりコンベヤー其他輸送機製作に従事斯界の重鎮として大阪優良品協会理事、兵庫県金属工業組合聯合会県代表、建築設備綜合協会推薦会員並に本会理事、工学院大学支部長等関係団体役員であつた。谷さんは資性極めて強気で意気の人であり又熟の人であつたので一面傲慢だとの誤解を招かれる向があつたが人情誠に濃やかで交際久しき人には親愛され知己も多かつた。

本会には古い会員であつたが、半生輸送機界に活躍されたので若い方々にはなじみ薄だつた。然し昭和初期頃には会員委員長、春秋大会委員長、多難な



主計理事を務められ又事務局職員の退職時身分等思いを致されていた。想えば建築学会との合併協議委員となり東西に列席活躍されたのが想出の種子として残っている数年前より健康を害し27年入院奇跡的生き抜かれたが遂に長逝名物男を一人亡くし淋しく又感慨無量のものがある。さあれ人生朝露の身を以て50年と称されたのに昨年古稀を祝され78才の天寿を全うされたのは以て冥すべしと云う処ではないだろうか。

昭和27年11月24日本会35年記念祝賀会には参会者中の長老として代表、本会のため元氣な勢で万才の音頭をとられたのも昨日の様に思われ追慕の念にたえないものがある。

葬儀は6月24日自宅で近親者のみで営まれ一般知己の知らせなかつたのを遺憾として工学院大学校友会、日本建築協会、建築設備研究会有志で故人の37日に當る7月5日3時から市内北区西寺町冷雲院で慰霊祭が催された、

当日は猛烈な雨天の中にも不拘三団体有志及一般参列者70余人で故人の徳が偲ばれた。

尙当時関係各方面より弔詞弔電が多かつたが本会よりは竹腰会長が下記の弔詞を朗読又三団体有志代表として挨拶された。茲に故人の若かりし日の肖像を掲げ御冥福をお祈り申上げる。

日本建築協会の活動……お見おとしのないように……

— 会 報 6 月 分 —

定例理事会

第3回定例理事会は6月10日午後3時30分より朝日ビル本会々議室にて竹腰会長外9名出席の下に開催され、大阪住宅復興促進協議会理事島田氏（堺市建築部長）より申越の上野氏にて住宅展示会開催に関する件、協議し共催として準備委員会に当方から出席と決定。損害保険算定会大阪支所の中村技術課長より火災保険料率に於ける構造規定と関連して、基準法、消防法、料率規定の3規則の合理化に就て検討要望のため、其の主旨を災害法規両委員会と若干の関係者と共に中村技術課長の説明会を開催と決定。会員入退会詮衡。事務局上半期賞与承認。朝日ビル図書室を、会員利用の為の図書室として計るために竹腰会長が、大阪アメリカ文化センターより建築関係の寄贈図書に就て交渉と決定。議事終了後種々懇談に入り Architect Blibg の話に花が咲き散会が午後6時半に及んだ。

定例午餐会

第15回定例午餐会は6月25日正午より心斎橋十合百貨店2階グリルに於て竹腰会長、東畑副会長外50名余会員出席の下に開催し、特に今回は会員村野藤吾氏の欧米帰



朝歓迎と芸術院受賞祝賀を兼ねた午餐会で、村野氏の設計になるこの会場を選んだ。そして村野氏を囲んで出席者は熱心に「欧米建築の感想に就て」の氏の話に聴き入り盛況に2時迄午餐会はつづき散会した。

教育委員会

第1回教育委員会は6月8日午後3時30分より朝日ビル本会々議室にて鷲尾健三委員外7名出席の下に開催された。出席委員が構成委員数の半数に未たないので議事は要望事項の決定とした。〔以下要望事項〕1. 委員長1名幹事2名選出はハガキで全委員投票の事、2. 委員追加補充は官公庁。建築事務所。士会関係者よりの事。以上終了午後5時

災害委員会

第1回災害委員会は6月12日午後2時より朝日ビル本

会々議室にて池田宮彦委員長外7名出席の下に開催された。大和常務理事より既往経過、終戦以来の方針、26年度、27年度の委員会活動に就て説明後、委員は28年度に就て意見交換、地震関係、風水害関係火災関係の主旨選定と平常研究として火災保険の問題から消防署との問題を残して午後5時散会した。

日本建築協会兵庫支部役員会

28年度第1回支部役員会は6月16日午後4時より兵庫県建設業協会々館にて吉田信武支部長外10名出席の下に開催され、支部長挨拶後28年度事業計画、副支部長島崎氏選出3名制承認、建材部門より役員3名選出承認等諸事項協議後懇談会に入り盛会裡に午後7時散会した。

火災保険料算定率の構造規定説明会

特別説明会は6月17日午後3時より朝日ビル本会々議室にて伊東五郎理事外13名出席の下に損害保険算定会技術課長中村調氏を囲んで損害算定構造規定の説明会を開催された。

建築基準法3段階分類と損害算定構造規定7段階分類に於ける建築技術の立場から正しい意見と合理化に就ての要望説明後聴取出席者は中村氏を中心とした研究委員会設置を理事会に提出と決定午後5時30分閉会した。

会勢委員会

第1回会勢委員会は6月20日午後3時より朝日ビル本会々議室にて浅沼委員長外5名出席の下に開催、大和常務理事より開会挨拶、委員紹介後委員会経過報告と今後の見学講演会予定、会員獲得、会勢発展に関する協議等終了後会食懇談午後6時30分散会す。

出版委員会

第1回出版委員会は6月22日午後2時より朝日ビル本会々議室にて谷口尚武委員長外5名出席の下に開催された。28年度企画として鉄骨鉄筋の構造計算図表グラフ集の発行。施工に就ての出版等企画。右2件の取材に進む事に決定。午後4時散会した。

建築見学ゼミナー

○近畿電気通信会館見学

会勢委員会は5月28日午後1時より北区玉江町2丁目の近畿電気通信会館を見学した。建築面積、延357.31坪敷地525坪、構造、鉄筋コンクリート造、設計、日本電信電話公社建築部、施工、大成建設KKであつて、その変つたデザインに感心しつつ参加者約80名、午後3時迄

見学した。その日の説明者は電信局建築部調整係長の鹿田氏と大田氏であつた。

○建築火災防火装置実験

会勢並災害両委員会は大阪市消防局の主催の下に6月3日午後1時より城東区西鳴野5の大阪市消防学校敷地内に於て、スプリンクラー及びドレンチャー装置の作動実験を主とした火災実験を参観した。大阪市消防局の建築火災等実験実施要領と会員の近江屋防火部よりのパンフレットを手にした後130名の会員は熱心に4時20分終了迄参観した。

○神戸銀行本店新建築見学

日本建築協会兵庫支部は本部会勢委員会後援の下に6月5日午後2時より大雨の中を約30名の出席を得て神戸市生田区播磨町(神戸大丸横裏)の神戸銀行本店新築を見学。設計日建設工務加工竹中工務店、鉄筋コンクリート一部鉄骨構造、地下1階地上5階建坪約427坪余、会員の石井建材より田島応用アスファルトタイルのカタログ並に日本ゴムKK(ダンロップ)のカタログと手拭の配布を受けた。質問応答後午後4時半散会した。

○大阪生コンクリート佃工場見学

会勢委員会は日本建築協会兵庫支部と共に6月25日午後2時西淀川区佃1の大阪生コンクリート株式会社佃工場を見学した。28切可傾式ミキサー3台、混練状況、同社独得のタンブトラック(生のまま15キロ供給可能)セメント並骨材受入設備、バケットエレベーター、ベルトコンベアー其他施設を見学し、従来のコンクリート施工観念を拭い去る事を如実に感じられた。多数のコンクリートテストピースが水槽の中に見られ、各施工者名が記せられていた。見学参加会員は120名余。往復は大阪産業セメント提供の借切バス2台に乗車、大阪駅西口解散は午後4時であつた。

建材品質ゼミナー

○日本スタツコ。ドライブイツト。下田式エラスチック磁器。門田式緩止ボールトナツト。

6月6日午後3時より朝日ビル会議室にて第3回建材審査会は置塩章委員長外10名出席の下に開催検討協議を終了午後7時30分。

○キルコート。東洋スレート。門田式緩止ボールト。ドライブイツト。

6月12日午後4時より天神橋分室にて第4回建材審査会は竹内成夫審査主査外4名出席の下に開催。審査検討し終了午後7時。

○壁材、日本スタツコ。

6月19日午後3時より朝日ビル会議室にて第5回建材審査会は政岡基次審査主査外8名出席の下に開催。協議検討し終了午後5時。

会 員 会 社 消 息

移 転

○佐久間逸治一級建築士事務所(代表者)佐久間逸治

(旧)阿倍野区阿倍野筋5丁目31TEL天王寺@8168

(新)阿倍野区松崎町3丁目164TEL天王寺@6596

○東和建材株式会社(代表者)田中民三郎

(旧)西区京町堀通1丁目17TEL土佐堀(44)2716

(新)東区横堀4丁目42TEL北浜(23)8214

○館林商店(代表者)館林熊司

(旧)京都市下京区西九条大国町34(工場及び倉庫)

(新)京都市下京区大宮通四条下ル郁文校前

TEL(84)4468

○北島健二氏

(旧)住吉区粉浜東之町3の7津国治男方

(新)住吉区帝塚山西4ノ22

メンバー移動

○水谷正男氏(大阪市建築局庶務課指導係長)より

(倉敷市建築課長)に

○長谷川哲之助氏(兵庫県土木部建築課)より

(近畿地方建設局営繕部)に

○菅原輝雄氏(旭住宅総合株式会社)より

(大成住宅総合株式会社)に、TEL天王寺4217

電話番号変更と増設

○田島応用化工KK大阪出張所

(増設)土佐堀(44)1790

(既設)土佐堀(44)809, 810, 1773

○田島応用化工株式会社本社

(新)王子91

(旧)王子81

○和泉産業

(新)戎(64)3286

(旧)南(75)6276

○中央電気工業株式会社

(新)堀川(35)代表8131・8132・8133

(既設)堀川(35)5858

○株式会社三好板硝子店

(増設)戎(64)4315

(既設)戎(64)1051, 1052

○合名会社利倉幸商店

(新)南(75)471-2

(旧)南(75)547

○浅野スレート株式会社大阪支店

(新)福島(45)代表4674, 4675, 4676

(旧)福島(45)3641, 3731

新加入会員紹介

団体会員

- 石原時計店（代表者）石原実
東区大川町23中央ビルTEL北浜(23)7935
◇営業種目 建築時計製造
- 登建設株式会社（代表者）富樫徳之助
北区小深町23福島(45)4119
◇営業種目 施工業

個人会員

- 小田正一（大林組）○岡田一男（府教育委員会施設課）○角脇貞臣（自営）○北川忠（府教育委員会）○後藤善直（建築設計業）○坂田政也（清家組）○嶋本徳一（府教育委員会主任）○白石太郎（自営）○高平幸一（府教育委員会）○竹口信夫（市消防局指導課建築係長）○土井元治（佐藤建設工業KK）○中島信夫（矢島建設KK大阪支店長）○橋本政明（府教育委員会）○藤田忠三（近畿地方建設局営繕部）○森馬健次（宏電工業株式会社）○山田瑛之祐（府教育委員会）○佐原松一（富士商会店主）○山林穠一（近鉄天王寺営業局）○吉田圭太郎

（吉田圭商店主）○渡部富雄（生建工業KK）○宇都宮彦次郎（都工高）○田中満（大阪製図校）京都支部二○宮清（建築事務所自営）○川辺保夫（立命館大学）地方会員○大日向一郎（東京都建築局臨時都庁舎建設事務所）

関係団体メモ

○デザイナーの会 6月24日午後5時半より朝日ビル本会々議室にて建築と社会誌の「建築と美術」特集号を討論の材料にして執筆者を囲み、建築と美術について意見交換をした。出席者は（敬称略）熊喜之助、坂倉昭、浅野孟府、片山光生、森谷善作、井上隆章、折竹賢三郎、中井あい井上達明、小宮山孔草、大久保昌一、徳田頼、三好時次、向井正也、岩下明正、日高政法、池田遊子、則武伸明、飯田精次郎、松井照光、沖田誠一）21名で盛会に9時半散会。

○大阪住宅復興促進協議会 かねて運動を続けておられました産業労務者住宅資金融通法は、7月4日衆議院、7月10日参議院を夫々通過成立いたしました。この法律に依て受付が開始されますのは9月頃ようです。貸付率。鉄筋又はブロック6割、木造5割5分、利率、年6分5厘、償還、鉄筋ブロック、25～35年、木造、18年

編集後記



当協会は建築に携はるあらゆる部門を洩れなく網羅している事が、他のこの種団体に比して優れた異色のある点である。即ち、学究・行政・設計・施工・設備・材料と遍く全部門を包含している。

猛暑の中に、このあらゆる部門の変遷と、将来の見通しについて、夫々の部門のエキスパートを煩して、特集したのが本号である。御執筆を賜った諸先生方に深甚の謝意を表する次第である。

この雑誌は、会員の専門知識の向上に資する事を目的としている事は勿論であるが、この協会設立の最初から更に一步を進めて一般社会と緊密に連絡し、専門家以外の建築に対する知識の向上を計ると云うのが大きい目的であつたと聞いている。これは云うべくして、なかなか困難な仕事ではあるが、当協会の様な巾の広い団体に於て、始めて為し得る事であらう。

本号の内容は、如上の各部門の古きを温め、将来を察すると云う極めて興味ある、且つ有益なものであつて、之は専門家であると否を問はず、読者を益する事が大きいであらうと期待する。（松村雄吉編集理事記）

× × ×

建 築 と 社 会 第34輯 第8号

売価1部80円（送料共）

昭和28年7月25日印刷・昭和28年8月1日発行

編集発行人 沖 田 誠 一

発 行 所 社団法人 日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北浜 ②1334～9番
振替口座大阪 39975番

大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6
印 刷 者 網 野 栄

大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6
印 刷 所 株式会社研文社 電話豊崎②056番

●第三四集 第八号 掲載広告一覧（掲載順）

工英社
荏原製作所
日新工業
田島応用化工
日本耐火建材
日本ドアーチエック製造
東洋陶器
満点製作所
オリエンタルメタル製造
伊丹木材
田中工業
久保商店
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
栄興商会
三晃商会

浅海電気産業
近畿電気工事
中央電気工業
田村商会
ライト青写真工業
水島商店
岸田塗工店
鈴木シヤタア商会
大阪コンベス建材社
三舟窯業
福昌
大同鑄造
内外土木建材社
ケーアールゴム
岩元工業
三高製作所
谷山鉄工所
檜野石灰工業
田中風呂製作所
大仏組
シフカー工業所
大島応用化学工業

尾北商会
吉田芳雄商店
三幸商会
前沢商行
汎建製作所
三星タイル会
田島応用化工
佐渡島英祿商店
玉置産業
大阪建材工業
井上工材
藤森工業
木下謹三商店
杉田組協栄
大正鉄筋コンクリート
やよひスレート
東邦商会
福屋工業所
三和アスファルト化工
油脂化工社
日本金具製作所
日本セメント防水剤製造所
建材信和会事務所
伊奈製陶